

多賀城市市民活動サポートセンター
令和4年度運営業務成果報告書

特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター

令和5年3月31日

令和4年度運営業務成果報告書 目次

数字で見た令和4年度	1
令和4年度の主なトピック／出来事／メディア掲載	2
I 令和4年度運営業務報告	
1 方針	
(1)3ヵ年(令和2～4年度)の施設運営方針	8
(2)令和2～4年度ロードマップ	11
2 令和3年度成果・課題	
(1)令和4年度成果・課題	12
(2)令和4年度実施事業一覧	16
3 運営状況	
(1)利用状況集計	
1)総利用件数・貸室利用率	17
2)利用団体の活動分野	18
3)利用団体の属性	19
参考-1:主な項目の利用状況推移(平成20～令和4年度)	
参考-2:情報関連業務利用状況推移(平成20～令和4年度)	
(2)相談対応実績	22
参考-3:相談対応推移(平成20～令和4年度)	
(3)情報提供	
1)団体情報ファイル	32
2)ウェブサイト・ブログ・ツイッター	36
3)たがさぼ文庫	37
(4)場の提供	
1)事務用ブース利用状況／事務用ブース入居団体インキュベート相談	38
2)フリースペース利用状況	39
(5)他団体・他機関との連携	
1)各会議・実行委員会への参加	43
2)他部署・他機関との連携事例	51
(6)スタッフの研修への参加	58
4 事業実施状況	
(1)地域の担い手育成事業	
1)雑貨市等	59
2)いちから塾等	69
3)NPO運営パワーアップ事業	82
(2)自治会・町内会支援事業	
1)自治会・町内会支援事業	91
(3)連携による課題解決を進める事業	
1)連携による課題解決を進める事業	99
(4)情報発信事業	
1)フリーペーパー「tag」発行	109
2)コロナ禍における情報発信事業	118
II 令和5年度事業計画	
1 令和5～7年度施設運営方針	123
2 令和5～7年度ロードマップ	127
3 令和5年度事業計画	128
III 添付資料	

数字で見た令和4年度

1. 総利用者数 のべ 21,723 人

前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響はあったものの、前年度より2,830人の増加（前年度比115.0%）となった。貸室利用人数は前年度比114.8%、フリースペース利用人数は前年度比128.7%とともに増加している。コロナ禍前の平成31年度と比較すると84.4%の利用ではあるが、その差は前年度より約10%縮まり、利用が戻りつつあることがうかがえる。

→詳細は17～21ページ「3 運営状況（1）利用状況集計」を参照

2. 相談対応件数 のべ 366 件

前年度と比較すると微増（6件増）である。また、1件あたりの平均対応時間は22.1分で、前年度とほぼ同じであった。

→詳細は22～31ページ「3 運営状況（2）相談対応実績」を参照

3. 配架情報総数 1,530 種類

→詳細は21ページ「3 運営状況（1）利用状況集計 参考-2：情報関連業務利用状況推移（平成20～令和4年度）」を参照

4. 81 本の企画を実施し、のべ 1,355 人、190 団体が参加（共催事業も含む）

→詳細は59～122ページ「4 事業実施状況」を参照

5. 11 の団体・個人が、団体・活動の立ち上げや法人化の相談に来館した

→詳細は29ページ

「3 運営状況（2）相談対応実績 <市民活動相談の内訳> ●ステップ」を参照

6. 団体情報は 33 団体増えて 2,280 団体に 二市三町では 9 団体増えて 343 団体に

→詳細は32～35ページ「3 運営状況（3）情報提供 1）団体情報ファイル」を参照

令和 4 年度の主なトピック

多賀城市市民活動サポートセンター（以下、T S C）は、平成 20 年 6 月の開館以来、地域づくりの拠点として N P O や自治会・町内会、生涯学習団体等市民活動の力づけを行うとともに、市民・企業・行政等による協働の地域づくりをサポートし、開館より 14 年が経過した。

令和 2 年度～4 年度 3 ヶ年の業務委託の 3 年目となる令和 4 年度の主なトピックは下記の 4 点である。

1. 多様なセクターと連携し、課題解決へ取り組みが広がる

令和 3 年度実施の T S R 会議 2021 では、「防災とインクルーシブなまちを考える」をテーマに多様なセクターのみなさんと課題について話し合ってきた。令和 4 年度はより具体的な解決に向けたアイデア出しや実践に向かえるよう進めてきたところ、具体的な取り組みの相談も寄せられ、市民活動団体、自治会・町内会、企業、行政、市民などさまざまな立場の人が加わり、実践が生まれた。また、同じ課題意識を持つ人の横のつながりができ、多様なセクターでの活動に参加するという事例が生まれた。

2. 市民活動の多様な入口を市民に示し、新たなアクションが起こる

今年度の雑貨市では、「雑貨市きッズ講座」として小学生を対象とした市民活動を学ぶ講座を実施し、多くの小学生と保護者が参加した。雑貨市へのボランティア参加まで行い、直に市民活動に触れる機会をもつことができた。

また、生涯学習団体が自分たちの生きがいとスキルを活かして出展し、子ども食堂への寄付につながった。

3. 活動を始める人を支えるつながりづくり

今年度は 3 年ぶりに TAGAJ0 Future Labo を実施した。多賀城周辺の活動者がサポーターとして参加者の相談に乗る仕組みをつくったことで、既活動者とこれから活動をはじめる人とのつながりが生まれた。また、多賀城市で行っている創業支援事業とも連携し、より多角的なサポートにつながった。

4. 情報紙「tag」が創刊 100 号を迎えた

2013 年から発行している「tag」が 2022 年 10 月発行号で 100 号を迎えた。今年度は 1～100 号分をまとめた合冊本の作成や、100 号記念の展示を市役所や市立図書館で開催した。

この冊子によって、多賀城周辺の市民活動や地域課題、地域のさまざまな情報の変遷を知ることができる。

令和4年度の主な出来事

令和4年

4月

5日	視察	多賀城市新規採用職員研修
19日	視察	岩手県NPO活動交流センター
～25日	施設管理	事務用ブース新規入居団体募集
～25日	施設管理	事務用ロッカー・レターケース利用団体募集

5月

～1日	展示	防災まちの掲示板（1F）
14日	施設管理	事務用ブース入居審査会
15日	参加	市文化センター「春の回廊アート2022トークショー」【協力】 アウトリーチ
27日	事業	NPOいちから塾
28日	参加	Taga 懇「多賀城未来の懇談会」（城南小学校区）【協力】

6月

7日	事業	防災人ミーティング（1回目）
21日	事業	「tag」98号発行
21日	参加	もりのなかま保育園多賀城高橋園避難経路フィールドワーク・情報交換【協力】 アウトリーチ
23日	視察	いわぬま市民交流プラザ
26日	参加	Taga 懇「多賀城未来の懇談会」（山王小学校区）【協力】 アウトリーチ
5/1～30日	展示	「たがさば文庫」図書紹介（1F）

7月

1～15日	展示	TAGAJO Future Labo 紹介（1F）
15日	事業	防災人情報交換会（2回目）
16日	事業	TAGAJO Future Labo（1回目）公開トークイベント
～19日	施設管理	事務用ブース新規入居団体募集
21日	事業	NPO・市民活動団体 運営なんでも相談会
23日	参加	Taga 懇「多賀城未来の懇談会」（多賀城小学校区）【協力】 アウトリーチ
24日	事業	NPO・市民活動団体 運営なんでも相談会
24日	施設管理	事務用ブース退去報告会（6月末で退去）
27日	施設管理	消防訓練
28日	事業	T S Rアイデア実践ミーティング
29日	事業	NPO・市民活動団体 運営ふらっと相談会

8月

5/31～2日	展示	「レゴ多賀城南門」展示	
4日	事業	「tag」99号発行	
5日	施設管理	事務用ブース入居審査会	
7日	事業	雑貨市きつず講座（1回目）	
11日	事業	TAGAJO Future Labo（2回目）	
16日	事業	出前NPOいちから塾	オンライン
20日	事業	NPO・市民活動団体 運営ふらっと相談会	
25日	事業	防災人情報交換会（3回目）	
27～30日	参加	NPO法人いのちのパン ひとり親家庭への食糧支援 【協力】	

9月

8日	参加	桜木保育所避難経路フィールドワーク・情報交換【協力】	アウトリーチ
11日	事業	TAGAJO Future Labo（3回目）	
13日	参加	桜木保育所避難訓練【協力】	アウトリーチ
16日	事業	防災人情報交換会（3回目）	
23日	事業	雑貨市きつず講座（2回目）	

10月

3日	事業	出前NPOいちから塾 東北学院大学工学部講義【協力】	アウトリーチ
6日	参加	志引保育所避難訓練情報交換会【協力】	アウトリーチ
9日	事業	雑貨市きつず講座（3回目）	
10日	事業	「tag」100号発行	
13日	事業	ユニバーサルな避難所 アイデアを考える場	
13日	参加	志引保育所避難経路フィールドワーク【協力】	アウトリーチ
16日	事業	TAGAJO Future Labo（4回目）	アウトリーチ
18日	参加	志引保育所避難訓練【協力】	アウトリーチ
20日	事業	多賀城みんなの地域学 下馬編	アウトリーチ
21日	参加	八幡保育所避難経路フィールドワーク・情報交換【協力】	アウトリーチ
30日	参加	Taga 懇「多賀城未来の懇談会」（天真小学校区）【協力】	アウトリーチ

11月

1～13日	事業	「tag」創刊100号記念展示@市立図書館	アウトリーチ
1～13日	事業	雑貨市フードボックス・寄付ボックス展示@市立図書館	アウトリーチ
1～21日	施設管理	利用者アンケート	
5日	事業	ユニバーサルな避難所 実践	アウトリーチ
5日	事業	TAGAJO Future Labo サポーター個別相談	
6日	事業	多賀城みんなの地域学 笠神編	アウトリーチ
10日	事業	TAGAJO Future Labo サポーター個別相談	

令和4年度多賀城市市民活動サポートセンター年間事業報告書

12日	事業	TAGAJO Future Labo サポーター個別相談	
13日	事業	TAGAJO Future Labo (5回目) 交流会	
15～24日	事業	「tag」創刊100号記念展示@多賀城市役所	アウトリーチ
15～24日	事業	雑貨市フードボックス・寄付ボックス展示@多賀城市役所	アウトリーチ
15日	事業	出前NPOいちから塾 多賀城高校キャリアセミナー	アウトリーチ
19日	事業	雑貨市ボランティア説明会	
19日	事業	雑貨市きつず講座(4回目)	
21日	参加	八幡保育所避難訓練【協力】	アウトリーチ
22日	事業	ユニバーサルな避難所 ふりかえり	
10/13～25日	事業	「tag」創刊100号記念展示@TSC	
30日	発行	市民活動お役立ち情報 ボランティア受入発行	
30日	発行	市民活動お役立ち情報 助成金活用発行	

12月

1日	発行	「tag」101号発行	
1日	事業	出前NPOいちから塾 東北学院大学工学部講義【協力】	アウトリーチ
1～4日	展示	雑貨市展示 フードボックス・寄付ボックスの設置	
4日	事業	たがさぼのクリスマス雑貨市	
12日	参加	浜松市市民協働推進センターとの防災に関する情報交換会【協力】	アウトリーチ
13日	施設管理	事務用ブース入居団体インキュベート相談	
17日	施設管理	事務用ブース入居団体インキュベート相談	
～19日	施設管理	事務用ブース新規入居団体募集	
24日	事業	YouTube チャンネル「たがさぼチャンネル」 多賀城みんなの地域学～下馬編～ 動画配信	
27日	事業	TAGAJO Future Labo サポーター個別相談	

令和5年

1月

7日	事業	TAGAJO Future Labo サポーター個別相談	オンライン
13日	施設管理	事務用ブース入居審査会	
14日	事業	TAGAJO Future Labo サポーター個別相談	
16日	参加	東北学院大学工学部講義【協力】	アウトリーチ
21日	事業	TAGAJO Future Labo サポーター個別相談	オンライン
21日	事業	NPOパワーアップ講座「SNS活用講座」	
22日	事業	自治会・町内会新聞シェア会	
23日	事業	TAGAJO Future Labo サポーター個別相談	
24日	参加	保育所の避難訓練振り返りの会【協力】	

25 日	施設管理	消防訓練・救急救命	
29 日	参加	Taga 懇「多賀城未来の懇談会」(多賀城八幡小学校区) 【協力】	アウトリーチ
30 日	事業	TAGAJ0 Future Labo サポーター個別相談	
12/5～31 日	展示	フードボックス・寄付ボックスの設置	

2 月

1 日	発行	「tag」102 号発行	
9 日	視察	角田市まちづくり政策課	
12 日	事業	NPO パワーアップ講座「ボランティアマネジメント」	
13 日	参加	多賀城市鶴ヶ谷児童館 令和4年度地域懇談会	アウトリーチ
16 日	事業	YouTube チャンネル「たがさぽチャンネル」 多賀城みんなの地域学～下馬編～動画配信	
23 日	施設管理	事務用ブース入居団体インキュベート相談	
24 日	参加	多賀城市西部児童センター 令和4年度地域懇談会	アウトリーチ
25 日	事業	TAGAJ0 Future Labo サポーター個別相談	
25 日	事業	YouTube チャンネル「たがさぽチャンネル」 多賀城みんなの地域学～笠神編～動画配信	

3 月

1 日	発行	市民活動お役立ち情報 「非営利活動における法人格を知ろう」発行	
2～31 日	展示	「りんごプロジェクト」の展示	
9 日	施設管理	事務用ブース入居団体インキュベート相談	
13 日	施設管理	館内でのマスク着用は来館者の判断とする	
18 日	参加	Taga 懇「多賀城未来の懇談会」(多賀城東小学校区) 【協力】	アウトリーチ
18 日	事業	YouTube チャンネル「たがさぽチャンネル」 自治会・町内会新聞シェア会 動画配信	
19 日	参加	多賀城市長杯多賀城創建 1300 年交流将棋大会 市内小中学生の部【協力】	
21 日	参加	多賀城市長杯多賀城創建 1300 年交流将棋大会 一般の部 【協力】	
24 日	事業	出前NPOいちから塾	
25 日	事業	YouTube チャンネル「たがさぽチャンネル」 町内会新聞シェア会動画配信	
27 日	事業	YouTube チャンネル「たがさぽチャンネル」 NPO法人いのちのパン 団体紹介動画配信	
31 日	発行	Tagajo Sustainable Relationship 報告書 Vol.3 発行	
31 日	発行	「tag」100 号記念合本発行	

※【アウトリーチ】…市民活動やまちづくりなどへの等の興味・関心の促進のために行ったTSC外での活動を示している。(主催、共催、協力を含む)

※【協力】…外部の団体と協力・連携して行った活動。詳細は本報告書51ページ「3 運営状況(5) 他団体・他機関との連携 2) 他部署・他機関との連携事例」を参照。

メディア掲載

令和4年

7月4日	河北新報(夕刊)	仙台圏イベント情報 TAGAJ0 Future Labo～多賀城未来実験室スペシャルトーク
9月12日	河北新報(夕刊)	志民の輪 とびらを開く 「連携して守る子の命～多賀城の保育園、NPO、郵便局…」
9月13日	TBS	桜木保育所避難訓練の様子
9月13日	NHK	桜木保育所避難訓練の様子
9月13日	ミヤギテレビ	桜木保育所避難訓練の様子
9月13日	KHB	桜木保育所避難訓練の様子
9月13日	仙台放送局	桜木保育所避難訓練の様子
9月20日	河北新報(朝刊)	いのちと地域を守る もしもに備え訓練真剣～お散歩中に津波警報が出たら…
11月21日	河北新報(夕刊)	志民の輪 ふみだす info 手作りの小物ずらり 雑貨市
11月29日	東北放送ラジオ	「en ∞ Voyage」tag100号発行
12月1日	BayWave ラジオ	「ラジカルト！」たがさぼのクリスマス雑貨市告知
12月5日	河北新報(夕刊)	志民の輪 とびらを開く「海ごみを自分ごとに」
12月10日	河北新報(朝刊)	かわいい雑貨品定め

I

令和 4 年度運営業務報告

I -1 方針

(1) 3ヵ年（令和2年度～4年度）の施設運営方針 ※前年度より変更なし

令和2年度～4年度の3ヵ年の業務委託に際し、施設運営方針を以下のように定めた。この方針に基づいて事業立案や運営を行っている。

T S Cが目指す多賀城のまちの姿

- ・ 共通する課題や手段ごとに、自治会・町内会、NPO、企業、学校、行政等のさまざまな主体が連携している。
 - ・ さまざまな年代の方が、多様な方法で地域に関わっている。
- それによって、防災、高齢者、障がい者、子育てなど、地域のさまざまな課題が自治の力によって解決されている。

3年後（令和4年度末）の姿

5つ程度の現状の枠を超えた動きが出ている。

複数の動きでは、成果が見え始めていることにより、新たな連携が生まれたり、成果が出ている動きに他の主体も参加し始めたりしている。

T S Cの役割

地域の自治力を高めること

取り組み

(1) 地域の担い手の育成

○市民

- ・ 社会課題・地域課題や市民活動・地域活動に関心を持つ市民を増やす。
- ・ 想いを持つ人が活動に踏み出せるようにする。

→【事業案】

- ・ 市内で行われているさまざまなプロジェクトの見本市を開催し、地域へのさまざまな関わり方を示すとともに、想いやスキルを持った方の参加のきっかけの場をつくる。
- ・ 地域の課題に見える化し発見する力を育成し、担い手となる人たちを掘り起こす。
- ・ 雑貨市
- ・ NPOいちから塾

○NPO

- ・自団体の強みを知る
- ・取り組んでいる課題のことを企業等に伝えられる
- ・課題設定、課題解決のプロセスが描ける

→【事業案】

- ・情報発信力強化
- ・NPO自らが、課題を見える化し、共感を得て、多様な参加を得られるような力づけを行う。

○自治会・町内会

- ・運営課題解決のためのサポート
- ・住民の関わり開発のサポート

→【事業案】

- ・各自治会・町内会が持つ課題やノウハウを共有する場をつくる。
- ・自治会・町内会自らが、課題を見える化し、共感を得て、多様な参加を得られるような力づけを行う。
- ・事例ポイント集の作成
- ・地区の話し合いのサポート

○企業

- ・地域を知る
- ・NPOを知る
- ・地域貢献活動に取り組む

→【事業案】

- ・NPOいちから塾
- ・市内で取り組まれているさまざまなプロジェクトの見本市を開催し、地域へのさまざまな関わり方を示すとともに、想いやスキルを持った方の参加のきっかけの場をつくる。

○支える人材（行政等）

- ・行政、地区公民館、地域包括支援センターなど、市民の活動に関わるスタッフの支援力を高め、支援の環境を強化する。

→【事業案】

- ・自治力を高めるために必要なスキルを学んだり、お互いに協力できるような関係づくり
- ・NPOいちから塾

(2)連携による課題解決を進める

- ・自治会・町内会だけでなく、地域を構成する一員である企業（事業者）やテーマごとに専門性を持って活動するNPOをつなぎ、連携を生み出す。

→【事業案】

- ・連携を促す場づくり

- ・伴走型支援

(3) 情報発信

- ・上記内容を発信する。

→【事業案】

- ・月刊フリーペーパー「tag」発行

(4) 運営主体をひろげる

- ・他主体との連携を進める。

運営上の工夫

- 主催事業において要約筆記や託児が受けられたり、多言語で対応できる状況を整備し、あらゆる方への参加の機会の保障を進める。
- TSCの役割を広めるために、市内外のイベントへの出展は積極的に行う。イベントの特性にあわせたプログラム開発に努め、よりわかりやすく市民活動を伝えていく。
- 限られたスタッフ数で効果を最大限に発揮するために、事務の効率化を図る。

(2) 令和2年度～4年度多賀城市市民活動サポートセンターロードマップ

2020年3月

※前年度報告書より転載

大項目	対象	現状(○)と課題(●)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和4年度末に 目指す姿
地域の 担い手の 育成	市民	○市民活動やボランティアを体験する場をつくることができた ○事業参加をきっかけに、課題解決につながるアクションを起こした人が増加し、またコミュニティも生まれた ○市内外のイベントに出展し、市民活動への理解を広めることができた ●TSCの認知度が低く、また市民活動に興味関心のない人の割合が高い	・地域課題を考える場に参加する ・現在活動している方の事例から学び、活動の入り口を見つける			◎社会課題・地域課題や市民活動・地域活動に関心を持つ人が増えている ◎多くの市民が、何らかの形で地域での活動に関わっている
	NPO	○情報発信の支援に重点を置き、講座などの成果を活かした団体が多かった ○団体運営に関する相談が高い割合を占めるようになっている ●担い手不足、資金調達などの課題を持つ団体が多い	・自団体の強み、弱みを分析する力を高め、実際に分析を行う	・力を借りたい人や団体に自団体のことを発信する ・団体運営力のアップを図る		◎団体の強み、弱みを自己分析し、発信できている ◎連携の対象として、信頼感が増している
	自治会・町内会	○課題を把握するとともに取り組み事例の収集ができた ●自治会・町内会活動の担い手が不足している	・自分の自治会、町内会の現状を知る ・地域の現状や未来について、地域の多くの人が参加できる体制を整える ※TSCとして制度改革後の地域の現状を把握している、関わり方が見えてきている	・勉強会を通して、地域の課題、今後ありたい姿やそのためのアクションを考える ・アクションのために必要なスキルや知識を学び、実践につなげる	・これまで考えたこと、学んだことを実践に移し、課題の解決につなげる ・他の主体と連携してのアクションやプロジェクトを実施する	◎多様な関わり方による事業が生まれている ◎いろいろな人の小さな力を集めて課題に向かっている ◎運営課題を解決できている
	企業	○課題を把握するとともに取り組み事例の収集ができた ○調査をベースにTSCとの接点が増えた	・知る機会、連携に加わる機会をつくる			◎地域の課題解決の場面に参加している
	支える人材 ※包括支援センター、公民館、行政など		・自治会、町内会支援の方向性を共有する ・自治とは？を見つめ直す ・地域の取り組みに伴走する	・伴走を行うにあたって足りないスキルや知識に気づく	・伴走に必要なスキルや知識を学び、実践の場で活かす	◎自治支援の方向性が共有され、連携ができている ◎支援者が、地域や市民からの相談に応じることができている
連携による 課題解決を 進める		○さまざまな主体が設定したテーマについて一緒に考え、課題解決に向けた基盤づくりができた ○企業とNPOとのマッチング事例が生まれた ○第六次総合計画の基本的姿勢の中に、「市民協働を推進する」ための計画であると明記されている	・地域の今(特に自治体・町内会から出るテーマ)を多様な主体で共有し考える ※可能であれば、「TSR Vol.3」の実施も視野に入る	・地域の今(特にNPOの取り組み)を多様な主体で共有し考える	・連携事例の報告および今後の取り組みを多様な主体で考え、発信する ・取り組みのまとめ冊子作成？	◎多様な主体による連携が進んでいる ◎各主体が、連携のよさを感じている
情報発信		○「tag」紙面をリニューアルした ○ウェブサイト、ブログの月平均訪問者数が増えている	・各プロジェクトや連携に関する発信を行う			◎地域づくりについて知る機会が設けられている
TSC 運営主体を 広げる			・他主体との連携を進める			
備考			・区長制度廃止、新たな自治会・町内会運営へ ・小学校新学習指導要領実施 ・国勢調査 ・東日本大震災から10年	・第六次総合計画の始まり(～令和12＝2030年度) ・中学校新学習指導要領実施 ・市制施行50周年	・高等学校新学習指導要領実施(2024＝令和6年度まで、年次進行で実施)	・東北学院大学工学部が移転(2023＝令和5年) ・多賀城創建1300年(2024＝令和6年)

I-2 令和4年度成果・課題

(1) 令和4年度成果・課題

＜施設運営方針に沿った成果・課題＞

3ヵ年（令和2年度～4年度）の施設運営方針に沿って、事業実施も含めた令和4年度のTSC運営全体の成果・課題は以下のとおりである。事業実施の詳細は、本報告書16ページ「(2) 令和4年度実施事業一覧」を参照。

1) 地域の担い手育成

【成果】

- クリスマス雑貨市では、来場者のうち半数が新規来場者となり、買い物やワークショップを通して市民活動を知る機会を提供した。
- 初めて開催した雑貨市きっず講座では、活動者のお話と体験、クリスマス雑貨市でのボランティア体験を通して、子どもたちが地域の課題を知る機会を提供できた。保護者の同席により更なる広がりが生まれた。
- NPOいちから塾を実施し、これから活動を始めてみたい方にはNPOの基礎知識を知り、活動に一步踏み出すきっかけを、活動している方にとっては、自分たちの活動を見直す機会を提供した。受講者同士の出会いの場にもなり、新たな活動にもつながった。
- 出前NPOいちから塾では、高校・大学においてNPOやTSCのことを伝え、次世代の担い手育成に取り組んだ。
- 3年ぶりに開催したTAGAJ0 Future Laboでは、自分の想いを整理するワークや活動実践者のトーク、受講者同士の話し合いを重ねる中で、活動の軸が明確になるなどの変化が見られた。最終回の交流会において受講者同士だけでなく、地域の活動者との新たなつながりが生まれた。また、終了後もサポーターによる個別相談や、必要に応じて出前NPOいちから塾などのプログラムを提供することによって、想いをかたちにする後押しを継続した。
- 市民活動団体に対しては、相談会開催やその後の継続的な相談対応を通して、広報、情報発信ツール、資金調達などの運営課題に対して具体的なアクションが生まれている。また、広報とボランティアマネジメントに関する講座を実施することによって、実践的なノウハウを提供するだけでなく、参加団体同士で情報交換するといった横のつながりづくりの機会になった。
- これまで自治会・町内会にあまり関わっていなかった人を対象に、昔の写真等をきっかけに地区の魅力や災害の状況を共有する機会を設けることで、地域に関心を向ける機会を創出した。また、自治会・町内会新聞シェア会の開催や、各自治会・町内会の取り組みを取材しブログで発信することによって、それぞれの工夫やアイデアを共有し、活動や運営に活かす機会を提供することができた。
- 連携事業において、事業所等への地域貢献活動に関するヒアリングを進めることによって、地域の担い手発掘につながった。
- 「防災」に関心のある人が集まる場を設けたことで、課題意識を持つ新たな人材発掘につながった。

【課題】

- 雑貨市は、出展団体やボランティア、当日来館した市民がより主体的に社会課題をとらえ、その後の活動や生活につなげていけるような、運営形態や関わり方の工夫が必要である。
- 事業参加者への継続的なフォローアップを行う必要がある。
- コロナ禍で町内会活動自体が中止となり、これまで関わっていなかった人や新しい手法での関わりの事例は生まれなかった。地域の連携の在り方として、自治会・町内会単独での動きではなく、課題に対して関わる地区が連携して取り組んでいけるような動きや、役員でなくてもさまざまな立場での関わりしろが生まれるような働きかけが必要である。

2) 連携による課題解決を進める

【成果】

- 前年度に実施したT S R会議をきっかけに、こども防災の日をつくる会の取り組みを進めた。特に、保育所の避難訓練を通して、市民活動団体・自治会・事業者・行政・T S Cとの連携が進んだ。また、ふりかえりの会を実施することによって、今後も継続した地域との関係づくりを進めることができた。
- 防災に関心のある方同士が集まる場を設けることによって、新たな人材発掘につながり、参加者同士で連携した防災の実践例やユニバーサルな避難所に必要なアイデア出し、実践を行い、当事者や避難所担当職員等に体験する機会を設けることができた。
- 相談対応では、市民活動団体と社会教育施設をつなぐことによって、市民活動団体が地域で力を発揮する機会を増やすことができた。

【課題】

- 直近3年間はコロナ禍の影響を受け、企業による地域での取り組みはあまり多くはなかったが、課題解決のためには企業の役割は重要である。そのため次年度は企業が連携の取り組みに参加できるようなアプローチを実施する

3) 情報発信

【成果】

- 現在利用している情報発信ツールの連動や更なる活用を行うことで、市民が市民活動に関する情報に触れる機会を増やすことができた。
- エントランスを活用して災害発生時に支援情報の発信を強化し、市民が行動を起こせるような情報発信を行った。特に寄付ブースを一定期間設置し、来館者に対して社会貢献の方法を周知することができ、寄付にもつながった。また「tag」へも掲載したことにより、寄付の相談が寄せられるなど、市民の新たな行動につながった。

【課題】

- 各情報発信ツールのさらなる周知を図り、企画力を上げ、市民活動に関する情報を得る媒体として定着させていく必要がある。

＜各属性への支援＞

各属性の特徴や現状に合わせて、以下のような支援を行った。

【市民活動団体】

- 相談会や講座と継続的な相談対応を通して、広報、情報発信ツール、資金調達などの運営課題に対して具体的なアクションが生まれるよう支援を行った。
- 対面での講座の中で、団体同士が交流する機会にもなり、新たなつながりづくりにもなった。

【自治会・町内会】

- 自治会・町内会新聞シェア会の開催や、各自治会・町内会の取り組みを取材しブログで発信することによって、それぞれの工夫やアイデアを共有し、活動や運営に活かす機会を提供することができた。

【企業】

- コロナ禍の影響もあり数カ所ではあったが、事業所を訪問し、取り組みについて聞き取りを行い、地域の担い手発掘につなげた。

【学校・学生】

- ボランティア活動を導入したい中学校・高校からの個別相談を受け、情報共有等を進め、市民活動・地域活動への学生の参画について検討を重ねた。
- 出前いちから塾を高校・大学で実施し、NPOの基礎や活動を知る機会を提供した。また、クリスマス雑貨市やSNS活用講座でボランティアとして活動する機会の提供や、自治会・町内会関係者との情報交換の機会を設けるなど、講義だけでは得られない経験・学びを提供できた。

【行政】

- 地域福祉など行政各課が実施するネットワーク型会議や実行委員会に参加し、各課、市内活動者などの各主体と連携して地域課題について考えることができた。

【生涯学習団体】

- 市の地域学校協働本部事業に関連して、ボランティア募集に関する相談を受けた。TSCから生涯学習団体に呼びかけ、実際の参加につながった。
- クリスマス雑貨市では、TSCと連携し生涯学習団体のもつスキルを活かして参加し、子ども食堂への寄付につながった。

【個人】

- TAGAJ0 Future Labo で、受講者同士はもとより、地域の活動者との新たなつながりが生まれた。
また、終了後もサポーターによる個別相談等によって、想いをかたちにする後押しを継続した。
- 市民活動団体のボランティア募集情報を収集・公開することによって、市民が活動に一步踏み出すための情報提供を行った。
- 寄付ブースを設けることで、具体的なアクションにつなげることができた。

(2)令和4年度実施事業一覧

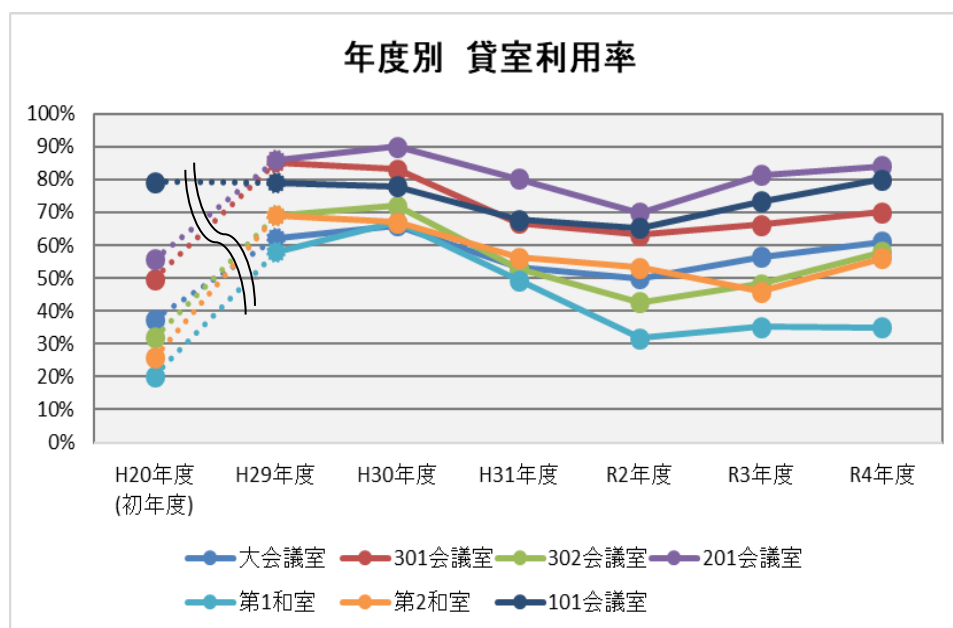
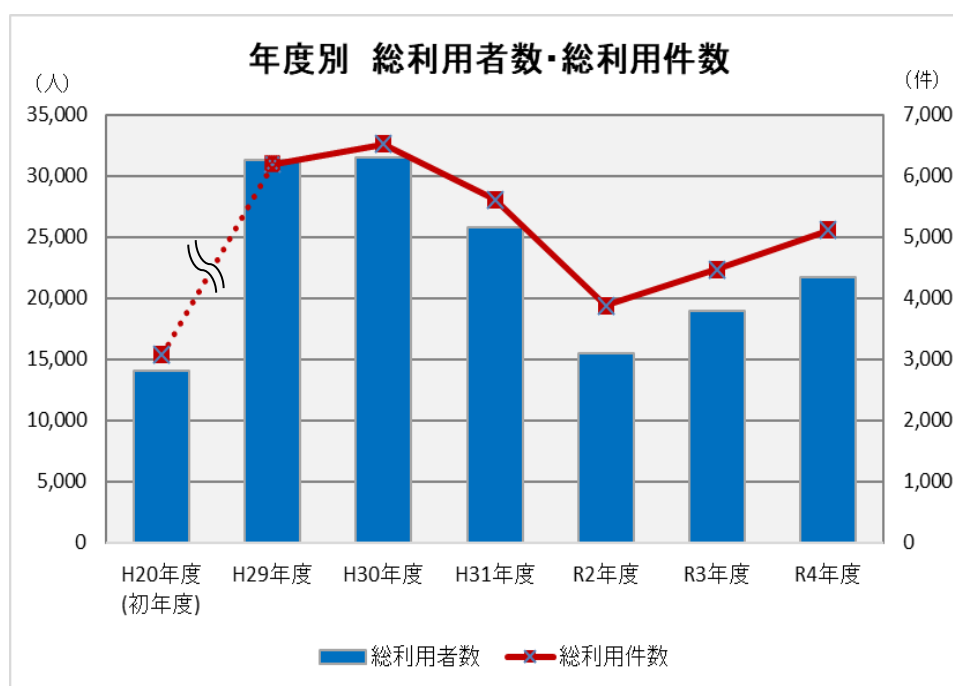
大事業	小事業	主な目的	概要	主な対象	成果目標	実施目標	4～3月実績	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
地域の担い手育成事業	1 雑貨市等	・市民活動に参加する入口をより多く示し、活動に関わる人を増やす	・市民が市民活動に触れる機会の提供 ・団体が市民向けに情報を発信する場の提供 ・市民が活動に参加する機会の提供	市民 (無関心層、役に立ちたい層)	○雑貨市きつず講座とクリスマス雑貨市に、合計して250名が参加・来場する。 ・うち150名(参加・来場者の60%)が、雑貨類の購入やワークショップへの参加、展示を通して、市民活動団体やその活動内容、地域・社会課題を知る、あるいは新たな気付きを得る。 ・うち175名(参加・来場者の70%)が、その後も団体の支援につながる雑貨類の購入をしたい意向を持つ。 ○事業実施を通して、75名(参加・来場者の30%)に新規で来館してもらう。 ○インスタグラムの雑貨市アカウントのインタラクション数を、平常月の200%以上獲得する。	・雑貨市きつず講座(5回連続講座)の開催 ・クリスマス雑貨市の開催	【雑貨市きつず講座】 ○1回目 8/7(日) 参加:12名 保護者6名 ○2回目 9/23(金・祝) 参加:12名 保護者7名 ○3回目 10/9(日) 参加:9名 保護者4名 他2名 ○4回目 11/19(土) 参加:出展団体21団体 きつず12名 保護者5名 ○5回目／雑貨市当日 【展示】 ○11月1日(火)～13日(日) @多賀城市立図書館 ○11月15日(火)～24日(金) @多賀城市役所 【クリスマス雑貨市】 日時:12月4日(日) 10:30～15:00 出展団体:33団体(内新規13団体) 一般ボランティア:13名 きつずボランティア:13名 来場者数:535名					キッズ●7	キッズ●23	キッズ●9	説明会キッズ●19 展示○	クリスマス●4				
	2 いちから塾等	・NPOの知識を深め、想いを整理することし地域課題へ気づくための視野を広げていく。 ・参加者とOB及び地域の既活動者が出会い、互いが刺激し合える場づくりを通して多賀城やその周辺地域の市民活動の一層の活性化を目指す。 ・市民活動に一歩踏み出した人をTSC・地域の既活動者らがサポートできるような関係性を育む	・NPO基礎講座 ・想いの整理や活動者の話を参考にして、アクションプランづくりを行う講座(TFL) ・活動者同士の交流する場	市民 (役に立ちたい層、気づいた層、ボランティアしたい層)	・事業への参加を通して市民が何らかのアクションを3件以上起こす	・NPOいちから塾を1回を開催 ・Tagajo future Labo(5回連続講座)の開催 ・出前いちから塾の実施(随時)	【TFL】 ○1回目(公開講座) 7/16(土) 参加:16名 ※連続講座申込12名 ○2回目 8/11(木・祝) 参加:10名 ○3回目 9/11(日) 参加:7名 ○4回目 10/16(日) 参加:8名(受講生7名、他1名) ○5回目 11/13(日) 参加:16名(受講生6名、サポーター4名、TFL卒業生2名、他4名) ○サポーター相談 11/5(土)、11/10(木)2件、11/12(土)、12/27(火)1/7(土)、14(土)2件、21(土)、23(月)、30(月)、2/25(土) 【NPOいちから塾】 ○5/27(金) 参加:10名 【出前いちから塾】 ○8/16(火) 参加:2名 ○10/3(月)東北学院大学工学部講義 参加:8名 ○11/15(火)多賀城高校キャリアセミナー 参加:8名 ○12/1(木)東北学院大学工学部講義 参加:2名 ○3/24(金) 参加:2名			いちから●27		TFL1●16	TFL2○11 出前●16	TFL3○11	TFL4○16 出前●3	交流発表会○13 サポーター相談○27 サポーター相談○5.10.12 出前●15	サポーター相談○27 出前●1	サポーター相談○7.14.21.23.30	サポーター相談○25	サポーター相談○24
	3 NPO運営パワーアップ事業	・自団体の強み弱みを知り、団体運営力のアップを図る ・他団体や他セクターと連携し地域課題解決に取り組むために必要な発信が行われている	・インキュベート相談や窓口相談からのスキルアップ講座 ・運営力、発信力アップ講座 ・NPO・市民活動ボランティア情報の立ち上げ ・お役立ち情報の更新(2～3タイトル)	NPO・市民活動団体	・相談会参加団体が、運営課題解決のための目標に向けて取り組み始めている。 ・相談会・講座参加団体の運営課題のうち1つが、改善もしくは解決している。 ・情報発信力アップの結果、市民からの協力・共感・賛同などが増えている団体が3以上出ている。 ・ボランティア情報収集により実際にボランティアにつながる事例が1つ以上生まれる。 ・ボランティアの新たな情報を5つ以上増やす。	・なんでも相談会、ふらっと相談会開催 ・事務用プース入居団体インキュベート相談会の運営 ・NPO/パワーアップ講座2テーマ実施 ・ボランティア情報収集・掲示 ・市民活動お役立ち情報3テーマ作成	【ボランティア募集情報】 ・7件を館内掲示とブログにて発信 【相談会】 ○NPOなんでも相談会 7/21(木)1団体1名 7/24(日)1団体3名 7/29(金)1団体1名 ○ふらっと相談会 7/29(金)1団体3名 8/20(土)1団体2名 ○インキュベート相談会 参加:4団体 12/13(火)・12/17(土)・2/23(木)・3/9(木) 【NPOパワーアップ講座】 ○1/21(土)SNS活用講座 参加:17名 ○2/12(日)ボランティアマネジメント 参加:20名 【お役立ち情報】 3テーマ完成 1-②ボランティア受け入れガイド 2-②非営利活動における法人格を知ろう 4-②助成金を活用してみよう				なんでも相談会●21.24 イン○	ふらっと相談●29		お役立ち2テーマ○	イン○13.17	講座●21 お役立ち1テーマ○	講座●12 イン○23	イン○9		
自治会・町内会支援事業	4 自治会・町内会支援事業	・各地区の取り組みを共有することによって、課題解決に向けた新たなアクションを生み出す ・他の主体と連携した取り組みの実践が生まれる	・役員以外が町内会の課題解決に参加する場づくり実践(1～2回) ・町内会活動のヒアリング、情報の蓄積 ・自分の地域を知る機会、発信する場 ・地域コミュニティ課主催の学校区での情報交換会への参加とテーマ型情報交換会の実施 (6地区×3回、テーマ型3回)	自治会・町内会役員でない地域の人	・ヒアリングを通して事例の蓄積と情報発信を行う(新しい地区ヒアリング:5地域、情報発信:10回以上) ・これまで自治会・町内会に関わっていない人が多様な手段で活動に参加する意識をもつ、新しい手段方法での運営課題解決につながる場が生まれる。(1事例以上) ・住民が自らの地域の魅力を発信する(新たに1事例以上) ・情報交換会で新たに地域課題を知ること、参加している様々なセクターが課題解決の意識をもつようになる(3地域)	・ヒアリング、情報発信10回以上 ・役員でない市民が町内会の課題解決に参加する場づくり実践 ・自分の地域を知る機会、発信する場づくりのサポート ・地域コミュニティ課主催の小学校区での情報交換会への参加とテーマ型情報交換会の実施 ・運営課題解決に向けた伴走支援等	○地域の人が地域のことを発信する事業「多賀城みんなの地域学」 ・10/20(木)下馬地区 18名 ・11/6(日)笠神地区 17名 ○自治会・町内会新聞シェア会&困りごと解決相談会 ・1/22(日) 参加:11地区14名 ○ヒアリング・情報発信 ・多賀城市史跡案内サークルのまちあるき参加(高崎) ・城南地区住民等異展 取材・ブログ発信 ・多賀城市史跡案内サークルのまちあるき参加(浮島) ・東田中南自治会 ハッピークラブ活動 取材ブログ紹介 ・各地区へ夏まつりのヒアリング ・児童館・貞山高校・東北学院大へ地域との関わりについてヒアリング ・城南自治会 サポーター制度について ・城南ふれあいコンサート取材 ・個人情報についてと自治会・町内会新聞シェア会&困りごと解決相談会動画													
連携による課題解決を進める事業	5 連携による課題解決を進める事業	・課題に向けて効果的な関係をつくり、解決の実践の場につなげていく ・連携事例を発信することで新たな連携のきっかけをつくる	・課題を深掘りし、アイデアを出しあう場 ・課題解決のための実践的な取り組み ・寺や企業など連携に必要なセクターへのアプローチ ・ユニバーサル視点の発信 ・取り組みのまとめ冊子作成	市民企業 NPO 自治会・町内会学校	・多様な主体同士でアイデアを出し合い、3件以上の実践を行う。 ・新たに連携を築いた企業や寺院など3団体が連携の取り組みに参加する。 ・情報発信することでTSCに情報や課題が2件以上寄せられる。	・課題やアイデアを実践する場を3テーマ以上実施する ・連携に必要なセクターへのヒアリング・アプローチを行う(アンケート30社、ヒアリング10社) ・セクター間のつなぎの場づくり、実践のサポートを行う ・報告書の発行	【保育所の避難訓練】※協力 ・9/13(火) 桜木保育所 参加:52名 ・10/18(火) 志引保育所 参加:71名 ・11/21(月) 八幡保育所 参加:29名 ・1/24(火) 避難訓練振り返りの会 参加:29名 【防災人ミーティング】 ・6/7(火) 参加:16名 ・7/15(金) 参加:19名 ・8/25(木) 参加:15名 ・9/16(金) 参加:9名 【TSR会議発ミーティング】 ・7/28(木) 参加:10名 【ユニバーサルな避難所】 ・10/13(木) アイデアを考える場 参加:9名 ・11/5(土) 文化センターで実践 参加:52名 ・11/22(火) ふりかえり 参加:5名 【ヒアリング】 ・新田地区、化度寺、日本積層造形株式会社、貞山高校 【報告書】 ・2020年度～2023年度の3年度分の報告書 2,000部作成				防災人●7 TSR会議発MT●28	防災人●15	防災人●25	桜木保育所避難訓練●13 防災人●16	ユニバーサルな避難mtg●13 志引保育所避難訓練●18	ユニバーサルな避難●5 八幡保育所避難訓練●21	避難訓練振り返りの会●24		報告書●	
	6 プリーペーパー「tag」発行	・市民活動や連携に関する発信を行う ・市民が市民活動に触れる機会を増やす	・情報紙tag発行(隔月A3) ・連携に関する発信 ・情報提供の場の開拓 ・100号記念冊子、展示等	活動者 潜在的活動者 無関心層 受益者	・市民活動に対する意識が変化し、市民・団体によるアクションが5件以上起きる。 ・ブログでの発行告知のアクセス数、102号発行時(令和5年2月)に98号発行時の1.5倍にする。 ・TSC利用者アンケートにおける「利用なし」「初めて知った」の割合を前年度の60.2%から50%以内に減少させる。 ・配置場所を23ヵ所増やす。	・情報紙「tag」発行(5回) ・100号記念展示会の実施 ・100号記念冊子の作成 ・新たな配置場所の開拓	【tag】 ○6/21(火) 98号発行(2,000部) 2団体/5名を掲載 ○8/4(木) 99号発行(2,000部) 4団体/4名を掲載 ○10/10(月) 100号発行(2,000部) 4団体/6名を掲載 ○12/1(木) 101号発行(2,000部) 4団体を掲載 ○2/1(水) 102号発行(2,000部)4団体を掲載 【tag創刊100号記念展】 ○10/13(木)～11/25(金) 会場:TSC1階エントランス・2階フリースペース ○11/1(火)～13(日) 会場:多賀城市立図書館2階共有スペース ○11/15(火)～25(金) 会場:多賀城市役所1階ロビー 【tag100号記念合本】 ○3/31(金)1号～100号までを1冊に綴じた合本(50部発行)				98号発行●	99号発行●	100号発行●	100号展示○	101号発行●			102号発行●	100号冊子○	
情報発信事業	7 コロナ禍における情報発信事業	・市民活動や連携に関する発信を行う ・市民が市民活動に触れる機会を増やす	・動画によるTSC、他事業との連携での発信、市民活動団体の発信 ・情報発信媒体(HP、ブログ、Twitterなど)の連携	活動者 潜在的活動者 無関心層 受益者	・ブログの訪問者数が毎月3,800件以上になる。 ・動画コンテンツに関心を示し、定期的に情報を得るためのアクションとして、12人(前年度増加したチャンネル登録者数)以上が新たにYouTubeチャンネルに登録する。	・ウェブ媒体による情報発信全体計画の作成及び、この計画に沿って発信の実施 ・事業レポート動画配信(2本) ・団体紹介動画配信(2本)	【事業紹介動画】 ○「町内会事業・みんなの地域学～下馬編～」12/24(土)公開 ○「町内会事業・みんなの地域学～笠神編～」12/16(木)公開 ○「自治会・町内会 シェア&困りごと解決相談会」3/18(土)公開 【団体紹介動画】 ○「NPO法人いのちのパン」3/27(月)公開										事業○	事業○	事業○ 団体●	

I -3 運営状況

(1) 利用状況集計

1) 総利用件数・貸室利用率

今年度は総利用者数 21,723 人(前年度比 115.0%)、総利用件数 5,114 件(前年度比 114.6%)となり、ともに前年度より増加した。令和2年度より新型コロナウイルス感染症の影響でTSCの一部休館や、活動を休止・縮小する団体、活動参加者の減少があったが、今年度はイベント規制などが緩和され始め、コロナ禍前のペースでの活動を再開した団体が多くなってきたことが要因に挙げられる。実際、前年度比で貸室利用の件数は 207 件増(112.9%)、人数が 2,497 人増(114.8%)となった。利用件数に至ってはコロナ禍前(平成31年度)の数値に戻りつつある。TSC主催事業においても、オンラインでの企画や参加人数を制限した実施は減少し、コロナ禍前の形での開催に戻りつつある。



2) 利用団体の活動分野

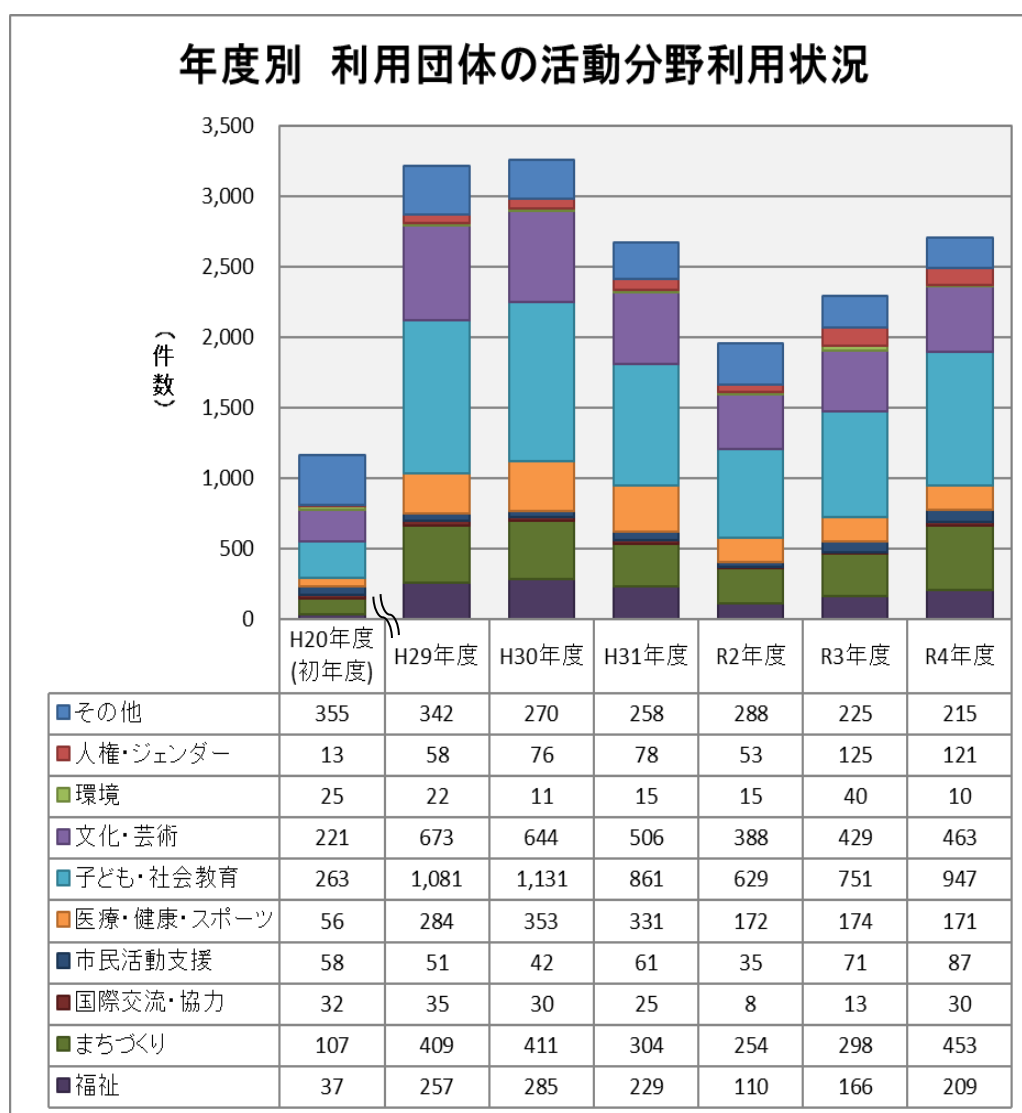
貸室、情報サロン、交流サロン、ギャラリー

事務用ブース利用者の利用票提出および印刷機利用に基づく利用団体の活動分野

利用の総数は、2,706件と前年度より414件増加した（前年度比118.1%）。前記の通り、コロナ禍以前のペースで活動を再開した団体が多くあったためと考えられる。

利用の多い分野は順に「子ども・社会教育」、「文化・芸術」、「まちづくり」、「福祉」、「医療・健康・スポーツ」となっており、この5分野はすべて前年度より増加している。「子ども・社会教育」「文化・芸術」には生涯学習活動やサークル活動の多くが含まれており、TSCの分野別利用の中で多くなる傾向がある。それとともに子育てや子ども支援の団体・サークルの利用も一定数あり、このことも「子ども・社会教育」の件数が多い一因となっている。また、「まちづくり」については、自治会・町内会の印刷機利用によるものも含まれている。

今年度、利用が最も増加したのは「国際交流・協力」で、前年度比230.8%となった。留学生に語学を指導する団体のフリースペースの利用など、多文化共生に関する活動を支える場としてもTSCは機能していた。

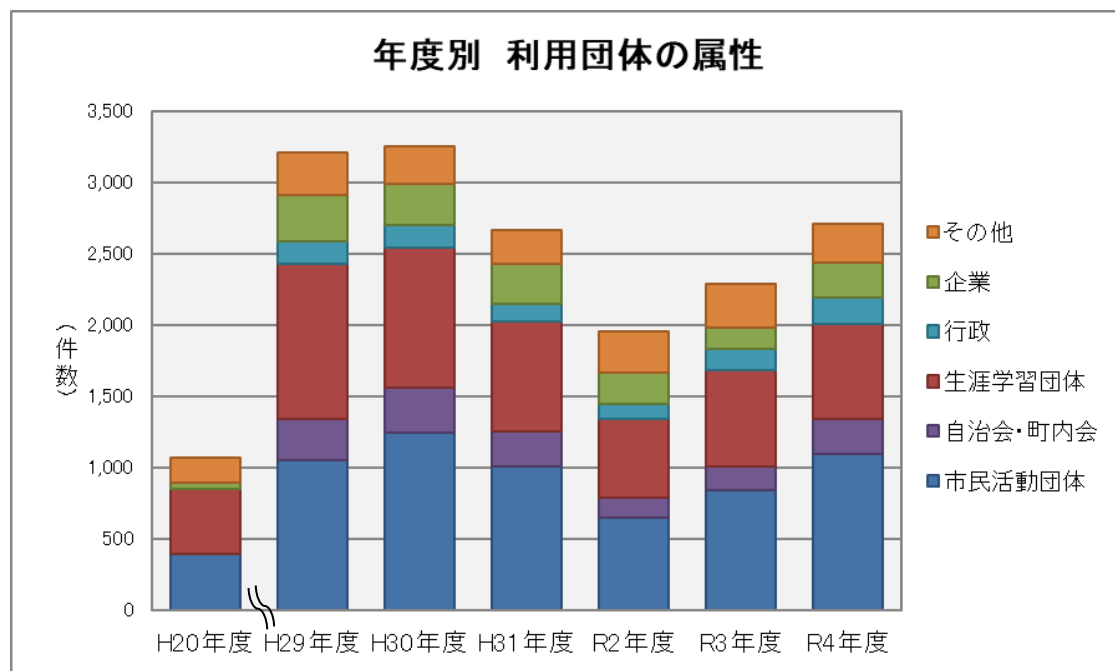


3) 利用団体の属性

貸室、情報サロン、交流サロン、ギャラリー、共同事務室の利用票及び印刷機利用に基づく利用団体属性

市民活動団体 : 1,092 件 生涯学習団体 : 664 件 企 業 : 241 件
自治会・町内会 : 250 件 行 政 : 187 件 その他(個人など) : 272 件

属性別内訳では、ここ数年同様「市民活動団体」が最も多く 40.4 %、次いで「生涯学習団体」が 24.5%の順となっている。この割合はほぼ一定であり市民活動団体の活動の拠点として機能していることがうかがえる。「生涯学習団体」以外、すべての属性で利用が増加しており、特に「企業」が前年度比 162.8%、「自治会・町内会」が前年度比 156.3%となるなど、徐々にコロナ禍以前の利用状況に回復していることがわかる。



■年度別利用団体の属性 (単位: 件)

	H20 年度 (初年度)	H29 年度	H30 年度	H31 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度
その他	365	304	265	244	283	311	272
企 業	244	326	285	276	225	148	241
行 政	127	152	157	126	100	154	187
生涯学習団体	961	1,091	989	769	553	675	664
自治会・町内会	70	292	317	243	145	160	250
市民活動団体	418	1,047	1,240	1,010	646	844	1,092
合 計	2,185	3,212	3,253	2,668	1,952	2,292	2,706

参考-1：主な項目の利用状況推移（平成20～令和4年度）

		貸室		フリースペース			印刷機	情報揭示	パソコン	相談対応		レターケース	総利用	
		利用件数	利用人数	利用件数	利用人数	カウント数	利用件数	受付件数	利用件数	件数	人数	取扱数	件数	総数
		件	人	件	人	人	件	件	件	件	人	件	件	人
平成20年度		972	13,170	125	404	959	378	878	190	297	346	189	3,065	14,001
平成21年度		1,366	18,992	90	220	1,337	551	1,031	356	309	374	437	4,162	19,641
平成22年度		1,242	16,229	87	251	1,168	619	1,267	168	354	397	195	3,944	16,951
平成23年度		1,971	26,769	149	539	1,596	801	1,186	195	527	647	260	5,100	28,015
平成24年度		1,889	22,922	229	597	1,646	918	1,385	288	287	375	537	5,543	23,951
平成25年度		1,442	16,488	143	410	1,137	807	1,587	114	226	306	701	5,032	17,236
平成26年度		2,069	24,170	113	591	1,921	814	1,861	34	340	412	363	5,612	26,420
平成27年度		2,213	26,178	228	794	2,273	838	1,856	21	315	364	417	5,903	28,524
平成28年度		2,044	24,209	310	930	2,409	625	1,871	40	320	421	432	5,651	26,507
平成29年度		2,260	28,674	349	1,278	3,293	603	2,033	89	328	401	511	6,182	31,299
平成30年度		2,256	28,583	371	1,368	3,169	626	2,070	126	465	536	594	6,515	31,502
平成31年度		1,849	23,314	291	1,030	2,742	527	1,800	147	414	504	585	5,614	25,734
令和2年度		1,354	13,899	311	685	631	287	1,224	104	363	408	229	3,878	15,520
令和3年度		1,601	16,875	355	856	869	337	1,416	226	358	445	165	4,462	18,893
令和4年度	4月	130	1,321	23	63	123	57	125	37	34	43	14	422	1,602
	5月	154	1,462	25	61	89	41	108	30	33	34	21	413	1,635
	6月	147	1,549	42	67	98	43	127	16	28	30	70	474	1,721
	7月	165	1,809	55	127	205	30	164	27	34	43	25	500	2,042
	8月	120	1,232	50	83	114	32	111	19	27	30	15	374	1,398
	9月	148	1,463	42	79	120	29	158	20	35	41	18	450	1,635
	10月	162	1,613	41	71	98	32	116	14	28	34	19	412	1,776
	11月	161	1,694	39	174	111	28	135	14	17	18	13	407	1,930
	12月	136	1,579	43	97	101	12	121	11	22	23	14	359	1,726
	1月	156	1,900	36	85	142	26	129	9	21	26	24	401	2,055
	2月	150	1,532	42	84	116	28	95	22	17	18	10	365	1,690
	3月	179	2,218	55	111	142	47	141	25	70	86	20	537	2,513
令和4年度計		1,808	19,372	493	1,102	1,459	405	1,530	244	366	426	263	5,114	21,723
前年度比		112.9%	114.8%	138.9%	128.7%	167.9%	120.2%	108.1%	108.0%	102.2%	95.7%	159.4%	114.6%	115.0%
平成20年度～令和4年度総計		26,336	319,844	3,644	11,055	26,609	9,136	22,995	2,342	5,269	6,362	5,878	75,777	345,917
各年度の平均		1,756	21,323	243	737	1,774	609	1,533	156	351	424	392	5,052	23,061

※フリースペースの利用件数・人数は利用票提出分

※フリースペースのカウント数はスタッフによる定時見回り時ののべ人数

※平成29年度より、TSC事業分も貸室・フリースペースの利用件数・人数として集計

※平成26年度より、印刷機・パソコンの利用人数も集計

参考-2：情報関連業務利用状況推移（平成20～令和4年度）

		印刷機		コピー機	パソコン	情報揭示					貸出図書		
		利用件数	枚数	利用枚数	利用件数	チラシ	団体パンフレット	ポスター	ニュースレター	計	登録者数	貸出件数	貸出冊数
		件	枚	枚	件	件	件	件	件	件	人	件	冊
平成20年度		378	218,318	4,767	190	496		105	277	878			
平成21年度		551	342,248	5,708	356	544		103	384	1,031	37	100	132
平成22年度		619	361,553	4,689	168	649		140	478	1,267	19	132	109
平成23年度		801	479,306	5,355	195	572		118	496	1,186	24	76	116
平成24年度		918	603,693	7,677	288	549	106	167	563	1,385	29	122	158
平成25年度		807	576,452	4,830	114	697	109	136	645	1,587	18	98	137
平成26年度		814	566,837	5,331	34	843	112	214	692	1,861	20	89	127
平成27年度		838	722,674	7,813	21	857	142	222	635	1,856	13	151	215
平成28年度		625	509,592	7,538	40	869	131	215	656	1,871	7	138	209
平成29年度		602	435,167	9,520	89	953	147	286	647	2,033	11	60	87
平成30年度		626	452,528	9,634	126	1,024	114	281	651	2,070	10	75	102
平成31年度		527	460,836	5,799	147	879	119	226	576	1,800	10	63	95
令和2年度		287	288,941	2,494	104	500	86	103	535	1,224	14	63	94
令和3年度		337	325,919	3,796	226	642	98	148	528	1,416	20	85	121
令和4年度	4月	57	104,737	570	37	53	8	12	52	125	1	11	12
	5月	41	28,587	236	30	39	6	17	46	108	1	6	7
	6月	43	31,868	459	16	59	5	17	46	127	0	7	9
	7月	30	49,103	478	27	71	12	24	57	164	0	2	2
	8月	32	26,596	350	19	64	1	12	34	111	0	2	3
	9月	29	17,803	145	20	77	6	22	53	158	0	2	3
	10月	32	25,747	263	14	51	5	15	45	116	2	1	1
	11月	28	58,069	166	14	72	8	9	46	135	0	2	3
	12月	12	31,825	158	11	50	7	14	50	121	0	5	7
	1月	26	21,741	345	9	67	5	9	48	129	1	5	8
	2月	28	16,752	421	22	40	4	7	44	95	0	6	11
	3月	47	48,364	465	25	54	9	11	67	141	1	8	11
令和4年度計		405	461,192	4,056	244	697	76	169	588	1,530	6	57	77
前年度比		120.2%	141.5%	106.8%	108.0%	108.6%	77.6%	114.2%	111.4%	108.1%	30.0%	67.1%	63.6%
平成20年度～令和4年度総計		9,135	6,805,256	89,007	2,342	10,771	1,240	2,633	8,351	22,995	238	1,309	1,779
各年度の平均		609	453,684	5,934	156	718	113	176	557	1,533	17	94	127

※平成24年度から、パソコンの利用件数は「作業」「インターネット」を分けて集計する。
 ※平成24年度から、情報揭示の利用件数は新たに「団体パンフレット」を加える。

※平成21年6月開設

（２）相談対応実績

＜相談対応の流れ＞ ※前年度より変更なし

●相談対応

市民活動に関する相談は、開館時間中にいつでも対応できるような体制を整備している。

↓

●記録

- ・相談対応票に記録
- ・相談を分類

支援対象について：主に初めて利用する方に対して、団体の目的や活動内容を確認し、施設の設置趣旨と照らした上で、支援対象か否かを判断している。

施設利用相談：施設の利用方法などの問い合わせに対するもの

市民活動相談：ホップ…ボランティア相談、市民活動団体の情報提供
ステップ…任意団体立ち上げやNPO法人化に関する相談
ジャンプ…資金調達、広報など団体運営に関する相談

受益者からの相談：NPOなどのサービスを求めている方からの相談

その他の他：TSCの運営についての問い合わせなど

↓

●共有

- ・継続対応が必要なものは、1日2回の申し送りの時間にスタッフ間で共有
- ・月2回（1回あたり1時間程度）ケースミーティングの開催
すべての相談対応をスタッフで共有し、各相談対応の経過確認を行い、継続事案にあつては以後の対応方針の決定、相談対応研修、業務改善などにつなげている。
- ・相談対応記録を担当理事および地域コミュニティ課に報告し、適宜情報提供・助言などを行っている。

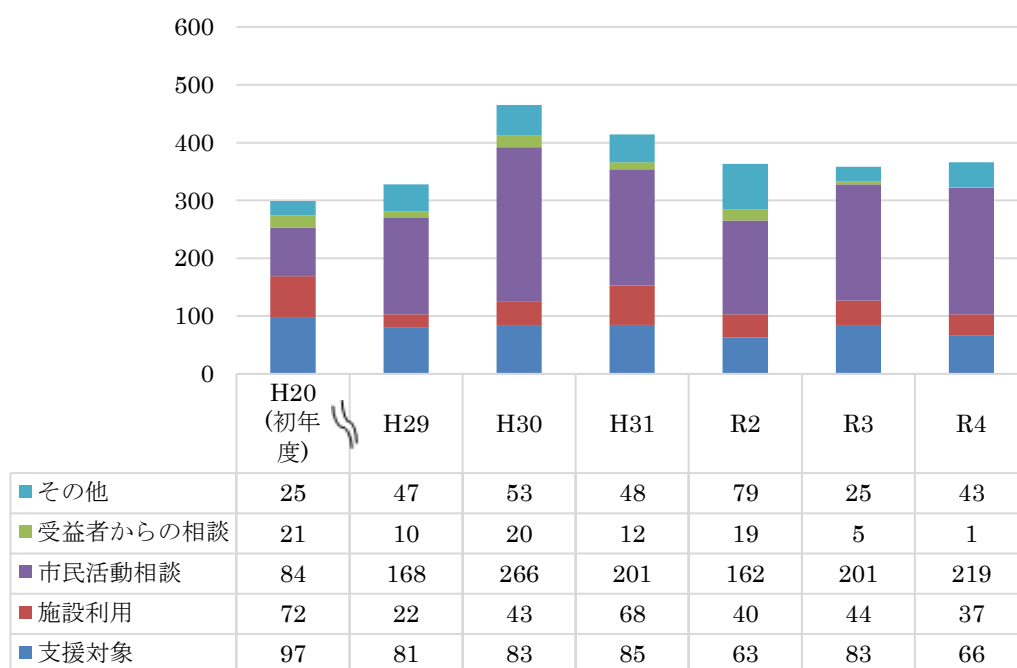
＜相談件数 令和4年度比較＞

総 件 数 366 件（月平均 30.5 件）

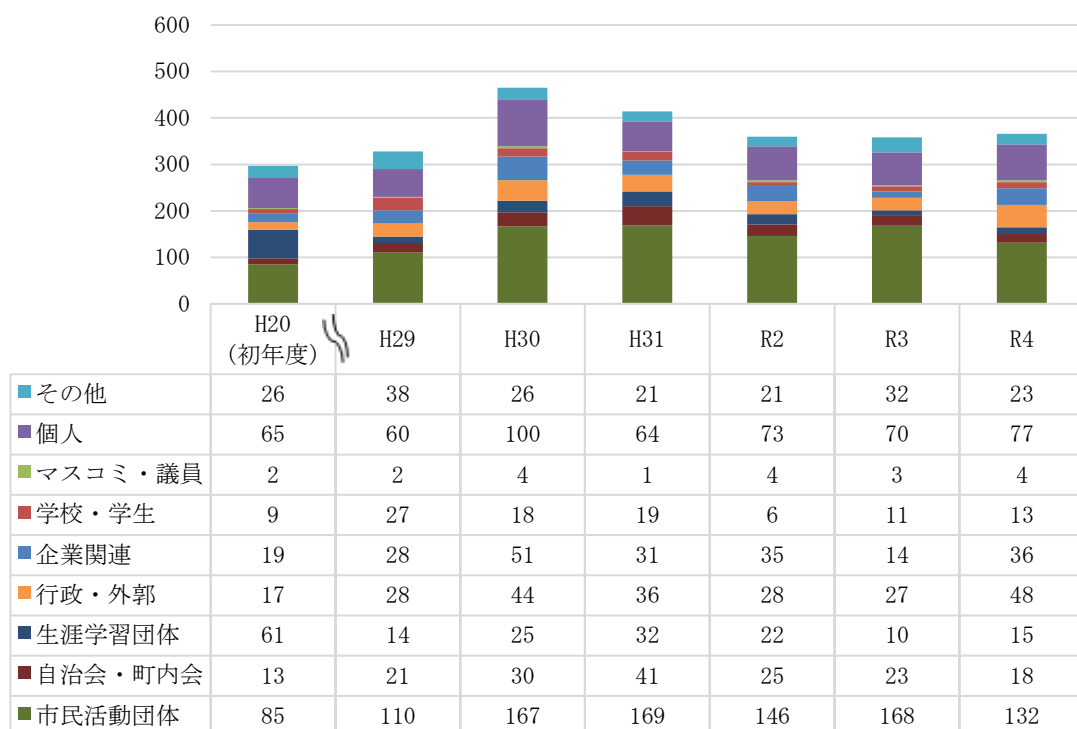
総対応時間 8,082 分（1 件平均 22.1 分）

今年度は、年間の相談件数は前年度より 8 件増加し、相談対応時間は総計 8,082 分で前年度より対応時間が 231 分増加した。市民活動相談が 18 件増加し、支援対象相談が 17 件減少した。これらのことからコロナ禍で活動を自粛していた市民活動が活発に動き出したことがうかがえる。また、新規に貸室などの利用がある場合に支援対象の判断をしており、支援対象相談数は新規利用団体数と直結するため、支援対象相談の減少から新規利用団体が減少したと推測できる。

相談件数 平成20～令和4年度比較（件）

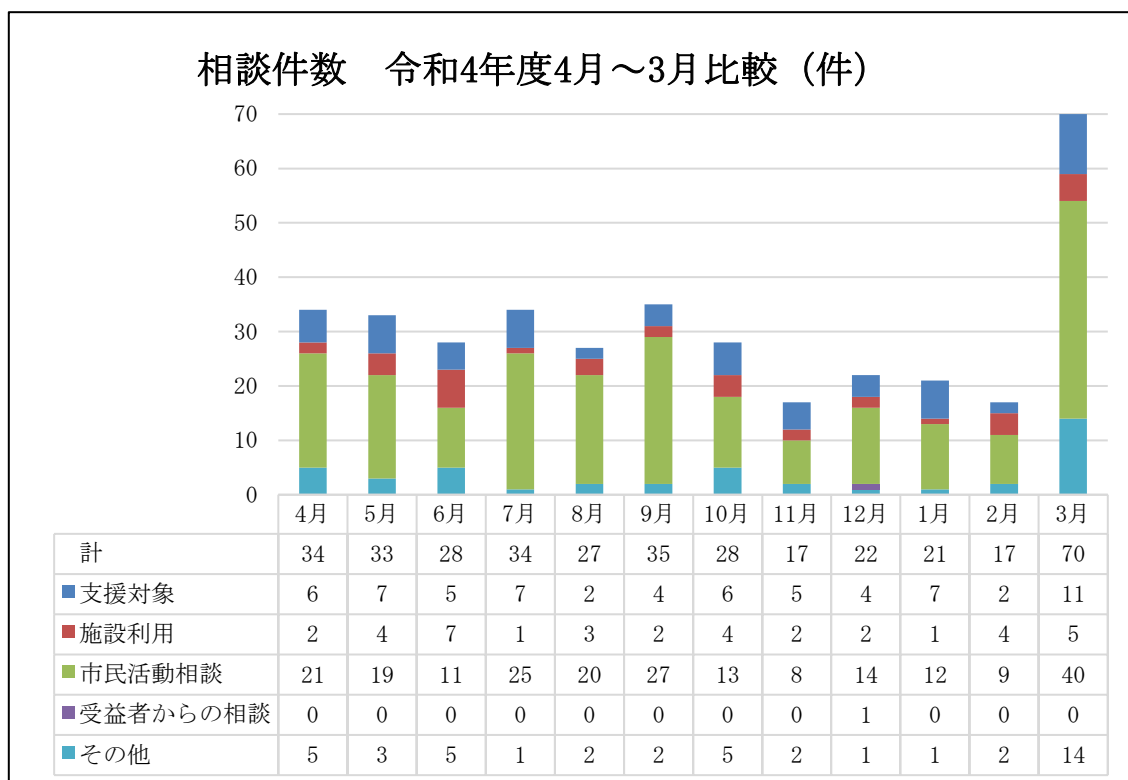


相談者属性 平成20～令和4年度比較（件）

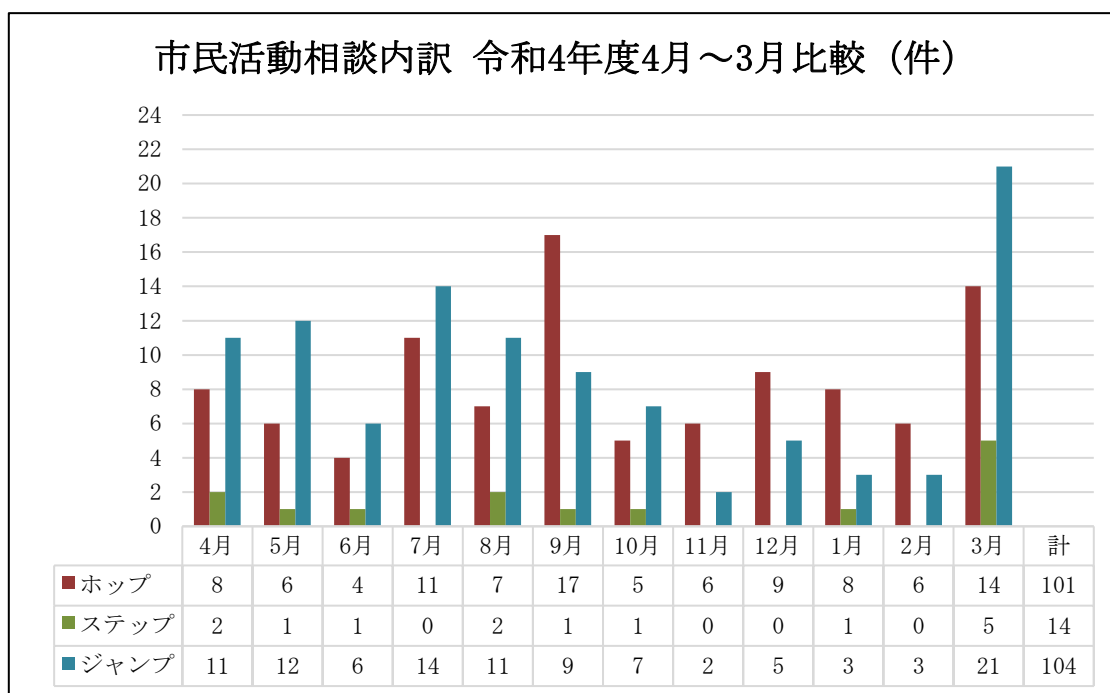


相談者属性は、例年通り市民活動団体が最も多く、ついで個人からの相談が多かった。前年度と比べて、自治会・町内会からの相談は夏祭りなどのイベントがコロナ禍での自粛により中止になったこともあり、5件減少した。また、企業からの相談が22件、行政・外郭団体からの相談が21件増加した。これらは地域課題や市民活動に関して、企業や行政・外郭団体が連携する事例が増えてきたことが要因に挙げられる。市民活動団体からの相談は36件減少しているが、市民活動相談件数は18件増加していることから、市民活動団体以外の市民活動の動きがあったことがうかがえる。

<相談件数 月別比較>

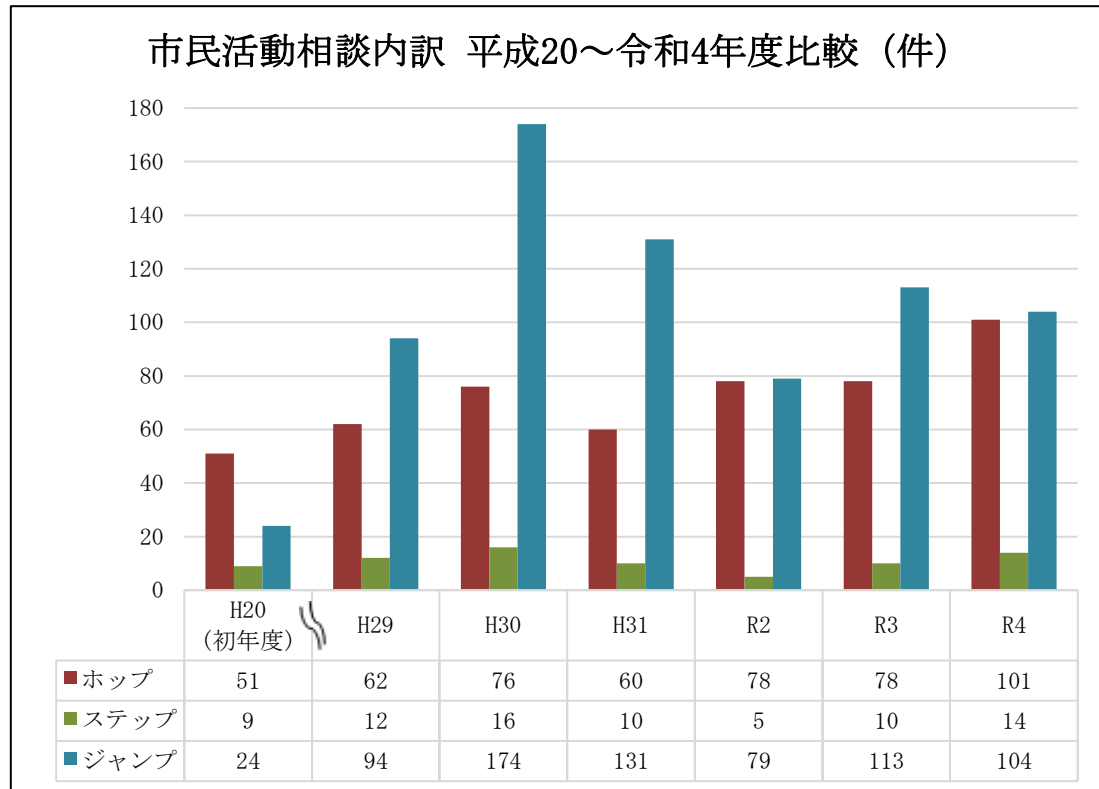


今年度は上半期の相談件数はほぼ一定していた。11月～2月の相談件数は減少しているが、その期間に実施したTSC事業の「TAGAJ0 Future Labo」の終了後のフォローアップ相談を3月にまとめて報告したものが多いため、3月の件数は多くなっている。また「TAGAJ0 Future Labo」に関わる相談の傾向として活動への想いの整理・プランづくり・実践に関するものが多かったことから、3月は「市民活動」と「その他」の相談件数が多くなっている。



市民活動相談に関しては団体情報の問い合わせなどの「ホップ」は9月に件数が多く、団体運営に関する「ジャンプ」は上半期に多くなっている。9月のホップでは、団体の立ち上げやイベント運営に関する他セクターからの連携先や団体情報の問い合わせなどの相談が多かった。上半期のジャンプでは、助成金やイベントの時期と重なったため、これら団体運営に関する相談が多かった。

＜市民活動相談の内訳＞



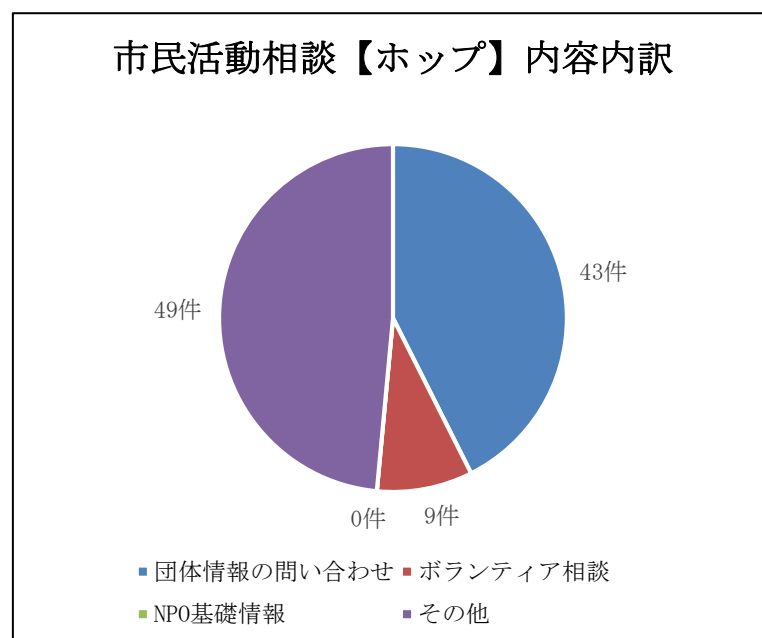
市民活動相談の段階別件数は、前年度と比べて「ホップ」が約 1.3 倍、団体立ち上げや法人設立などの相談の「ステップ」は約 1.4 倍、「ジャンプ」は、約 0.9 倍となっている。ここ 2 年間はコロナ禍で活動を自粛・縮小する傾向が見られたが、今年度は活動を再開したり、新たな活動を始めようとする動きがあった。

次ページ以降、市民活動相談のホップ・ステップ・ジャンプの各々の相談内容について記載する。

●ホップ

…NPO基礎情報、ボランティア相談、市民活動団体の情報提供など

市民活動相談 219 件の内、ホップ 101 件（46.1%）



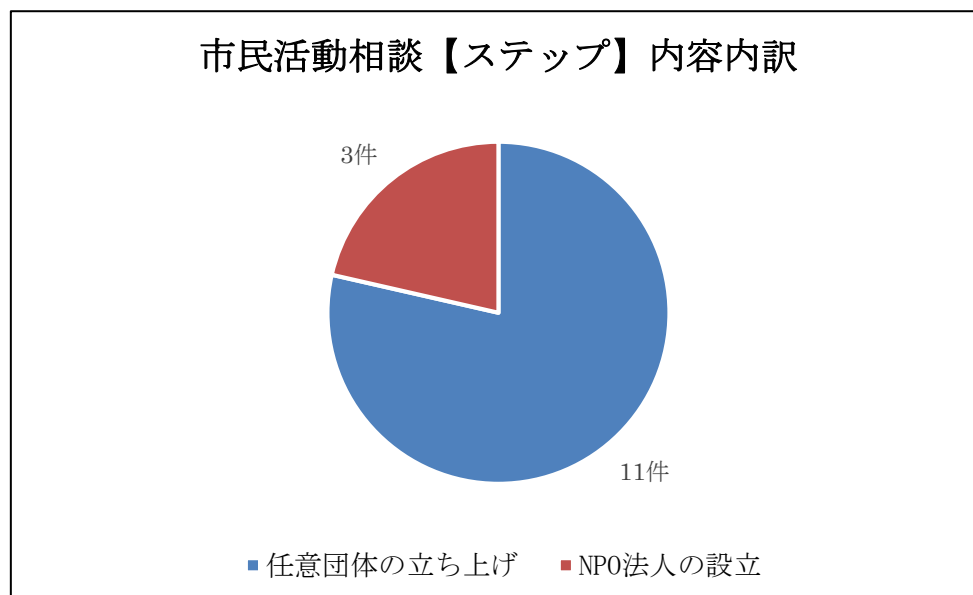
「ホップ」の相談は、前年度と比べると 23 件増加した。ボランティアをしたい個人から団体情報の問い合わせがあったり、たがさぼ Press や tag を見て団体情報の問い合わせがあった。

また、「その他」の相談は、「TAGAJ0 Future Labo」の事業内で受けた相談が多かった。

●ステップ

…任意団体立ち上げやNPO法人化に関する相談

市民活動相談 219 件の内、ステップ 14 件（6.4%）



「ステップ」の立ち上げ相談内容は、個人で「何か始めたい」、あるいは活動の基盤を整えるために団体にしたいと考える人からの相談が多かった。また、インターネットでTSCを調べて事前に連絡をした上で来館したり、口コミでTSCを知っての相談もあった。

令和4年度 立ち上げ相談を行った団体・活動（9 団体／活動）

団体・活動名	活動内容	備考
個人	子どもの学習支援	来館しての相談
個人	子育て世代・子どもの居場所づくり、一時保育	来館しての相談 TAGAJ0 Future Labo 交流会に参加
個人	当事者の居場所づくり	電話での相談
まんどろスマイル	子どものあそび場	来館しての相談
個人	ヨガサークル	来館しての相談
個人	食のフリースクール	来館しての相談
個人	親子の集まる場	TAGAJ0 Future Labo 受講者
個人	子育て中の女性の支援	来館しての相談
個人	薬草に関する勉強会	TAGAJ0 Future Labo 受講者

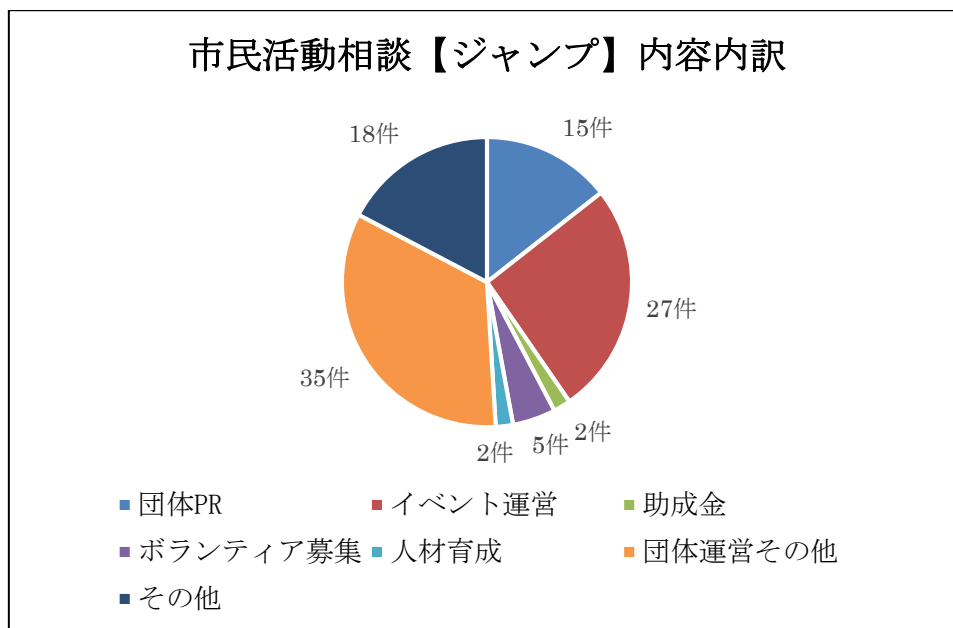
令和4年度 団体の法人化のサポート（2 団体）

団体・活動名	活動内容	備考
株式会社真恵堂	市民の健康増進	NPO法人化の相談
宮城こどもホスピスプロジェクト	こどもホスピスの設立	NPO法人化の相談

●ジャンプ

…資金調達、広報など団体運営に関する相談

市民活動相談 219 件の内、ジャンプ 104 件（47.5%）



前年度はNPO運営パワーアップ事業のアフターフォローや継続しての相談対応により、令和2年度より30件以上増加していたが、今年度は前年度より9件減少した。相談内訳は「団体運営その他」が35件で33.7%を占め、次に「イベント運営」の相談が多かった。

「団体運営その他」では、団体運営の全般についてや、いくつかの要因が重なるような相談が多く、相談を通じて少しでも運営課題が解消するよう努めた。

また、コロナ禍で中断していたイベントの再開や新規イベントの企画運営などについて、他セクターとの連携に関する相談なども多かった。

参考-3:相談対応推移

		H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4															総計
1. 件数、人数、属性など		計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計			
相談件数 (件)		299	310	354	527	287	226	340	315	320	328	465	414	363	358	34	33	28	34	27	35	28	17	22	21	17	70	366	5,272		
開館日 (日/月)		253	305	289	306	306	304	306	306	307	305	306	307	305	304	26	27	25	27	26	26	27	25	24	24	24	26	307	4,516		
件数平均 (件/日)		1.2	1.0	1.2	1.7	0.9	0.7	1.1	1.0	1.0	1.1	1.5	1.3	1.2	1.2	1.3	1.2	1.1	1.3	1.0	1.3	1.0	0.7	0.9	0.9	0.7	2.7	1.2	1.2		
人数 (人)		348	374	386	645	375	307	377	357	421	401	536	504	408	445	43	34	30	43	30	41	34	18	23	26	18	86	426	6,310		
対応時間月計 (分)		5,558	6,345	7,434	10,476	7,664	5,412	7,593	7,182	8,209	8,499	11,110	9,334	6,513	7,851	685	505	515	940	470	798	505	261	505	365	325	2,208	8,082	117,262		
対応時間平均 (分/日)		22.0	20.8	25.7	34.2	25.0	17.8	24.8	23.5	26.7	27.9	36.3	30.4	21.4	25.8	26.3	18.7	20.6	34.8	18.1	30.7	18.7	10.4	21.0	15.2	13.5	84.9	26.3	26.0		
対応時間平均 (分/件)		18.7	20.5	21.0	19.9	26.7	22.5	22.1	23.1	25.5	25.9	23.9	22.5	17.9	21.9	20.1	15.3	18.4	27.6	17.4	22.8	18.0	15.4	23.0	17.4	19.1	31.5	22.1	22.2		
対面	件数 (件)	235	235	267	322	187	152	213	224	224	211	303	275	220	221	21	21	17	25	17	19	14	11	14	14	10	52	235	3,524		
	対応時間月計 (分)	4,858	5,789	6,572	8,463	6,481	4,585	6,295	6,165	5,984	7,279	9,055	7,535	5,256	6,172	565	360	430	865	370	580	390	215	440	305	260	1,963	6,743	97,232		
	対応時間平均 (分/件)	20.7	24.6	24.6	26.3	34.7	30.2	29.6	27.5	26.7	34.5	29.9	27.4	23.9	27.9	26.9	17.1	25.3	34.6	21.8	30.5	27.9	19.5	31.4	21.8	26.0	37.8	28.7	27.6		
電話	件数 (件)	58	67	81	195	87	72	119	99	88	105	137	115	126	126	13	9	9	8	7	13	13	5	5	7	7	14	110	1,585		
	対応時間月計 (分)	605	501	656	1,944	1,008	812	1,262	1,007	2,050	1,076	1,875	1,399	1,096	1,274	120	70	65	70	75	143	105	45	40	60	65	155	1,013	17,578		
	対応時間平均 (分/件)	10.4	7.5	8.1	10.0	11.6	11.3	10.6	10.2	23.3	10.2	13.7	12.2	8.7	8.7	9.2	7.8	7.2	8.8	10.7	11.0	8.1	9.0	8.0	8.6	9.3	11.1	9.2	11.1		
その他	件数 (件)	4	7	6	9	13	2	8	2	8	12	25	24	17	10	0	3	2	1	3	3	1	1	3	0	0	4	21	168		
	対応時間月計 (分)	95	55	206	39	175	15	36	10	175	133	180	400	161	405	0	75	20	5	25	75	10	1	25	0	0	90	326	2,411		
相談者属性	市民活動団体 (件)	85	82	106	155	99	80	93	106	110	110	167	169	146	168	12	15	13	9	13	13	9	4	8	6	2	28	132	1,808		
	自治会・町内会 (件)	13	14	25	18	27	18	31	28	14	21	30	41	25	23	2	5	1	1	1	0	0	2	2	0	3	1	18	346		
	生涯学習団体 (件)	61	31	39	59	11	8	23	23	12	14	25	32	22	10	0	1	0	1	2	1	1	1	2	2	1	3	15	385		
	行政・外郭 (件)	17	16	25	24	23	26	27	32	22	28	44	36	28	27	3	4	2	9	2	9	5	0	3	4	3	4	48	423		
	企業関連 (件)	19	24	30	56	23	13	24	22	44	28	51	31	35	14	4	5	5	4	3	0	1	3	2	4	1	4	36	450		
	学校・学生 (件)	9	7	9	19	11	2	11	5	10	27	18	19	6	11	2	0	1	0	1	1	2	1	2	0	0	3	13	177		
	マスコミ・議員 (件)	2	2	2	7	2	2	2	2	2	2	4	1	4	3	0	0	0	1	1	0	0	1	0	1	0	0	4	41		
	個人 (件)	65	88	81	127	62	51	90	64	63	60	100	64	73	70	10	2	4	4	4	11	5	5	2	4	6	20	77	1,135		
	その他 (件)	26	45	33	62	30	25	32	33	43	38	26	21	21	32	1	1	1	5	1	0	4	1	0	1	1	7	23	490		
初来館	初来館者 (人)	126	97	99	165	88	79	96	64	88	70	76	76	43	59	3	5	3	5	4	3	3	6	4	7	4	3	50	1,276		
	どこで知ったか	公共施設 (人)	37	23	34	46	16	23	24	16	12	17	15	13	4	12	0	0	0	3	0	0	1	0	0	2	1	0	7	299	
		ロコミ (人)	14	15	8	24	18	14	25	9	18	27	22	20	9	8	1	0	0	0	1	0	1	0	2	0	1	0	6	237	
		SDホームページ (人)	11	15	24	29	21	19	25	16	24	6	9	8	12	18	0	4	3	0	2	0	0	3	1	2	2	2	19	256	
		その他 (人)	64	44	33	66	33	23	22	23	34	20	30	35	18	21	2	1	0	2	1	3	1	3	1	3	0	1	18	484	

2. 相談内容の内訳

(1) 支援対象について

相談件数 (件)		97	99	94	163	73	57	100	76	105	81	83	85	63	83	6	7	5	7	2	4	6	5	4	7	2	11	66	1,325
対応時間 (分)		1,217	1,185	1,003	1,857	855	727	1,221	860	1,354	1,113	1,065	1,097	615	905	55	65	35	65	20	60	60	50	30	70	15	163	688	15,762
対応時間平均 (分/件)		12.5	12.0	10.7	11.4	11.7	12.8	12.2	11.3	12.9	13.7	12.8	12.9	9.8	10.9	9.2	9.3	7.0	9.3	10.0	15.0	10.0	10.0	7.5	10.0	7.5	14.8	10.4	11.9
利用目的	貸室 (件)	77	69	62	116	59	37	71	56	81	62	53	58	49	69	6	7	3	7	1	1	3	4	4	6	1	8	51	970
	印刷室 (件)	9	16	27	19	5	10	15	6	9	6	5	3	3	4	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	1	4	141
	チラシ (件)	6	10	4	9	6	6	10	11	14	5	21	21	11	9	0	0	1	0	0	0	1	1	0	1	1	2	7	150
	ポスター (件)	2	0	1	4	0	0	2	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	3	14
	その他 (件)	3	4	0	5	3	4	2	3	2	8	3	2	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	41

(2) 施設利用相談

施設利用相談 (件)		72	25	46	60	13	11	29	42	27	22	43	68	40	44	2	4	7	1	3	2	4	2	2	1	4	5	37	579
対応時間 (分)		866	270	599	643	136	170	296	655	415	270	545	920	550	525	10	25	95	10	40	13	25	20	15	5	25	40	323	7,183
対応時間平均 (分/件)		12.0	10.8	13.0	10.7	10.5	15.5	10.2	15.6	15.4	12.3	12.7	13.5	13.8	11.9	5.0	6.3	13.6	10.0	13.3	6.5	6.3	10.0	7.5	5.0	6.3	8.0	8.7	12.4
場の提供	貸室 (件)	46	11	19	34	2	3	10	19	16	7	15	13	7	22	0	2	1	0	0	2	2	2	0	0	0	2	11	235
	フリースペース (件)	2	1	1	1	2	1	5	7	1	1	3	13	3	3	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	2	4	48
	ロッカー (件)	3	2	1	0	0	0	2	1	0	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13
	レターケース (件)	3	1	2	1	1	1	0	1	1	1	1	1	0	1	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	18
	共同事務室 (件)	2	4	1	6	2	0	1	4	5	3	3	4	4	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	44
	展示スペース (件)	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	4
	駐車場 (件)	0	0	3	3	1	1	0	0	0	1	0	6	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	17
	備品 (件)	2	0	2	3	1	0	3	0	0	2	5	9	14	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	2	45
	その他 (件)	3	2	6	9	2	1	2	4	1	0	4	3	3	5	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	3	48
情報関係	PC (件)	2	1	0	0	0	1	0	2	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	9
	インターネット (件)	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	コピー機・印刷機 (件)	6	2	7	2	0	1	1	1	1	2	0	6	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	34
	チラシ・ポスター (件)	13	2	4	0	1	0	1	0	0	0	3	2	2	4	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	4	36
	サポートセンターHP (件)	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	5
	サポートセンター情報誌 (件)	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
	その他 (件)	2	3	1	1	1	0	1	3	1	3	6	10	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	3

(3) 情報提供

1) 団体情報ファイル

団体情報ファイルには、団体ごとに団体紹介シート（※）、パンフレット、チラシ、定款・会則、予算書、決算書、事業計画書・報告書などをファイリングしている。

このファイルは、団体の運営・事業の参考となる情報源であり、新規団体立ち上げの先行事例としても紹介できるものである。また、受益者がサービスを受ける場合や、市民がボランティアとして活動に参加する場合にも活用できる。

団体情報ファイルは、全国の活動団体の情報を「二市三町」「県内」「県外」のジャンルごとに分けてファイリングしており、利用者は館内で自由に閲覧できる。

今年度末現在、ファイリングされている総団体数は2,280団体。今年度は33団体の追加があった（前年度の追加は55団体。前年比60.0%）。新型コロナウイルス感染症に伴う規制が緩和され、対面でのイベントが増えてきたこともあり、活動者と対話しながら団体の情報を入手することができた。

「二市三町」の団体数は、343団体で、今年度は9団体の追加があった（前年度の追加は28団体。前年比32.1%）。事業などで関わりを深めた団体や、印刷機の利用をきっかけに資料類の公開を始めた団体も見受けられた。以また、前より活動していた団体の新たな情報も加わり情報の増加につながった。

分野別の特徴としては、東日本大震災をきっかけに防災・減災に取り組む、地域安全やまちづくりの団体、自治会や老人クラブなど、地域に根差した団体の増加が目立った。

次年度以降も、多賀城の新しい団体の情報収集により力を入れるとともに、収集した情報を市民が活用しやすいよう編集・発信していく。

※団体紹介シート

市民活動団体の情報発信を支援するTSC独自のツール。団体の連絡先、設立経緯、目的、活動内容、アピールポイントなどを記入するもの。提出された団体紹介シートは団体情報ファイルにファイリングされるとともに、TSCのウェブサイト上で公開している。今年度末現在、130団体の団体紹介シートを公開している。

令和４年度多賀城市市民活動サポートセンター年間事業報告書

①団体情報ファイル数（単位：団体） ※二市三町：多賀城市・塩竈市・七ヶ浜町・利府町・松島町

	二市三町	県内	県外	合計	キーワード
福祉	28	150	63	241	障がい者支援、高齢者支援、移送サービス、配食サービス、地域福祉
医療・保健・健康	15	57	94	166	健康、医療、難病支援、カウンセリング、自殺予防、保健、依存症
スポーツ	27	23	4	54	スポーツ振興
人権・ジェンダー	10	54	53	117	平和、ホームレス支援、貧困支援、労働問題、人権、男女共同参画、DV、マイノリティ、ジェンダー、ひきこもり
子どもの育成・支援	53	121	91	265	子育て、青少年健全育成、障がい児支援、学習支援、児童虐待、不登校、母子・父子家庭支援
社会教育	16	17	22	55	生涯学習
環境	11	113	96	220	自然保護、環境保全、リサイクル、農業・林業・漁業・食育、動物・ペット、エネルギー
まちづくり	57	173	125	355	まちづくり、地域づくり、コミュニティ形成、地域おこし、観光
災害救援・地域安全	6	30	30	66	災害救援、被災者支援、地域防災・安全
国際交流・協力	9	37	64	110	国際交流、国際協力、在日外国人支援、フェアトレード
文化・芸術	77	142	55	274	文化振興、文学、音楽、映画、演劇、アート、歴史、伝統文化、ミニコミ出版、芸術、工芸
シニア	3	14	5	22	団塊世代、セカンドライフ
市民活動支援	2	27	199	228	市民活動団体支援、助成活動
その他	2	32	36	70	オンブズマン（行政監視）、政策提案、消費者保護、科学技術、職能開発、コミュニティビジネス、その他
地域組織	27	7	3	37	自治会、町内会、地域自主組織、まちづくり協議会、老人クラブ、子ども会
合計	343	997	940	2,280	

②分野別団体情報ファイル経年変化（単位：団体）

年度 分野	H20 (初年度)	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R3→R4 増減
福祉	52	214	221	226	237	237	241	＋4
医療・保健・健康	34	160	161	162	162	164	166	＋2
スポーツ		49	49	50	51	53	54	＋1
人権・ジェンダー	20	106	108	112	112	116	117	＋1
子どもの育成・支援	57	211	242	252	255	262	265	＋3
社会教育		49	54	55	55	55	55	±0
環境	32	193	203	209	209	214	220	＋5
まちづくり	47	309	331	340	342	349	355	＋7
災害救援・地域安全		54	55	57	58	63	66	＋5
国際交流・協力	19	103	105	106	108	109	110	＋1
文化・芸術	22	226	251	265	267	270	274	＋3
シニア	8	20	20	20	20	21	22	＋1
市民活動支援	47	210	222	225	225	228	228	±0
その他	19	58	68	68	68	70	70	＋2
地域組織		25	30	33	33	36	37	＋1
合計	357	1,987	2,120	2,180	2,192	2,247	2,280 前年度比： 101.5%	＋33

※平成 29
年度より
分離

※平成 29
年度より
分離

※平成 29
年度より
分離

※平成 22
年度より
集計開始

③二市三町分野別団体情報ファイル経年変化（単位：団体）

年度 分野	H20 (初年度)	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R3→R4 増減	
福祉	4	18	19	21	21	26	28	+2	
医療・保健・健康	3	14	13	13	13	14	15	+1	※平成29年度 より分離
スポーツ		25	24	24	25	27	27	±0	
人権・ジェンダー	0	6	7	8	8	10	10	±0	
子どもの育成・支援	6	38	43	48	49	52	53	+1	※平成29年度 より分離
社会教育		13	15	16	16	16	16	±0	
環境	6	10	10	10	10	11	11	±0	
まちづくり	8	44	48	52	53	56	57	+1	※平成29年度 より分離
災害救援・地域安全		4	4	4	4	5	6	+1	
国際交流・協力	5	7	8	8	8	9	9	±0	
文化・芸術	1	59	70	73	74	76	77	+1	
シニア	0	2	2	2	2	2	3	+1	
市民活動支援	1	2	2	2	2	2	2	±0	
その他	0	1	2	2	2	2	2	±0	
地域組織		16	20	23	28	26	27	+1	※平成22年度 より集計開始
合計	34	259	287	306	306	334	343 前年度比： 102.7%	+9	

④エリア別団体情報ファイル経年変化（単位：団体）

年度 エリア	H20 (初年度)	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R3→R4 増減
二市三町	34	259	287	306	316	334	343 前年度比：102.7%	+9
県内	188	879	926	959	961	980	997 前年度比：101.7%	+17
県外	135	849	907	915	915	933	940 前年度比：100.8%	+7
合計	357	1,987	2,120	2,180	2,192	2,247	2,280 前年度比：101.5%	+33

2) ウェブサイト・ブログ・ツイッター

①ウェブサイト・ブログについて

		ウェブサイト	ブログ	
		訪問者数	訪問者数	記事数
平成 21 年度(初年度)		9,777	15,889	74
平成 29 年度		8,758	28,869	225
平成 30 年度		13,920	35,412	261
平成 31 年度		14,662	45,661	237
令和 2 年度		12,693	38,204	214
令和 3 年度		15,038	46,321	225
令和 4 年度	4 月	1,092	3,653	20
	5 月	1,103	3,858	20
	6 月	1,274	3,845	19
	7 月	1,256	3,833	17
	8 月	1,144	3,521	18
	9 月	1,114	5,535	14
	10 月	1,070	3,530	18
	11 月	1,247	4,060	21
	12 月	1,284	3,054	18
	1 月	1,193	2,649	17
	2 月	1,145	3,004	22
	3 月	1,118	2,839	18
令和 4 年度計		14,040	41,381	222

ウェブサイト：平成 21 年 12 月 25 日開設

ブログ：平成 20 年 7 月 19 日開設

※平成 28 年 5 月にセキュリティ対策としてウェブサイトの訪問者数測定ソフトを変更。同一人が重複してカウントされない方法となった。

※平成 30 年 4 月、ウェブサイトリニューアルに伴い訪問者測定ソフト・方法を変更。これまでは同一人が 1 ヶ月に何度訪問しても 1 件とカウントされていたが、同一人が訪問した回数だけカウントされるようになった。

ウェブサイトは主に T S C の機能や事業を、ブログは主に市内外の市民活動に関わる取り組みやノウハウ、地域イベント等を発信している。

※訪問者数比較

前年度比：ウェブサイト 93.4%

ブログ 89.3%

積極的な情報発信を心がけ、ウェブサイト、ブログともに訪問者を増やすことができた前年度の流れを汲み、今年度も継続的な発信を心がけた結果、例年並みの訪問者数を維持することができた。

ブログ訪問者の 8～9 割はブックマークをしている人であり、T S C 事業に対して関心を持つ市民、ブログを通じて市民活動や地域の情報を得ようとしている市民であると考えられる。

毎月のアクセスランキングでは、T S C の事業の告知や報告の記事の閲覧数が多い傾向があり、特に 11 月・12 月は、12 月 4 日（日）に開催した「たがさぼのクリスマス雑貨市 2022」の出展団体紹介記事がランキング上位を独占した。今後も時勢に沿った情報を発信することを心掛けていきたい。

②ツイッターについて 平成 23 年 9 月 1 日開設

ブログ更新や T S C 事業の告知で活用し、フォロワーに対して広く T S C の情報を届けることができた。今後も継続して各事業とも連携し、講座やイベントの様子を発信など、多様な地域の情報の発信に努めていきたい。

	フォロワー数
令和 4 年 3 月	1,962 人
令和 5 年 3 月	2,008 人 (+46)

3) たがさぼ文庫

たがさぼ文庫は、情報サロン内にある市民活動、NPO、地域活動などに関する書籍を集めた図書貸出コーナーとして平成21年6月1日より開始した。

広報、会計、労務など団体マネジメントに関する書籍、市民活動の入門となる書籍、各分野（福祉・まちづくり・子ども等）の専門書、活動の参考になるハウツー書籍をそろえている。また、NPOに関する絵本や震災関連の資料なども収集している。

＜蔵書数＞（令和5年3月末現在）

・1,311冊 登録者数計238人

＜概要＞ ・事前登録により、貸出カードを発行

・1人2冊まで、貸出期間は2週間



令和4年度書籍貸出件数（令和4年4月～令和5年3月）

		貸出図書		
		登録者数	貸出件数	貸出冊数
		人	件	冊
平成21年度(初年度)		37	100	132
平成28年度		7	138	209
平成29年度		11	60	87
平成30年度		10	75	102
平成31年度		10	63	95
令和2年度		14	63	94
令和3年度		20	85	121
令和4年度	4月	1	11	12
	5月	1	6	7
	6月	0	7	9
	7月	0	2	2
	8月	0	2	3
	9月	0	2	3
	10月	2	1	1
	11月	0	2	3
	12月	0	5	7
	1月	1	5	8
	2月	0	6	11
	3月	1	8	11
令和4年度計		6	57	77

前年度と比較して、貸出図書の新規登録者数、貸出件数がともに減少した。

その理由として、前年度に積極的に行ったTSC事業での図書の展示や講座・イベント時の新規登録呼びかけを行う機会が減少し、その結果として新規登録や貸し出しの件数が減少したと考えられる。

ただ、5～6月にかけての新規購入図書の紹介展示や、随時テーマを設定して行った図書紹介の機会、図書を手に取って読む利用者が多かったことから、この取り組みは今後も継続して取り組みたいと考える。

次年度は、より多くの周知の機会、利用促進の機会を設け、また、地域・社会課題の解決のヒントとなる資料を揃え、市民にさまざまな情報を提供したい。

(4) 場の提供

1) 事務用ブース利用状況／事務用ブース入居団体インキュベート相談

○事務用ブース入居状況（令和5年3月31日現在）

ブース1) 高崎こども食堂らっこ広場（令和4年6月入居 入居1年目）

ブース2) 空き

ブース3) 空き

ブース4) 多賀城イングリッシュ・サポーターズ（令和4年6月入居 再入居3年目）

ブース5) 宮城県学童保育連絡協議会（令和4年9月入居 再入居2年目）

ブース6) 旭ヶ岡町内会（令和5年2月入居 入居1年目）

ブース7) 傾聴の会多賀城（令和5年2月入居 入居3年目）

ブース8) 生涯学習100年構想実践委員会（令和4年9月入居 再々々入居1年目）

※ハッピーピース（令和4年6月退去）

※一般社団法人子どもアドボカシーセンターみやぎ（令和4年8月退去）

○事務用ブース入居団体インキュベート相談会について

事務用ブース入居6ヵ月後に、団体の代表者や事務局を担うスタッフとTSCスタッフで個別相談会を実施。1団体あたり1時間程度、団体の活動の現状把握や運営課題の整理、課題解決に向けた情報提供やアドバイスなどを行った。

今年度の相談会では、運営の担い手を増やすことや団体の情報発信についての課題が多く出た。団体の活動に賛同し寄付してもらう人を増やす、イベント告知のほか、活動を広く知ってもらうための広報手段について団体に合った方法を一緒に考えた。また、コロナ禍でさまざまな制限がある中でもできることを模索しながら実施した事業の成果の報告もあり、課題に向き合いながら解決する力がついてきている。

○インキュベート相談会実施状況

①団体名：一般社団法人子どもアドボカシーセンターみやぎ（参加1名）

日 時：令和4年7月21日（木）16:00～17:15

②団体名：ハッピーピース（参加3名）

日 時：令和4年7月24日（日）14:00～15:00

③団体名：傾聴の会多賀城（参加3名）

日 時：令和4年7月27日（金）14:00～15:00

④団体名：多賀城イングリッシュ・サポーターズ（参加1名）

日 時：令和4年12月13日（火）11:00～12:00

⑤団体名：高崎こども食堂らっこ広場（参加1名）

日 時：令和5年12月17日（土）15:20～16:20

⑥団体名：宮城県学童保育連絡協議会（参加2名）

日 時：令和5年2月23日（木）11:00～12:00

⑦団体名：生涯学習100年構想実践委員会（参加4名）

日 時：令和5年3月9日（木）15:00～16:00

●①～⑦すべて、「NPO運営パワーアップ事業」の一環で相談対応を行った。



事務用ブース

2) フリースペース利用状況

①フリースペース概要

○通常の利用

地域づくりに関わる方の交流を深めるための場として、予約不要・無料で利用できる。平成27年5月、2階ギャラリーにWi-Fiが設置され、利用者が自身のスマートフォンやノートパソコンなどでインターネット接続ができ、情報収集・発信が可能となった。また令和2年度から全館Wi-Fiの利用が可能となった。

令和2年度より新型コロナウイルス感染予防対策のため、テーブル・イスの数を減らし、利用人数・利用時間に制限を設けながら運営している（右写真参照）。事前の申込制とし、利用を1時間とした（利用人数などは、本報告書20ページ「参考-1：主な項目の利用状況推移（平成20～令和4年度）」を参照）。

○企画の利用

NPO、自治会・町内会、子ども会、生涯学習団体、個人、企業（社会貢献活動での利用）を対象に、展示、ワークショップ、交流会など、下記の目的のもと利用できる。

【利用目的】

- ・団体の活動を多くの人に知ってもらう
- ・企画づくりを通して団体運営のパワーアップを図る
- ・市民が集い新たなつながりを生む
- ・市民が自分たちの住む社会・地域について知り、考える
- ・市民が地域・社会のためにアクションを起こす

○TSCからの情報発信活用

1階フリースペースは、たがさぼ文庫などのTSCの機能や災害時の募金情報、フードボックスの設置、防災・減災関連やボランティア情報など、まちのことを考えるきっかけとなる情報を発信する場として活用している。



1階フリースペース



2階ギャラリー



3階交流サロン

②企画の利用内容 6団体計6回の利用があった（前年度は5団体計5団体の利用）

	企画タイトル	利用団体	期間	実施目的	実施内容	フロア	参加人数
1	第64回水道週間	多賀城市上下水道部企業経営課	6/2 ～ 6/7	水道の理解・関心を高めるため	水道施設の紹介や水質検査についてのパネル、耐震管の模型などの展示	2階 ギャラリー	-
2	アイリンプループロジェクトパネル展	一般社団法人 Bird's-eye	6/10 ～ 6/30	奇跡の花「あいりちゃん」を通じて、3.11の継承を行う	未就学児の命を守るこれまでの活動についての展示	2階 ギャラリー	-
3	癒しのマンダラ塗り絵展&ロミロミマッサージ体験会	森遊	7/1 ～ 7/2	コロナ後の心身の癒し	マンダラ塗り絵とロミロミマッサージ体験やセルフケアし指導	2階 ギャラリー	20名
4	令和4年度多賀城中学校美術部作品展	多賀城中学校美術部	7/23 ～ 8/1	保護者・地域の方に美術部の作品を見てもらうため	美術部の作品の展示	2階 ギャラリー 3階 交流サロン	100名
5	水彩画・アクリル作品展	はまなす会	9/2 ～ 9/11	会員の作品紹介	画装した28点の作品展示	2階 ギャラリー 3階 交流サロン	70名
6	さをり織り作品展&ワークショップ	さをりひろば余暇やか	1/8 ～ 1/10	さをり織りの普及のため	作品の展示と織機を使ったワークショップ	3階 交流サロン	40名

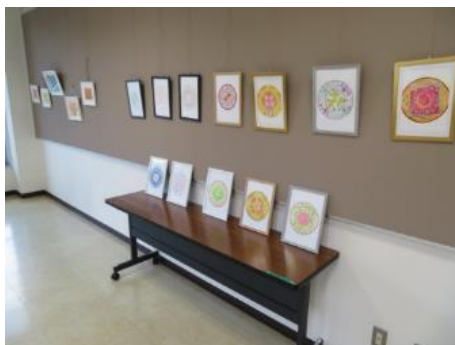
③企画利用の様子



1. 第64回水道週間
(多賀城市上下水道部企業経営課)



2. アイリンプループロジェクトパネル展
(一般社団法人 Bird's-eye)



3. 癒しのマンダラ塗り絵展&
ロミロミマッサージ体験会 (森遊)



4. 令和4年度多賀城中学校美術部作品展
(多賀城中学校美術部)



5. 水彩画・アクリル作品展
(はまなす会)



6. さをり織り作品展&ワークショップ
(さをりひろば余暇よか)

④T S Cからの情報発信活用の内容 9回の企画を開催

	企画タイトル	期間
1	防災展示（まちの掲示板／防災食）	4/1～5/1
2	たがさぼ文庫新刊図書展示	5/2～6/30
3	TAGAJO Future Labo 展示	7/1～7/16
4	情報発信ツール紹介展示	7/16～9/30
5	豪雨災害支援展示	7/26～11/25
6	「tag」創刊 100 号記念展	10/13～10/25
7	寄付ブース（フードボックス等の設置など）	11/1～1/31
8	防災展示（トルコ・シリア地震支援情報/ 多賀城市避難所情報など）	3/1～3/31
9	りんごの棚（アクセシブルな絵本の展示など）	3/7～3/31



1. 防災展示（まちの掲示板／防災食）
1 階（4/1～5/1）



2. たがさぼ文庫新刊図書展示
1 階（5/2～6/30）



3. TAGAJI Future Labo 展示

1 階 (7/1～7/16)



4. 情報発信ツール紹介展示

1 階 (7/16～9/30)



5. 豪雨災害支援展示

1 階 (7/26～11/25)



6. 「tag」創刊 100 号記念展

1 階、2 階ギャラリー (10/13～10/25)



7. 寄付ブース
(フードボックス等の設置)

1 階 (11/1～1/31)



8. 防災展示
(トルコ・シリア地震支援情報
/ 多賀城市避難所情報など)

1 階 (3/1～3/31)



9. りんごの棚
(アクセシブルな絵本の展示など)

2 階ギャラリー (3/1～3/31)

147kg の食料や生活物資などをNPO法人いのちのパンに寄付。
また、使用済み切手・ハガキや書籍類をNPO法人シャプラニール＝市民による海外協力の会に寄付した。

(5) 他団体・他機関との連携

1) 各会議・実行委員会への参加

地域課題を解決していくためには多様な主体で連携して取り組んでいく必要がある。今年度、TSCでは多賀城市の課や施設を横断しての情報交換や取り組みの場に参加した。

①Taga懇「多賀城未来の懇談会」

- ・市民と市長が直接対話できる、意見交換できる場。
- ・市民とまちづくりの情報（施政方針の内容、特に多賀城創建1300年事業）を共有し、ともにまちづくりを進めていけるきっかけにする。令和4年度から実施。

○主管

- ・多賀城市地域コミュニティ課

○TSCの役割

- ・ファシリテーターとして、参加者全員からの発言の引き出し、陳情・要望が出た際の軌道修正が依頼内容。
- ・市民参画のまちづくりのきっかけになるような場をつくること。

○実施状況

	実施日	対象の自治会町内会・会場	参加
第1回	5月28日 (土)	城南小学校区（会場：TSC） 市川区、浮島地区自治会、城南自治会、高崎自治会、志引町内会	中津
第2回	6月26日 (日)	山王小学校区（会場：山王地区公民館） 新田一区町内会、新田二区町内会、新田三区、高橋東一区町内会、高橋東二区町内会、高橋南区町内会、高橋北区町内会、山王自治会、南宮自治会	中津
第3回	7月23日 (土)	多賀城小学校区（会場：TSC） 東田中親交会、新田中区親交会、旭ヶ岡町内会、留ヶ谷自治会、伝上山親和会、隅田会、向山町内会、東能ヶ田尚和会、西能ヶ田町内会、下馬西自治会、八幡下二町内会	中津
第4回	10月30日 (日)	天真小学校区（会場：TSC） 鶴ヶ谷親和会、丸山町内会、黒石崎町内会、下馬東自治会、下馬南自治会、下馬北区自治会、桜木東区町内会、桜木中区町内会、桜木北区町内会	中津
第5回	1月29日 (日)	多賀城八幡小学校区（会場：TSC） 東田中南自治会、桜木南区町内会、八幡上一町内会、八幡上二区町内会、八幡下二町内会、沖区振興会	中津
第6回	3月18日 (土)	多賀城東小学校区（会場：大代地区公民館） 笠神自治会、大代東町内会、大代中区町内会、大代西町内会、大代北区町内会、大代南区町内会	中津

○成果

- ・参加者の発言機会を確保しつつ、意見をホワイトボードに書き出して議論を可視化したり、共感を可視化する仕掛けをすることで、市と市民が対立構造にならずに、意見やアイデアが出やすくなるような環境をつくることができた。

○課題

- ・参加をきっかけに市民がまちづくりに関心を持ったり、自ら行動できるような場づくりにさらに取り組む必要がある。

②令和4年度住民主体の地域づくりを広げる事業実行委員会

地域の自然な支えあいの取り組みに価値を見出し、事例として地域に発信していくことを目的に実施された。T S Cは平成29年度より参加。

○参加団体・機関

- ・多賀城市介護・障害福祉課（主管） ・多賀城市社会福祉課 ・多賀城市健康長寿課
- ・多賀城市地域コミュニティ課 ・多賀城市産業振興課
- ・多賀城市教育委員会生涯学習課 ・多賀城市教育委員会教育総務課
- ・多賀城市地域包括支援センター（中央・西部・東部）
- ・多賀城市自立相談支援窓口（一般社団法人パーソナルサポートセンター）
- ・社会福祉法人多賀城市社会福祉協議会
- ・NPO法人全国コミュニティライフサポートセンター

○T S Cの役割

- ・自治会・町内会をはじめとした住民同士の支えあい事例の情報を提供する。
- ・各分野で活動する市民活動の情報を提供する。

○実施状況

	実施日	内容	参加
第1回	5月27日 (金)	実行委員自己紹介 これまでの取り組み プレ研修会	—
第2回	6月17日 (金)	講座内容検討	小笠原
第3回	7月12日 (火)	講座開催方法等の検討	小笠原
第4回	8月19日 (金)	講座役割分担等	小笠原
企画	10月19日 (水)	企画名：地域支え合い講座 集活!!「1人じゃない」からできること 日常の中にある大きなお宝（中央会場） 内 容：地域の身近な人同士が気かけあう「つながり」を持つことの大切さを様々な事例と一緒に学ぶ。	小笠原
企画	10月25日 (火)	〃（東部会場）	小笠原

企画	10月26日 (水)	〃（西部会場）	小笠原
第5回	10月31日 (月)	地域支え合い講座の振り返り 取材分担など	小笠原
第6回	11月18日 (金)	発表会役割分担など	—
企画	1月13日 (金)	発表会会場設営 リハーサル	小笠原
企画	1月14日 (土)	企画名：地域支え合い講座 お宝事例発表会 集活!!「1人じゃない」からできること 日常の中にある大きなお宝 内 容：中央・東部・西部で開催した講座で発掘した お宝を紹介し、地域の支え合いの輪を広げる。	小笠原
第7回	2月2日 (金)	事業評価、課題等の振り返り	小笠原

○成果

- ・TSCが把握している自治会・町内会の活動事例や市民活動の情報を提供することができた。
- ・各地域で行われている住民同士の支え合い事例を収集し、TSCの運営や事業実施の参考にすることができた。
- ・TSCに来館した方に講座や発表会への参加を促し、地域で支え合うことの意義を再確認してもらえた。

○課題

- ・若い世代の参画を促し、より多様な支え合いを広げていく。

③施設情報交換会

市内の施設が連携して事業を実施し、各種対応について意見交換できるよう情報交換の場を設けている。平成30年度より始まった。

○参加団体・機関

- ・多賀城市文化センター（中央公民館・市民会館） ・山王地区公民館
- ・大代地区公民館 ・多賀城市総合体育館 ・多賀城市立図書館
- ・多賀城市地域コミュニティ課 ・多賀城市市民文化創造課

○TSCの役割

- ・TSCの取り組みや視点を各施設へ共有する。

○実施状況

	実施日	内容	参加
第1回	4月21日 (木)	各施設からの報告 事業サポーター制度の活用について	中津
第2回	6月17日 (金)	各施設からの報告 事業サポーター制度の活用について	川口

第3回	9月9日 (金)	※欠席	—
第4回	11月18日 (金)	事業サポーター制度について 多賀城創建1300年事業について	川口
第5回	2月14日 (火)	多賀城創建1300年事業について コロナ体制の緩和について	川口

○成果

- ・各施設の取り組みを共有することができた。
- ・TSCの持つ市民活動や課題解決の視点から情報共有することができた。

○課題

- ・来年度以降も情報交換にとどまらず、互いに連携して課題解決に取り組む場としていく。

④中央地区生活支援体制整備協議体「ちゅうおう盛り上げ隊 たが和っか」

中央地区における見守り体制やコミュニティ支援について情報共有をしていくための協議体。

○参加団体・機関

- ・多賀城市中央地域包括支援センター ・社会福祉法人多賀城市社会福祉協議会
- ・多賀城市介護・障害福祉課 ・公益社団法人多賀城市シルバー人材センター
- ・せいふう多賀城駅前 ・アースサポート多賀城 ・デイサービスヒマワリ
- ・みんなで食べよう会（こども食堂） ・八幡下二区町内会 ・向山地区民生委員
- ・多賀城市多賀モリ会 ・伝上山住民

○TSCの役割

- ・市民活動団体等の取り組みの共有。
- ・多様性を持った視点での情報共有。
- ・中央地区の活動者や活動を知り、事業などに活かす。

○実施状況

	実施日	内容	参加
第1回	4月18日 (月)	参加者の近況報告、協議体についての想い	川口
第2回	5月13日 (金)	With コロナの繋がり方「集める」と「集まる」	川口
第3回	6月13日 (月)	TSCが関わる防災の動きについての情報提供 「防災」「居場所」「スマホ」3チームでの話し合い	川口
第4回	7月8日 (金)	防災チームに参加（せいふう多賀城駅前、アースサポート多賀城、デイサービスヒマワリ、向山地区民生委員、多賀城市社会福祉協議会）	川口
第5回	8月12日 (金)	防災チームに参加	川口
第6回	9月9日 (金)	防災チームに参加	川口

第７回	10月14日 (金)	防災チームに参加 八幡保育所の避難訓練の話し合い	川口
※	10月21日 (金)	八幡保育所の避難訓練の下見に防災チームが同行	川口
第８回	11月11日 (金)	防災チームに参加 11/5市の防災訓練についての情報交換	川口
※	11月21日 (月)	八幡保育所避難訓練に防災チームが参加	川口
第９回	12月8日 (金)	防災チームに参加	川口
※	1月14日 (土)	地域支え合い講座 お宝事例発表会	川口
第10回	1月16日 (月)	今年度の振り返り	川口
第11回	2月10日 (金)	次年度へ向けてのアイデアだし	川口
第12回	3月10日 (金)	次年度の取り組みについて	川口
※	3月20日 (月)	宮城県多賀城高校災害科学科のまち歩きに防災チームで参加	川口

○成果

- ・ＴＳＣの防災の取り組みを紹介し、防災について話し合いができた。ＴＳＣが関わる訓練などにもメンバーが参加し、学びを地域や所属している団体へ共有することで防災の地域で取り組む視点が広がった。

○課題

- ・具体的なテーマで話し合う機会を持ってきたが、その視点をより地域へ広めていくところが出来なかった。次年度はそこに取り組んでいく。

⑤東部地区生活支援体制整備協議体「あすなろう会」

東部地区における見守り体制やコミュニティ支援について情報共有をしていくための協議体。

○参加団体・機関

- ・多賀城市東部地域包括支援センター ・社会福祉法人多賀城市社会福祉協議会
- ・黒石崎町内会 ・下馬南自治会 ・笠神自治会 ・桜木南区町内会 ・桜木北区町内会
- ・さくらビレッジ ・NPO法人全国コミュニティライフサポートセンター
- ・多賀城市地域コミュニティ課 ・多賀城市危機管理課 ・多賀城市介護・障害福祉課
- ・多賀城市教育委員会生涯学習課

○ＴＳＣの役割

- ・市民活動団体等の取り組みの共有。
- ・多様性を持った視点での情報共有。
- ・東部地区の活動者や活動を知り、事業などに活かす。

○実施状況

実施日	内容	参加
1月11日（水）	「防災」について	川口

○成果

- ・防災についての情報交換に参加し、T S Cが関わってきた防災の取り組みについて紹介し、視点を共有できた。東部地区の防災意識のある住民が、T S Cが声がけし、保育所との情報交換に参加した。

○課題

- ・東部地区の取り組みをより知るために、他テーマでの開催時も参加して情報交換していくと良い。

⑥多賀城市社会福祉協議会地域福祉活動計画推進委員会

「第1期地域福祉活動計画」の効果的な計画推進を目的に設置し、計画の進捗を管理するために開催。T S Cからは、中津センター長が委員に委嘱されている。

○主管

社会福祉法人多賀城市社会福祉協議会

○構成メンバー

- ・学識経験者 ・民生委員 ・住民組織代表 ・福祉関係者 ・ボランティア団体
- ・関係行政機関 ・社会福祉法人宮城県社会福祉協議会

○T S Cの役割

- ・市民活動・地域活動支援、協働促進に取り組む立場から、地域の課題、団体の運営課題を伝え、計画進捗管理・評価に反映させる。

○実施状況

実施日	内容	参加
3月3日（金）	多賀城市地域福祉活動計画の進捗状況について	中津

⑦多賀城市環境審議会

「第三次多賀城市環境基本計画」の各年度のふりかえりとトピックの報告を行う。T S Cからは、中津センター長が委員に委嘱されている（任期：令和3年3月20日～令和5年3月19日、令和5年3月20日～令和7年3月19日）。

○主管

多賀城市環境施設課

○構成メンバー

- ・学識経験者 ・関係行政機関 ・市長が必要と認めた者

○T S Cの役割

- ・市民活動・地域活動支援、協働促進に取り組む立場から、地域の課題、団体の運営課題を伝え、計画進捗管理・評価に反映させる。

○実施状況

実施日	内容	参加
10月17日（木）	ゼロカーボンシティ推進事業に係る進捗状況について	中津

3月27日（月）	「第三次多賀城市環境基本計画」の振り返りについて	中津
----------	--------------------------	----

⑧多賀城市都市計画審議会

市が決定する都市計画について調査審議するための諮問機関。TSCからは、中津センター長が委員に委嘱されていた。（任期：令和2年8月1日～令和4年7月31日）

○主管

多賀城市都市計画課

○構成メンバー

・学識経験者 ・市議会議員 ・関係行政機関 ・本市市民

○TSCの役割

・市民活動・地域活動支援・協働促進に取り組む立場から審議する。

○実施状況

・任期中は実施なし

⑨多賀城市シルバーワークプラザ指定管理者評価委員会

シルバーワークプラザの運営について、令和5年3月31日をもって第3期の指定期間が満了することに伴い、指定管理者による管理や指定管理制度の導入効果を検証する。TSCからは、中津センター長が委員に委嘱された。

○主管

多賀城市健康長寿課

○構成メンバー

・利用者 ・有識者 ・市職員

○TSCの役割

・市民活動・地域活動支援、協働促進に取り組む立場から評価する。

○実施状況

実施日	内容	参加
7月29日（金）	第3期指定管理について	中津

⑩令和4年度 多賀城市創業支援事業（ビジネスプランコンテスト）

多賀城市の地域振興に貢献する新たな魅力を創出することを目的に、地域活性化につながるビジネスプラン・アイデアを募集し、新たなビジネス・イノベーションの創出を図る。

○主管

・多賀城市産業振興課
・NPO法人海族DMC（企画・運営）

○TSCの役割

・地域資源や賑わいの創出の観点で審査を行う。

○実施状況

実施日	内容	参加
2月26日（日）	ビジネスプランコンテスト	中津

⑪NPOサポートリンク

被災地の県域・市町村域を超えた支援組織のネットワーク化を行うことで、持続可能な地域復興の支え手となることを目的とする。

○参加団体・機関

- ・NPO法人おおふなと市民活動センター
- ・NPO法人陸前高田まちづくり協働センター ・NPO法人いわてNPOフォーラム 21
- ・NPO法人いわて連携復興センター ・一般社団法人気仙沼まちづくり支援センター
- ・気仙沼まち大学運営協議会 ・NPO法人いしのまきNPOセンター
- ・一般社団法人東北圏地域づくりコンソーシアム ・NPO法人杜の伝言板ゆるる
- ・NPO法人せんだい・みやぎNPOセンター ・南相馬市市民活動サポートセンター
- ・NPO法人ふくしまNPOネットワークセンター
- ・NPO法人アットマーククリアスNPOサポートセンター
- ・NPO法人日本NPOセンター

○TSCの役割

- ・被災沿岸市町の支援センターの一員として、復興の先の地域づくりについて考える場をつくる。

○実施状況

実施日	内容	参加
6月20日（水）	第15回リンクアップ会議 ・NPOの活動と課題 ・NPOが感じる地域の課題に関する調査についての報告 ・とうほくNPOフォーラムについて	中津
2月27日（月）	とうほくNPOフォーラム in 仙台 2022 リハーサル	中津
2月28日（火）	当日運営とうほくNPOフォーラム in 仙台 2022	中津

○成果

- ・被災沿岸市町の支援センターとの情報共有の中で、今後の地域づくりに必要な視点を再確認するとともに、事業展開のヒントを得ることができた。

○課題

- ・NPOサポートリンクとして実施する事業への関わり度合いの検討が必要。

2) 他部署・他機関との連携事例

他セクターとの協力で課題解決へ向けて実践した事例をまとめた。

①課題解決に向けた多セクター連携の取り組み

ア) ひとり親家庭への食糧支援

【企画について】

日 時：令和4年8月27日（土）～30日（火）

場 所：社会福祉法人多賀城市社会福祉協議会 多賀城市市民活動サポートセンター

内 容：NPOが企業から受けた食糧支援を、多賀城市、多賀城市社会福祉協議会と連携し、児童扶養手当受給世帯へ食料配布を行った。

対象世帯：630世帯

【連携について】

概 要：NPOからの相談

多賀城市の担当課との調整

連携団体：

- ・NPO法人いのちのパン
- ・県内JA・JA共済連宮城
- ・多賀城市社会福祉課
- ・多賀城市子ども政策課
- ・社会福祉法人多賀城市社会福祉協議会
- ・市民ボランティア
- ・他市民活動団体

成 果：NPOと行政の調整をするとともに、支援が必要な世帯へ情報を届けることができた。

イ) 多様なセクターと連携した保育所の避難訓練

○もりのなかま保育園多賀城高橋園（高橋地区）

【企画について】

日 時：令和4年6月21日（火）15:00～16:30（フィールドワーク・情報交換）

場 所：もりのなかま保育園→ロングライフ多賀城（一時避難所）→化度寺
→高橋地区生活センター

内 容：通常の訓練で行く避難所まで間に合わない場合を想定し、近くの一時避難所への避難から隣の地区の高台まで避難する訓練を想定した。また、防災士の視点から散歩ルートの危険個所の確認をした。

参 加：22名（フィールドワーク12名、情報交換10名、訓練中止）

【連携について】

概 要：自治会・町内会への声かけ

保育所と自治会・町内会の情報交換会への参加

連携団体：

- ・もりのなかま保育園多賀城高橋園（主催）
- ・近隣地域の郵便局長
- ・高橋東二区町内会
- ・一般社団法人Bird's-eye
- ・多賀城市危機管理課

成 果：TSCはNPOと保育園、郵便局、行政で行っていた訓練に、町内会をつなぎ、保育園と町内会の顔の見える関係づくりができるようサポートした。当時

の状況を知らない保育士へ町内会長から当時の様子を伝えることができた。

○桜木保育所（桜木地区）

【企画について】

日 時：令和4年9月8日（木）9:30～11:00（フィールドワーク・情報交換）

令和4年9月13日（火）9:30～11:00（訓練）

場 所：桜木保育所→中財公園→箱塚橋→市営鶴ヶ谷住宅（一時避難所）
→天真小学校（避難場所）

内 容：散歩中の地震発生を想定し、浸水する地域から砂押川にかかる橋を渡り一時避難場所へ垂直避難すること、その後避難場所まで避難する。

参 加：82名（フィールドワーク8名、情報交換18名、本番56名）

【連携について】

概 要：自治会・町内会への声かけ

保育所と自治会・町内会の情報交換会への参加

連携団体：

- ・桜木保育所（主催）
- ・近隣地域の郵便局長
- ・鶴ヶ谷親和会
- ・丸山町内会
- ・桜木北区町内会
- ・一般社団法人 Bird's-eye
- ・多賀城市危機管理課

成 果：TSCは保育所と近隣の町内会をつなぎ、3地区と情報交換できた。各町内会の防災への取り組みを知ること、顔の見える関係を構築できた。この訓練の様子をTSCのブログや報告書などを活用して発信し、広く取り組みを広めた。

○志引保育所（志引地区）

【企画について】

日 時：令和4年10月13日（木）9:30～11:00（フィールドワーク）

令和4年10月6日（木）14:30～15:30（情報交換）

令和4年10月18日（火）9:45～10:50（訓練）

場 所：志引保育所→石井小児科経由→市役所前公園

内 容：指定避難場所に避難できないという想定での訓練を行った。

参 加：90名（フィールドワーク8名、情報交換10名、訓練72名）

【連携について】

概 要：自治会・町内会への声かけ

保育所と自治会・町内会の情報交換会への参加

連携団体：・志引保育所（主催）

- ・志引町内会
- ・さくら会
- ・一般社団法人 Bird's-eye
- ・地域の郵便局長
- ・多賀城市危機管理課

成 果：防災士の資格をもつ郵便局長や地域住民など、様々な人が関わっての避難訓練を行うことで、危険場所などを確認し新たな避難ルートの発掘などにつながった。

○八幡保育所（八幡地区）

【企画について】

日 時：令和４年１０月２１日（金）９：４５～１１：００（フィールドワーク）

令和４年１０月２１日（金）１１：００～１２：００（情報交換）

令和４年１１月２１日（月）９：４５～１１：００（訓練）

場 所：八幡保育所→舟橋→多賀城ロジュマン→市役所前公園

内 容：雨天時の傘や雨具を着ての訓練。いつもの避難場所ではなく、散歩中の想定で、砂押川に架かる橋を渡り、向かいのマンションへの一時避難、その後浸水しない地域までの避難訓練を行った。

参 加：５１名（フィールドワーク１１名、情報交換１０名、訓練３０名）

【連携について】

概 要：自治会・町内会への声かけ

保育所と自治会・町内会の情報交換会への参加

連携団体：・八幡保育所（主催） ・八幡下一町内会 ・東田中南自治会

・地域の郵便局長 ・一般社団法人 Bird' s-eye ・向山区民生委員

・多賀城市危機管理課 ・社会福祉法人多賀城市社会福祉協議会

・多賀城市中央地域包括支援センター

成 果：社会福祉協議会や地域包括支援センターなどさまざまなセクターが訓練に参加し、未就学児を守る大切な視点を共有することができた。多様なセクターと未就学児の防災について互いの知識を共有し、アイデアを出せた。

ウ）保育所避難訓練の振り返りの会

【企画について】

日 時：令和５年１月２４日（火）１３：００～１４：３０

会 場：多賀城市市民活動サポートセンター 大会議室

内 容：震災時被災した幼稚園の対応の話を聞き、未就学児に関わる参加者同士で未就学児の避難訓練、未就学児を守るための情報交換・意見交換をした。

参 加：３０名

【連携について】

概 要：ＴＳＣは、未就学児に関わる多様な主体に声かけをして場を設定し、会議のサポートを行った。

連携団体：・各保育所（桜木・志引・八幡） ・地域の郵便局長 ・鶴ヶ谷親和会

・東田中南自治会 ・黒石崎町内会 ・志引町内会 ・さくら会

・向山民生委員 ・社会福祉法人多賀城市社会福祉協議会

・一般社団法人 Bird' s-eye ・多賀城市危機管理課

・多賀城市中央地域生活包括支援センター

・多賀城市東部地域包括支援センター ・多賀城市地域コミュニティ課

成 果：・３保育所それぞれ避難訓練実施の状況も異なったため、それぞれの訓練からの気づきを参加者に共有した。

・訓練に参加した自治会・町内会のほか、関わると良い自治会・町内会やセク

ターにTSCが声がけしたことで、新たなつながりを生むことができた。

エ) 浜松市との未就学児を守るための情報交換会

【企画について】

日 時：令和4年12月12日（月）14:00～15:30

会 場：多賀城市役所 202 会議室（Zoom）

内 容：多賀城市と浜松市の未就学児を守るための避難訓練についての情報交換

参 加：17 名（団体、企業、保育所、行政等）

【連携について】

概 要：多賀城市と浜松市の未就学児を守るための避難訓練についての情報交換を行った。

連携団体：・一般社団法人 Bird's-eye／認定NPO法人魅惑的倶楽部（主催）

・多賀城郵便局 ・多賀城市危機管理課 ・浜松市市民協働センター

・マーガレット保育園 ・浜松磐田信用金庫SDGs推進部

・認定NPO法人はままつ子育てネットワークぴっぴ ・浜松市危機管理課

成 果：浜松と多賀城の避難訓練で共通していることや連携先や手法の違いなど、情報交換することで双方に学びがあった。

オ) 多賀城市長杯 多賀城創建 1300 年記念 交流将棋大会

【企画について】

日 時：令和5年3月19日（日）10:00～12:30（市内小学生の部）

令和5年3月21日（火・祝）10:00～16:00（一般の部）

会 場：多賀城市市民活動サポートセンター

内 容：・多賀城市内の小学生を対象とした将棋大会の実施

・他市、多世代交流を目的とした将棋大会の実施

参 加：104 名（市内小学生以下の部 23 名 一般の部 81 名）

【連携について】

概 要：TSCは主催する市民活動団体と観光協会会員を対象とした市内事業所、行政とのつなぎと運営のサポートを行った。

連携団体：・多賀城将棋ラボ（主催） ・多賀城市市民文化創造課

・多賀城市観光協会 ・市内事業者 ・市内小学校

成 果：市民活動団体と行政や観光協会をつなげ、連携して次世代への将棋文化継承のための事業を行うことができた。

カ) 多賀城市鶴ヶ谷児童館 令和4年度地域懇談会

【企画について】

日 時：令和5年2月13日（月）10:30～11:30

会 場：多賀城市鶴ヶ谷児童館 ホール

内 容：鶴ヶ谷児童館へ市内の活動者や活動団体を紹介。地域懇談会への出席。

参 加：20 名

【連携について】

概要：TSCは主催団体と市民活動団体をつなぐとともに、児童館の企画運営のサポートを行った。

連携団体：・多賀城市鶴ヶ谷児童館（主催）

- ・NPO法人MIYAGI 子どもネットワーク
- ・天真小学校放課後児童クラブ
- ・多賀城小学校放課後児童クラブ
- ・多賀城東小学校放課後児童クラブ
- ・市内小中学校
- ・市内幼保施設
- ・市営鶴ヶ谷住宅自治会
- ・黒石崎町内会
- ・桜木東町内会
- ・下馬東町内会
- ・下馬南町内会
- ・鶴ヶ谷老人クラブ鶴寿会
- ・多賀城市子ども政策課

成果：多賀城市内の市民活動団体をつなぐことで、団体の活動が広がったとともに児童館運営に地域の人に関わることができた。

キ) 多賀城市西部児童センター 令和4年度地域懇談会

【企画について】

日時：令和5年2月24日（金）10:30～11:30

会場：多賀城市西部児童センター

内容：西部児童センターへ市内の活動者や活動団体を紹介。地域懇談会への出席。

参加：17名

【連携について】

概要：TSCは主催団体と市民活動団体をつなぐとともに、児童館の企画運営のサポートを行った。

連携団体：・多賀城市西部児童センター（主催）

- ・NPO法人MIYAGI 子どもネットワーク
- ・山王小学校放課後児童クラブ
- ・城南小学校放課後児童クラブ
- ・多賀城八幡小学校放課後児童クラブ
- ・市内小中学校
- ・志引保育所
- ・山王自治会
- ・新田三区町内会
- ・高橋南町内会
- ・高橋東二区町内会
- ・西部地区民生委員
- ・多賀城市レクリエーション協会
- ・かるがもクラブ
- ・NPO多賀城谷山学園
- ・キャロットマザーズクラブ
- ・多賀城市子ども政策課

成果：多賀城市内の市民活動団体をつなぐことで、団体の活動が広がったとともに児童館運営に地域の人に関わることができた。

ク) 多賀城市文化センター 春の回廊アート 2022

【企画について】

日時：令和4年5月15日（日）11:00～11:30

会場：多賀城市文化センター

内容：地域への想いをテーマにした聴覚障がいのあるゲストのトークショー。

参加：20名

【連携について】

概要：障がいのある人もない人も楽しめるように情報保障のサポートをおこなった。

連携団体：・多賀城市文化センター指定管理者（主催）

・多賀城市教育委員会文化財課 ・多賀城市市民文化創造課

成 果：情報保障のサポート、企画に関わる中で、ユニバーサルな視点を共有することができた。

②大学との連携

ア) 東北学院大学工学部講義「地域の課題Ⅱ（地域課題版）」

【企画について】

日 時：令和4年10月3日（月）8:50～10:20（第3回講義）

令和5年1月16日（月）8:50～10:20（第15回講義）

会 場：東北学院大学多賀城キャンパス

内 容：

- ・多賀城市における地域コミュニティ（市民活動等）についての講話（第3回講義）
- ・フィールドワーク（インタビュー調査）先の紹介
- ・学生の成果発表に対する講評・コメント（第15回講義）

参 加：8名

【連携について】

概 要：TSCからは、市民活動の基礎とTSCの設置目的や機能の紹介などを行った。また学生の発表に際しては質疑やアドバイスをを行い、学生の更なる気づきを促した。

また、多賀城市地域コミュニティ課と連携してインタビュー先を紹介した。

連携団体：

- ・東北学院大学地域連携センター（主催） ・多賀城市地域コミュニティ課
- ・旭ヶ岡町内会 ・新田中区親交会

成 果：大学生が講義の中でNPO・市民活動団体のことについて知り、地域課題の発見や解決のための取り組み案の作成の参考にした。

イ) 東北学院大学工学部特別講義「地域の課題とボランティア活動」

【企画について】

日 時：①令和4年12月1日（木）16:20～17:50（第12回講義）

②令和4年12月4日（日）9:00～16:00

※TSC事業「たがさぼのクリスマス雑貨市」にボランティアとして参加

③令和5年1月21日（土）13:00～17:00

※TSC事業「届く、届ける情報発信 SNS活用講座」にボランティアとして参加

会 場：①東北学院大学多賀城キャンパス、②③多賀城市市民活動サポートセンター

内 容：地域の課題解決に向けたボランティア活動の役割を理解する講座

参 加：①②2名、③1名

【連携について】

概 要：TSCからは、多賀城市近隣での市民活動についての紹介と、自発的に活動

に関わる意義について考える講座を行った。また、ボランティア活動の体験の場を提供した。

連携団体：・東北学院大学地域連携センター（主催） ・多賀城市地域コミュニティ課

成 果：大学生が多賀城市のNPO・市民活動団体の目的について知ること、またボランティアの現場を体験することで団体の活動に自分たちがどのように関われるのかを考えるきっかけとなった。

ウ) 東北学院大学教養学部講義「地域の課題Ⅱ（地域課題版）」

【企画について】

日 時：令和5年1月16日（月）14:30～15:30（成果報告会）

会 場：オンライン

内 容：地域課題の解決策について発表を聞いて、コメントやアドバイスをを行った。

参 加：80名（17グループ）

【連携について】

概 要：TSCは、地域が抱える様々な課題に対して、先行研究や各種実践事例などに基づく形で学生が考えた課題設定、その解決に向けた仮説やアイデアに対するプレゼン資料やグループ発表へコメントした。

連携団体：・東北学院大学地域連携センター（主催） ・多賀城市地域コミュニティ課

・多賀城市市民文化創造課 ・多賀城市教育委員会文化財課

・多賀城市教育委員会生涯学習課

成 果：大学生が仙台市荒町地区、連坊地区、泉区、太白区、青葉区などの地域課題について、どのように課題を設定し、解決策を考えているかを知ることができた。

(6) スタッフの研修への参加

1) 外部研修

各スタッフに外部研修への参加を促し、業務の参考としていくとともに、積極的に参加者や講師と交流も図った。

研修等名称	主催	日程	参加
多賀城市職員研修「SDGsワークショップ」	多賀城市	4月26日(火)	金子・勝井
行政職員のためのNPO理解講座	みやぎNPOプラザ	6月2日(木)	小林
ボランティアコーディネーター研修「シニア世代の活躍にスポットを照らす～身近な場所における“ちょこっとお手伝い”を増やそう～」	社会福祉法人宮城県社会福祉協議会	7月12日(火)	川口
NPO支援センター初任者研修会2022	NPO法人日本NPOセンター	8月3日(水) 8日(月) 25日(木)	小笠原
NPO支援者のための実践研修「組織基盤強化サポート研修2022」	パナソニックホールディングス株式会社・NPO法人日本NPOセンター	8月22日(月) 29日(月)	川口
新任ボランティアコーディネーター基礎研修	NPO法人日本ボランティアコーディネーター協会	9月3日(土)	西條
宮城県NPO支援施設情報交換会 第1回	みやぎNPOプラザ	9月30日(金)	小笠原
多賀城市職員研修「市民参画と協働に関する職員研修」	多賀城市	10月4日(火)	川口・渡辺
相談対応に大切な『質問力』を磨く	みやぎNPOプラザ	11月10日(木)	浅野
中高生のボランティアコーディネートポイント講座	みやぎNPOプラザ	11月30日(水)	小林
みやぎNPOプラザフォーラム2022「NPOと協力のテクノロジー 『異なる人』と協力するために」	みやぎNPOプラザ	12月11日(日)	西條
市民の参加と協働を進めるコーディネーション研究集会	NPO法人日本ボランティアコーディネーター協会	12月17日(土) 12月18日(日)	中津
組織基盤強化フォーラム「誰と一緒に組織をつくるのか？NPO/NGOの組織基盤強化における『参加』の力」	パナソニックホールディングス株式会社・NPO法人日本NPOセンター	1月27日(金)	川口
とうほくNPOフォーラム in 仙台 2022「復興の先端 地域を元気にする方法 NPOに求められる力」	NPOサポートリンク	2月28日(火)	京極
NPO支援施設フォローアップ事業人材育成研修	みやぎNPOプラザ	3月2日(木) 3日(金)	川口
宮城県NPO支援施設情報交換会 第2回	みやぎNPOプラザ	3月23日(木)	中津・西條

2) 内部研修

各スタッフは研修会参加後に報告書を作成し、スタッフで回覧することで内容の共有を図っている。また、業務に深く関係するものについては内部で伝達研修も行った。

これ以外にも、相談対応、ファシリテーション、講座体験などの研修を随時行い、スタッフの資質向上に努めている。

実施日	研修	講師
9月21日(水)	『環境』に関する基本のキに立ち返る	EPO東北

I -4 事業実施状況

(1) 地域の担い手育成事業 1) 雑貨市等

目 的	○市民活動を知らない方や、これまで関わったことがない方に、市民活動団体（以下、団体）が販売する商品の購入、ワークショップへの参加、展示を通して市民活動を知るきっかけを作り、社会課題や団体の活動について考えてもらう。 ○雑貨市以外でも、団体が販売する商品を購入したり活動に参加するなど、市民活動に関わる人材を増やす。 ○気軽に足を運べる雑貨市を開催することでT S Cへの新規来館者を生み、T S Cの認知度を高め、イベント以外でも立ち寄りやすい施設である事を知ってもらう。
背 景	○「たがさぼのクリスマス雑貨市」は、毎年12月に実施するイベントとして多賀城市民に認知されてきている。当事業は、無関心層が市民活動に関わる貴重な機会を作りだすとともに、T S Cの存在を知るといった効果も生み出している。 ○今年度は新たに市民活動に触れたことがない小学生、保護者を対象に地域課題や市民活動を知る機会を提供したい。
対 象	○市民活動に触れたことがない小学生と保護者 ○雑貨に関心を持つ20～40代
成果目標	○雑貨類の購入やワークショップへの参加、展示を通して、市民活動団体やその活動内容、地域・社会課題を知る、あるいは新たな気付きを得る人の獲得 ・数値目標：150名（来場者の60% 来場者アンケートより集計） ○雑貨市参加後も団体の支援につながる雑貨類の購入をしたいという人の獲得 ・数値目標：175名（来場者の70% 来場者アンケートより集計） ○Instagramの雑貨市アカウントのインタラクション数の増加 ・数値目標：平常月の200%以上 （SNSへのアクセス数と閲覧者のアンケートより集計） ○雑貨市きッズ講座の参加者とクリスマス雑貨市の来場者数の獲得 ・合計数値目標：250名（雑貨市きッズ講座参加者とクリスマス雑貨市の来場者数） ○雑貨市の新規来場者の獲得 ・新規来場者数(雑貨市)目標：75名（来場者の30% 来場者アンケートより集計）
成 果	○社会課題を知る、新たな気付きを得た人の獲得 233名中168名（来場者の72.1%） ○支援につながる雑貨類の購入をしたい人の獲得 233名中224名（来場者の96.1%） ○Instagramのインタラクション数の増加 78→456（+584%） ○クリスマス雑貨市の来館者数の獲得 548名（きッズ講座の13名含む） ○新規来館者の獲得 233名中116名（来場者の49.8%）
次年度に向けた課題	○市民への認知度は向上してきているが、市民ボランティアや出展団体がより主体的に雑貨市の運営に関われるようにすることで市民の関わりしろや興味関心が広がると考える。 ○出展団体やボランティア、当日来館した市民がより主体的に社会課題をとらえ、どのようにその後の活動や生活につなげていけるか、関わりしろを広げていけるかを探っていきたい。

実施概況（１）地域の担い手育成事業 １）雑貨市等

１．雑貨市きつず講座

日 時：令和4年8月～12月の期間中に5回開催

（詳細の日時は下記参照）

会 場：多賀城市市民活動サポートセンター

対 象：市民活動に触れる機会がない小学生とその保護者

内 容：市民活動を知り体験できる場や多様な人々に関わる機会を提供する講座とワークショップを実施する。その体験を通して市民活動に興味関心を持ってもらい、将来市民活動に関わるきっかけを作り出す。

参 加：小学生 15 名

（１）ハーブとクッキーと島おこしのはなし

日 時：令和4年8月7日（日）10:00～11:30

会 場：多賀城市市民活動サポートセンター 301 会議室

ゲスト：羽生裕二さん（浦戸の花物語プロジェクト）

内 容：TSCスタッフによる雑貨市の説明のあと、ゲストから活動についてのお話と手話を使った買い物シミュレーションを行った。

参 加：12 名／保護者参加：7 名

成 果：「話す」以外のコミュニケーションを通して、共生社会について気づききっかけになった。

（２）海のゴミを宝物に！～アップサイクルワークショップ～

日 時：令和4年9月23日（金・祝）10:00～11:30

会 場：多賀城市市民活動サポートセンター 大会議室

ゲスト：鈴木若子さん（しちがはまツーリズム）

内 容：使われなくなったヨットの帆布を活用してバックづくりを行った。

参 加：13 名／保護者参加：8 名

成 果：海のゴミはまちで発生していて、まちでゴミを出さないことが大切だという事を学び、身近なゴミから環境を考えることにつながった。



1. 雑貨市きつず講座の様子



1.（１）手話を使ったお買い物体験



1.（２）身近なゴミから環境を学ぶ



1.（２）作ったバッグと記念撮影

(3) クッキーと障害とお金のはなし／墨ワークショップ

日 時：令和4年10月9日（日）10:00～11:30

会 場：多賀城市市民活動サポートセンター 301・302 会議室

ゲスト：飯嶋茂さん（NPO法人麦の会 コッペ）

大塚耕志郎さん（書家／書道楽）

内 容：前半はコッペの運営やその根底にある想いについてのお話、後半は墨のワークショップを行った。

参 加：10名／保護者参加：5名

成 果：障がいの有無に関係なく、ともに働くことの大切さを学んだ。また、墨で思い思いに作品を制作するワークショップで、自分の表現力や個性を活かすことを学んだ。

(4) 雑貨市ボランティア事前説明会

日 時：令和4年11月19日（土）13:00～14:30

※詳細は下記の「2. 事前説明会」を参照

(5) 雑貨市ボランティア／お買い物体験

日 時：令和4年12月11日（土）10:30～15:00

会 場：多賀城市市民活動サポートセンター

内 容：参加の小学生が、クリスマス雑貨市の出展団体に販売・活動補助ボランティアとして参加した。ボランティア活動終了後、買い物の体験も行った。

参 加：13名

2. 事前説明会&出展団体交流会

日 時：令和4年11月19日（土）

13:00～13:30 事前説明会

13:30～14:30 団体紹介、交流会

会 場：多賀城市市民活動サポートセンター

大会議室、301・302 会議室

対 象：出展団体、ボランティア、きつずボランティア

内 容：雑貨市の趣旨説明、団体の活動紹介、団体同士の交流など説明の機会と情報交換の場を設けることで雑貨市開催の趣旨を再確認してもらった。雑貨市きつず講座4回目、ボランティア説明会も同時に開催し、交流を図った。



1. (3) コッペのクッキーを購入



1. (3) ゲストによる墨での試し書き



1. (5) 雑貨市当日、きつずボランティアへの事前説明



2. 出展団体事前説明会。雑貨市について説明中。

参加団体：21 団体（23 名）

ボランティア：6 名

きつずボランティア：12 名（保護者 5 名）

3. 雑貨市展示（フードボックス、寄付ボックスの設置）

日 時：

①令和 4 年 11 月 1 日（火）～11 月 13 日（日）

②令和 4 年 11 月 15 日（火）～11 月 25 日（金）

③令和 4 年 11 月 1 日（火）～令和 5 年 1 月 31 日（火）

会 場：①多賀城市立図書館

②多賀城市役所

③多賀城市市民活動サポートセンター

内 容：フードボックスでは食料品、日用品などを受け付け、
NPO 法人いのちのパンに寄贈した。

寄付ボックスでは書き損じハガキや使用済み切手などを
受け付け、NPO 法人シャプラニール＝市民による
海外協力の会に寄贈した。



3. フードボックス、寄付ボックス。お米の寄付もあった。

4. たがさぼのクリスマス雑貨市 2022

（1）全体概要

日 時：令和 4 年 12 月 4 日（日）

10:30～15:00（最終入場 14:30）

会 場：多賀城市市民活動サポートセンター全館、芝生広場

対 象：雑貨に関心を持つ女性、市民活動に興味を持つ小学生
と保護者

内 容：市民活動団体の雑貨・食品の販売、ワークショップ、
フードボックス、寄付ブース、等

出展団体数：33 団体

ボランティア：30 名（一般 17 名、きつず 13 名）

来場者数：535 名

アンケート回収数：233 枚



4. 来場者でにぎわう T S C 館内

（2）出展団体内容

○食品

- ・あいの郷／富谷
- ・NPO 法人麦の会 コッペ／仙台
- ・生涯学習 100 年構想実践委員会／多賀城
- ・社会福祉法人ゆうゆう舎(ばれった・けやき宮城野)／仙台



4. 名物！多賀城やかもち鍋の販売

- ・本格遠赤焙煎珈琲 まめ福／多賀城
- ・マイロ／仙台
- ・ワークスペースぽぽ／仙台
- ・NPO法人コスモスクラブ（すまいる作業所）／仙台
- ・一般社団法人ステージパス／七ヶ浜

○雑貨

- ・四季をいろどる手仕事の雑貨「縁」（いいね仙台）／仙台
- ・NPO法人ソキウス仙台（アトリエソキウス）／仙台
- ・NPO法人アマニ・ヤ・アフリカ／仙台
- ・珈琲豆と手しごとのモノ kyu／石巻
- ・多賀城市国際交流協会・多賀城高校語学研究部／多賀城
- ・マオメオ・キャットクラブ／仙台
- ・NPO法人みどり会（みどり工房長町）／仙台
- ・編み物サークルアミー／多賀城

○ワークショップ

- ・お習字ワークショップ&販売 書道楽／仙台
- ・多賀城市地域活動支援センター コスモスホール／多賀城
- ・こども防災の日をつくる会 in 飛び出す！ビルド／多賀城
- ・手形足形ぺったんアートチコラ／多賀城
- ・むかい＊いきもの研究所／多賀城
- ・リボンヌ手芸部 Miyagi／仙台
- ・多賀城イングリッシュ・サポーターズ（TES）
／多賀城

- ・サーラ文庫大代／多賀城
- ・家庭文庫ちいさいうち／多賀城
- ・朗読サークル にじいろ玉手箱／多賀城
- ・あそびのわ◎がまっこプレーパーク／塩釜
- ・NPO法人仙台スラックライン／仙台
- ・多賀城市ジュニアリーダー「エステバン」／多賀城
- ・地域盛り上げ隊 タガレンジャー／多賀城

○寄付ブース

- ・NPO法人シャプラニール＝市民による海外協力の会
／東京
- ・NPO法人いのちのパン／多賀城

（３）寄付ブース実績内容

- NPO法人シャプラニール＝市民による海外協力の会
- ・書籍：170冊 ・漫画本：492冊



4. 雑貨販売の様子



4. ワークショップの様子



4. 絵本の読み聞かせステージ



4. 外あそびブースのたき火体験

- ・CD：35枚　・DVD：3枚　・おもちゃ：3点
- ・はがき：117枚　・切手：1,165枚
- NPO法人いのちのパン／多賀城
- ・食品：45.45kg　・米：76.7kg　・日用品：25.6kg

(4) メディア出演

○ベイウエーブ「ラジカルト」

・令和4年12月1日（木）12:15～12:20

（クリスマス雑貨市の紹介・告知）



4. タガレンジャーによる消毒協力

アンケート集計結果

1. たがさばの雑貨市きつず講座

(1) ハーブとクッキーと島おこしのはなし（保護者含め、17件回収）

①内容について

よくわかった	すこしわかった
15名	2名

②ゲストへのメッセージ（抜粋）

・今日のお話をきき、障がい者の人にもっとよりそいたいなと思いました。

③自分にもできると思ったこと（抜粋）

- ・自分のまわりにも、耳が聞こえづらい人がいるので、手話を覚えてみようかなと思った。
- ・文字を使って会話することです。
- ・聞こえない人に会ったら少しでも挨拶してみたいです。

(2) 海のゴミを宝物に！～アップサイクルワークショップ～（保護者含め、21件回収）

①内容について

よくわかった	すこしわかった
18名	3名

②ゲストへのメッセージ（抜粋）

・私も、ゴミを海に流出しないようにするためにがんばります。

③自分にもできると思ったこと（抜粋）

- ・ゴミがでたり、外でみつけたりしたら、ゴミばこにきちんとする。
- ・ゴミが道に落ちていたら拾うようにする。

(3) クッキーと障害とお金のはなし／墨ワークショップ（保護者含め、15件回収）

①内容について

よくわかった	すこしわかった
13名	2名

②ゲストへのメッセージ（抜粋）

・しょうがいしゃもふつうの人とはたけらるようにしているのがすごいと思いました。

・「漢字に命をこめる」というのが勉強になりました。

③自分にもできると思ったこと、感想（抜粋）

- ・「コッペ」のボランティアをやりたいです。
- ・「コッペ」のクッキーやパンを買いに行こうと思いました。
- ・習字はもともとにがてだったが、自由に自分なりにできたのでよかったです。

4. たがさぼのクリスマス雑貨市 2022 アンケート

（1）来場者アンケート（233 件回収）

1）ご自身について

①年代

10 代以下	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代以上
49 名	7 名	49 名	44 名	34 名	34 名	13 名	3 名

②住所

多賀城市	塩竈市	七ヶ浜町	利府町	松島町	仙台市	その他
139 名	20 名	11 名	2 名	1 名	37 名	7 名

③来館回数

初めて	2 回目	3 回以上
116 名	22 名	50 名

2）雑貨市をどこで知ったか？（複数回答可）

①チラシ・ポスター

T S C	市役所	市内外の施設	市内スーパー・飲食店	他
79 名	21 名	22 名	6 名	49 名

②インターネット

HP	ブログ	ツイッター	インスタグラム	市の F B /LINE
21 名	5 名	4 名	31 名	11 名

③その他

他ウェブメディア	フリーペーパー	新聞
9 名	4 名	4 名

④聞いて

家族	友人・知人	T S C スタッフ	他
32 名	21 名	10 名	10 名

3）雑貨市の満足度

5	4	3	2	1
98 名	75 名	48 名	6 名	1 名

○理由（抜粋）

- ・思った以上の賑わいでびっくりした。ステキな商品が多く楽しめた。
- ・他のマルシェでは見ない商品がたくさんあった。

- ・折り紙ツリーが面白かった。
- ・色々な取り組みがありとても楽しかった。いろいろな活動も知れた。子どもと一緒に楽しめる。
- ・毎年すごく楽しみにしている。かわいい雑貨をたくさん買えたので良かった。アットホームな雰囲気も好き。
- ・色々な団体が出品していて良かった。あたたかな雰囲気の中とても入りやすかった。
- ・子どもがたくさん集まっていて元気をもらった。子どもがいると場が盛り上がる。
- ・たくさんのお店の方とお話できた。知らないことを色々教えてもらった。

(2) 出展団体アンケート (29 件回収/29 団体)

1) 雑貨市の売り上げについて

無料	10,000 円以下	10,001 円～20,000 円	20,001 円～30,000 円
4	6	6	5
30,001 円～40,000 円	40,001 円～50,000 円	50,001 円～60,000 円	60,001 円～70,000 円
2	3	2	1

○売り上げについて考えられる理由 (抜粋)

- ・Instagramを使って宣伝したことがご来場に繋がり、結果売上にも反映されたのかと思います。
- ・年ごとに「やかもち鍋」のおいしさが浸透してきたので、TSCの協力もあり販売数が増えた。
- ・きつずボランティアとその親御さんにお手伝いいただいたおかげで、機会損失を小さくできたためと思います。

2) 販売商品やワークショップの内容についてお客様とお話できたか

商品、ワークショップ の説明ができた	商品、ワークショップ の説明ができなかった	その他 未回答
24	0	5

○記述内容 (抜粋)

- ・WS体験されたお客様から、いろいろご質問いただき、商品そのものやコンセプトを話す余裕があった。
- ・防災についての備えと、避難行動の重要性など防災士として話しながら子どもたちと親御さんと楽しみながらの防災への備えについて話せたと思います。

3) 団体の活動についてお客様とお話できたか

説明ができた	説明ができなかった
23	6

○記述内容 (抜粋)

- ・コロナ感染症のなか、活動は計画の半分以下しか実施できていないですが、感染症が収まった後には楽しい活動を復活させるので広報など見て参加してください。
- ・若い世代のご家族の皆様には、初めて聞く団体だったことが多かったので、説明できたことがよかった。
- ・ボランティアのお手伝いのおかげで、余裕があったことに加え、当方の活動に興味をお持ちいただいたお客様が多かった。

4) そのほか、お客様とはどのようなお話があったか（抜粋）

- ・商品について、男性が手に取ってくださり、商品の品質とセンスが良いとお褒めいただき、うれしかった。
- ・親子ワークショップならではの子育て話をしました。また、ワークショップを覗きにきたご年配の方と、制作中の親子との会話なども生まれました！

5) 他の出展団体との交流について

他団体と交流ができた	他団体と交流ができなかった
16	13

○記述内容（抜粋）

- ・商品を購入した（9）
- ・活動について話をした（6）
- ・ワークショップを体験した（2）

6) 感想やご意見、気づいたこと（抜粋）

- ・いつも準備から撤収までお世話になっています。皆さん、優しくお手伝いしてくださるので、本当にありがたいです。
- ・小学生ボランティアさんの参加はとても素敵な取り組みだと感じました。小学生ボランティアに活躍してもらえる役割を作りたいと思いました。
- ・たくさんのお客様との交流があり、非常に楽しいイベントでした。毎回、たがさぼのイベントは心が温かくなります。

(3) ボランティアアンケート（17件回収／17名参加）

1) ご自身について

①年代

10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
7名	0名	2名	2名	2名	2名	1名	1名

②住所

多賀城市	塩竈市	七ヶ浜町	利府町	松島町	仙台市	その他
14名	0名	0名	0名	0名	2名	1名

2) 雑貨市のボランティアをやりたいと思った理由を教えてください（複数回答可）

イベントに関心	雑貨に関心	団体に関心	ボランティアをしたかった	知人の誘い
3名	1名	1名	9名	2名
学校の先生に すすめられた	活動に 役立てたい	NPOの手助け をしたい	たがさぼの イベントだから	その他
1名	2名	2名	2名	2名

3) 雑貨市当日について

①活動の全体の満足度

5	4	3	2	1
9名	8名	0名	0名	0名

○理由（抜粋）

- ・初めてボランティアに参加して知らない人との交流や防災の知識を教えてもらったり、多くの経験をすることができた。
- ・当日は午前中のみボランティア参加となったが、初めの参加で非常に熱気あふれる出展者の方たちのブースや参加者の方の多さに、非常に驚きました。多くの方が楽しみにしている毎年恒例の多賀城の地域密着イベントであることを実感しました。

②ボランティアの内容について

分かりやすい	普通	分かりにくい
8名	9名	0名

③参加団体との交流はできたか

よくできた	普通	出来なかった
8名	9名	0名

④今回のボランティアを通してわかったことや気づいたことや感想（抜粋）

- ・知らない人との交流も、モノなどを通じた交流ならとても容易に交流することが可能であることが分かりました。
- ・初めてのボランティアでしたが、商品を売り上げたときの達成感などが味わえました。
- ・サポートをして団体さんにつくことが多くありましたが、体験をすることで知識や理解が深まり、よい経験になったと思いました。前までお客さんとして来ていた雑貨市もボランティアとして参加しても楽しかったです。

（4）きっずボランティアアンケート（13件回収／13名参加）（抜粋）

①クリスマス雑貨市のボランティアはどうでしたか？

- ・とても楽しかったし、お店の人たちのお手伝い、もっとしたかったです。
- ・初めはどきどきしたけど、だんだん楽しくできてきて、良かった。

②クリスマス雑貨市の出展団体の人とお話しましたか？

- ・何をしたらいいかをきちんと教えてくれたので、お手伝いがしやすかったです。
- ・一緒に販売したり、どんなふうで作っているのかをお話しました。

③ボランティアをやってわかったことや気がついたことはありますか？

- ・喜んでくれる人がいると自分もうれしい気持ちになったことに気がつきました。
- ・障がいをもってる方たちにも仕事ができるところがあり活躍していることを知ることができました。

④雑貨市きっず講座は全体を通してどうでしたか？参加した感想をおしえてください。

- ・とても楽しくて、いろいろな人との絆が生まれた。
- ・お客さんに「ありがとうございました」というとお客さんがよろこんでくれた。
- ・ワークショップを通して物を作る楽しさを知りました。

* 添付資料 ■チラシ ■ポスター ■当日配付資料

(1) 地域の担い手育成事業 2) いちから塾等

目 的	○NPOについての知識を深め、想いを整理することで、地域課題へ気づくための視野を広げていき、市民活動に一步踏み出す状態をつくる。 ○参加者と、OB及び地域の既活動者が出会い、互いが刺激し合える場づくりを通して、多賀城やその周辺地域の市民活動の一層の活性化を目指す。 ○市民活動に一步踏み出した人をTSC・地域の既活動者らがサポートできるような関係性を育む。 ○上記を達成することで自らの想いや考えをかたちにし、市民が主体となった地域づくりに取り組む人材を育ててゆく。
背 景	○市民活動やボランティアに関心はあるが、何から始めたら良いかわからない人に対して、きっかけを逃すことのないよう、市民活動について学べる場を設ける。また、活動を始めたい人、始めたばかりの人に向け、参加者それぞれの想いの整理を丁寧に行うとともに参加者及びOB、講師などの協力者とのつながりをつくり、想いの後押しや協力・アドバイスなどができる関係性を築く。そして、地域全体で活動者のサポートをしていくことで、持続可能な活動につながるよう支援する。
対 象	○市民活動やボランティア活動に関心がある、また地域や社会で役に立ちたいと感じているが具体的な活動方法などがわからない人 ○活動を始めたが、周囲に気軽に相談できる場所がなく、立ち止まっている人
成果目標	○事業への参加を通して市民が何らかのアクションを3件以上起こす。 例えば、 ・これまでボランティア活動を行ったことがない人が、ボランティア活動を行う。 ・市民活動への参加に迷いを感じていた人が、活動に参加する。 ・小さくても良いので、自らの想いをカタチにして活動の一步を踏み出す。 ・任意団体設立のための情報収集をする、など。
成 果	○9名の参加者が講座をきっかけに23件のアクションを起こした。 ・講座参加者主催のイベントに他の参加者が出展・参加（3件） ・雑貨市ボランティアへの参加（2件）、出展（1件） ・参加者とゲストがつながり、ゲスト主催のイベントに出展（2件） ・市内公民館での活動を開始。チラシを作成し配布した（1件） ・活動プランを広く知ってもらう場を企画（1件） ・出前NPOいちから塾を受講（1件） ・TFLサポーターへの相談（12件）
次年度に向けた課題	○出前いちから塾；団体や地域からの依頼が少なく、NPOについて学んでもらえる場をつくれなかった。立ち上げたばかりの団体や、新たなメンバーのいる団体に声がけなどを行い、学びを通して活動に生かしてもらえるようにする。 ○TFL；受講生が講座プログラムやサポーター制度をさらに活用し、地域での活動を継続できるようにする。

実施概況（１）地域の担い手育成事業 ２）いちから塾等

１．NPOいちから塾

日 時：令和4年5月27日（金）19:00～21:00

会 場：多賀城市市民活動サポートセンター大会議室

対 象：市民活動に興味・関心のある方

（学生を含め幅広い世代）

プログラム：

- ・NPO基礎講座
- ・たがさぼガイドツアー
- ・質疑応答・交流タイム
- ・アンケート記入など

講 師：スタッフ西條

参 加：10名



1. NPOいちから塾／講座の様子



1. NPOいちから塾／たがさぼガイドツアー

２．TAGAJ0 Future Labo 6th season（5回連続講座）

（１）スペシャルトーク（公開講座）

日 時：令和4年7月16日（土）13:30～15:30

会 場：多賀城市市民活動サポートセンター大会議室

対 象：NPOいちから塾参加者、活動を始めたばかりの方

プログラム：

- ・スペシャルトーク
- ・グループ交流
- ・質疑応答
- ・アンケート記入など

ゲスト：廣川和紀さん（一般社団法人プレーワーカーズ）

参 加：16名



2.（１）ゲストより市民活動に関わったきっかけなどをお話いただいた



2.（１）グループ交流では参加者同士がつながるきっかけの場となった

（２）想いの整理をしよう

日 時：令和4年8月11日（木・祝）13:30～15:30

会 場：多賀城市市民活動サポートセンター

大会議室、301・302 会議室

プログラム：

- ・ワークショップ
(自己紹介シート、ヒストリーグラフ作成)
- ・全体共有
- ・グループワーク
- ・気づきの共有
- ・アンケート記入など

講師：スタッフ渡辺

参加：10名

(3) 活動者の話を聞こう①

日時：令和4年9月11日(日) 13:30～15:30

会場：多賀城市民活動サポートセンター301・302 会議室

プログラム：

- ・ゲストトーク
- ・質疑応答
- ・ミニ講座
「地域と想いのバランスやアクションの段階について」
- ・グループトーク
- ・アンケート記入など

ゲスト：檀崎たつみさん

(一般社団法人子どもアドボカシーセンターみやぎ)

木下みづきさん

(三毛猫にゃん太のショッピングモール運営)

参加：7名

(4) 活動者の話を聞こう②

日時：令和4年10月16日(日) 13:30～16:00

会場：さんみらい多賀城イベントプラザSTEP

プログラム：

- ・ゲストトーク
- ・質疑応答
- ・グループトーク(プラン共有)
- ・アンケート記入など

ゲスト：相澤直さん(障がい者サポーターズGolazo!)

松村正子さん(株式会社多賀城DMC)

参加：8名



2.(2) 自分の想いを整理するヒストリーグラフを記入するワークショップ



2.(3) ゲストトークで真剣にメモをとる参加者



2.(3) スタッフによるミニ講座



2.(4) ゲストトーク



2.(4) 広い会場でプランを共有した

(5) 交流会

日 時：令和4年11月13日（日）13:30～16:00

会 場：多賀城市民活動サポートセンター

大会議室 301・302 会議室

プログラム：

- ・受講生の発表
- ・グループトーク
- ・交流タイム
- ・アンケート記入など

参 加：14名（受講生6名 一般聴講8名）



2. (5) 受講生の発表



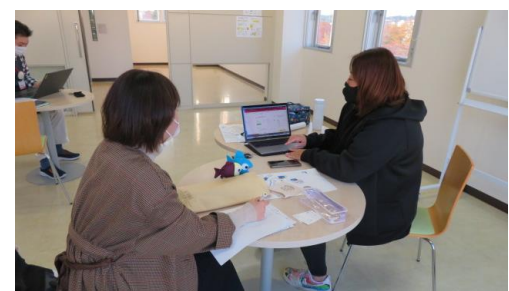
2. (5) 交流タイム。受講生の発表内容を深掘りしたり、実践へのアイデアを出した。

(6) サポーター相談会

概 要：地域の既活動者に「サポーター」として受講生の相談対応を依頼した。相談は受講生1名につき2回まで、1回1時間程度とした。

会 場：多賀城市民活動サポートセンター

サポーター	相談会日時
一般社団法人 チガノウラカゼコミュニティ 代表理事 津川登昭さん	11/5（土）16:00～17:00 1/14（土）14:00～15:00 1/14（土）15:00～16:00
ハッピーピース 代表 本郷佳江さん	11/10（木）10:00～11:00 1/ 7（土）19:00～20:00 ※オンライン
行政書士えんどう輝江事務所 行政書士 遠藤輝江さん	11/10（木）14:00～15:00 2/25（土）14:00～15:00
企画・デザイン REZAIN 代表 鈴木若子さん	11/12（土）15:00～16:00 12/27（火）17:00～18:00
株式会社 season 代表取締役 渡邊晃さん	1/21（土）13:30～14:30 ※オンライン 1/23（月）14:00～15:00 1/30（月）15:00～16:00



2. (6) マスコットキャラクターを使ったSNS発信についての相談



2. (6) 今後の活動に向けてのポイントを整理した。

3. 出前NPOいちから塾

(1) 子どもの居場所づくりをしたいと考えている人たち

日 時：令和4年8月16日（火）19:00～20:00

会 場：多賀城市市民活動サポートセンター（オンライン）

内 容：NPO基礎講座、子どもの居場所づくりをしている
団体の紹介

講 師：スタッフ渡辺

参 加：2名

(2) 東北学院大学工学部講義

日 時：令和4年10月3日（月）8:50～10:20

会 場：東北学院大学工学部

テーマ：地域教育科目「地域の課題Ⅱ（地域課題版）」

内 容：NPOの基礎知識、TSCの取り組み紹介

講 師：スタッフ中津

参 加：8名

(3) 多賀城高校キャリアセミナー

日 時：令和4年11月15日（火）12:50～16:10

会 場：多賀城高等学校

内 容：NPOの基礎やTSCの紹介、働くことについて

講 師：スタッフ渡辺

参 加：8名

(4) 東北学院大学工学部特別講義

日 時：令和4年12月1日（木）16:20～17:50

会 場：東北学院大学工学部

テーマ：「地域課題とボランティア」

内 容：TSC、NPOの基礎、多賀城で活動する市民活動団
体について、自分の興味関心・特技と地域課題を結び
付けるワークショップ。

講 師：スタッフ渡辺

参 加：2名

その他：

- ・参加の学生2名が、12/4（日）開催の「たがさぼのクリスマス雑貨市」で運営ボランティアとして活動した。
- ・当日の講義を欠席した学生1名が、1/23（土）開催の「届く、届ける情報発信 SNS活動講座」で運営ボランティ



3. (2) 講義の様子



3. (3) セミナーの様子



3. (4) 講義では、地域で活動している団体を紹介した

アとして活動した。 (5) 子どもの居場所づくりをしたいと考えている人たち 日 時：令和5年3月24日（火）14:30～16:20 会 場：多賀城市市民活動サポートセンター101 会議室 内 容：NPO基礎講座、子どもの居場所づくりをしている 団体の紹介 講 師：スタッフ渡辺 参 加：2名	
--	--

アンケート集計結果

1. NPOいちから塾（1回目）（10件回収／10名参加）

①年代

10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
0名	1名	1名	3名	4名	1名	0名	0名

②住所

多賀城市	塩竈市	七ヶ浜町	利府町	松島町	仙台市	その他
5名	1名	1名	0名	0名	1名	2名

○その他（美里町2名）※市社会福祉協議会職員2名、市職員1名参加

③講座をどこで知ったか

TSCスタッフ	チラシ
7名	3名

○チラシ（ビッグ多賀城店、東北歴史博物館、せんだいメディアテーク）

④満足度（5段階評価）

5	4	3	2	1	回答無
6名	3名	0名	0名	0名	1名

○「5」を選んだ理由（抜粋）

- ・NPOとは？をわかりやすく説明していただき、より具体的に知ることができた。
- ・知りたかったことが知れた講座だった。たがさぼがより身近に感じられて、今悩んでいることも相談したり意見を聞いたりしにまたうかがいたいと思った。
- ・活動団体の基本や定義を深めることができた。他にも利用できるスペースがあり、館内案内もとてもよかった。

○「4」を選んだ理由

- ・フレンドリーなスタッフの皆さんに感謝。
- ・NPOのこと教えていただきよかった。

⑤講座で学んだことや質問・感想（抜粋）

- ・地域の課題を見つけて、行動を起こして行く人が集まって活動するというのはすごいと感じた。
- ・NPOとは何か知れてよかった。他の参加者の「サークルみたいな感じ！」というのがとても印象的だった。それだと、もっと気楽に気負わずできそうだったと思った。
- ・非営利の意味を知り、自分の認識が間違っていたことがわかった。

⑥始めてみたい活動やもっと詳しく知りたいこと

- ・NPOの実務講座に参加したい。

2. TAGAJI Future Labo 6th season（5回連続講座）

（1）スペシャルトーク（16件回収/16名参加）

①年代

10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
1名	0名	5名	4名	6名	0名	0名	0名

②住所

多賀城市	塩竈市	七ヶ浜町	利府町	松島町	仙台市	その他
11名	1名	0名	0名	0名	4名	0名

③満足度（5段階評価）

5	4	3	2	1
13名	3名	0名	0名	0名

○「5」を選んだ理由（抜粋）

- ・ゲストのキャスティングが初回としてとてもよかったと感じた。
- ・「あそび」というテーマが自分にとって分かりやすく、仕事に生かせるボラ希望の方とつながりを持てた。
- ・プレーパークの存在を深く聞いたこと。多くの志ある仲間の方に出会えた。

○「4」を選んだ理由

- ・参加者全員と話がしたかった。
- ・前向きに取り組もうとしている姿を懐かしく感じた。（TFL卒業生）

④多賀城市との関わり

住んでいる	通勤・通学	家族・親戚がいる	その他
11名	2名	0名	3名

○その他（理由）

- ・今後の活動場所として検討している。

⑤この講座をどこで知ったか？（複数回答可）

TSCスタッフ	HP・ブログ・Twitter	広報多賀城
14名	1名	2名

⑥感想（抜粋）

- ・自分の好きなことでやっていくことの楽しさをたくさん伺うことができた。活動を始めるうえで良い面、苦
労面が伺えたのは重要だと思った。
- ・多賀城市で親子が一緒に遊べる場所、気軽に集える場所づくりをできたらと考えていたので参考になった。
- ・ゲストの廣川さんの活動は、地域、子どもたちに大きな影響があると思う。

■連続講座申込 12 名（11 件/12 名）

①年代

10 代以下	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代以上
0 名	2 名	2 名	2 名	1 名	3 名	1 名	0 名

②住所

多賀城市	塩竈市	七ヶ浜町	利府町	松島町	仙台市	その他
5 名	2 名	1 名	0 名	2 名	1 名	0 名

（2）想いの整理をしよう（10 件回収／10 名参加）

1）講座の内容について（5 段階評価）

①講座全体を通して、新しい発見や気づきはあったか？

5	4	3	2	1
6 名	4 名	0 名	0 名	0 名

○「5」を選んだ理由（抜粋）

- ・支援の形は違うけれど、多賀城で何かやりたいと思っている方が多くいる事がうれしかった。
- ・初めてお会いした方たちだが、皆さん意欲的にこれからの人生にチャレンジされる姿勢、人生のお話を伺
えて親近感がわいた。

○「4」を選んだ理由

- ・普段は知ることのない自分より人生経験のある人の話が聞けてよかった。
- ・参加している方々の想いをお聞きすることができてよかった。

②ワークショップを通して、自分の考えや想いを整理することができたか？

5	4	3	2	1
3 名	4 名	3 名	0 名	0 名

○「5」を選んだ理由（抜粋）

- ・人生のグラフを書くことで、客観的に自分の人生を考えたり、質問をもらって振り返るきっかけになった。
- ・いままでこんな風な事ができたらなとふわとした考えだったが、言葉で伝える事で想いも強くなった。

○「4」を選んだ理由

- ・話しながら「こんな想いもあったなあ」と気づくことができた。さらに整理をしたい。

○「3」を選んだ理由

- ・自分を知ることができないが、まあそれでもいいかと思っているところもある。
- ・自分の考えがまだまとまっていない。

③他の参加者の想いや考えを聞いて、参考になることはあったか？

5	4	3	2	1
6名	4名	0名	0名	0名

○「5」を選んだ理由（抜粋）

- ・（グループワークで）自分より年上の女性の話を聞いて参考になった。
- ・子どもだけではなく親も支援することが大切だと気づけた。食育もとても大事だと感じた。

○「4」を選んだ理由

- ・何をやるにしても自分がどう思っているのかが必要だと感じた。

2）感想、印象に残ったこと（抜粋）

- ・自分の思いが明確になった。子ども支援は親支援という言葉が印象的だった。今の仕事に活かせる学びの時間だった。
- ・自分の人生を振り返るよい機会だと思った。また様々な人とグループワークで交流できたのもよかった。
- ・人生で浮き沈みはあるが、考え方で下にも上にもなる。何かヒントになると思って参加する方もいるのかなと思った。

3）今後の講座を通して、「こんなことが知りたい」「こんな話も聞いてみたい」など

- ・想いをカタチにしていくこと。
- ・想いを描いていることを実現するためにどのような事をするべきか知りたい。いろいろな方とつながりたい。
- ・何でも知りたいし、話を聞きたい。ポジティブになれるので。

（3）活動者の話を聞こう①（7件回収／7名参加）

1）講座の内容について（①～②それぞれの、数字に○をつけてください）

①講座全体を通して、新しい発見や気づきはあったか？

5	4	3	2	1
5名	2名	0名	0名	0名

②今回の講座は自分の考えや想いを深め、カタチにしていく上で参考になったか？

5	4	3	2	1
6名	1名	0名	0名	0名

2）参加した感想、一番印象に残ったことなど（抜粋）

- ・ゲストの2人が「今やれることを一生懸命やっている」と言っていたのがとても心にささった。今やれることをやりながら模索するような進め方で良いのかなと感じた。あとは「自分も楽しんでやる！」木下さんのイキイキ話している姿がとても素敵で私もあんな風に自分の活動を語れるようになりたい！と思った。
- ・「発信することの大切さ」今自分が行っていることの中で、まだやれることをやることでみなさんに喜んでもらえることがあると教えていただいた。
- ・人と人との関わりを大切に今の自分に何ができるのか？利他の気持ちで自分が発信をしていく！

3）今後の講座を通して、「こんなことが知りたい」「こんな話も聞いてみたい」など

- ・開催される講座がとても勉強になっている。

- ・仲間づくりをどうするか？基本的なことも身につけていきたい。
- ・思い立ったきっかけから活動に向かうために何をまずはじめたのか。そこまでにぶつかった壁があったか。
- ・子どもアドボカシーというものの存在。私たちにとっては今の仕事にもプライベートにも活かせるような気持ちになり、たいへん興味を持った。

(4) 活動者の話を聞こう② (8件回収/8名参加)

1) 講座の内容について

①ゲストの方々の話は、自分のやりたいことを見つける・やってみる上で新たな発見や気づきがあったか？

5	4	3	2	1
5名	3名	0名	0名	0名

②今回の講座は自分の考えや想いを深め、カタチにしていく上で参考になったか？

5	4	3	2	1
5名	3名	0名	0名	0名

2) 感想、印象に残ったこと (抜粋)

- ・既に自分の夢や想いをカタチにされている方の話がきけて、参考になり背中を押された感じがする。
まずは行動を起こしてみる！そして多くの人を巻き込めるよう綿密なプランと想いを発信していく大切さを教えていただいた！STEPでの開催もよかった。
- ・「まずは小さくても良いからやってみよう！」「継続してみることが大事」というやっぱりいつもみなさんが言っているワードが心に残った。
- ・障害を持つお子さんが参加できる(しやすい)スポーツイベントを開催し、定型発達のお子さんでも参加できるイベント。それを継続開催している相澤さん。地域のため活動を続けていらっしゃる松村さん。できることを少しずつ広げていかれているお話を伺えてとても刺激をいただいた。

3) 今後の講座を通して、「こんなことが知りたい」「こんな話も聞いてみたい」など

- ・建物の所有権を個人にするのか団体の方がいいのか知りたい。
- ・マネタイズ

(5) 交流会

1) 受講生 (6件回収/6名参加)

①発表をふりかえっての感想 (抜粋)

- ・コンセプトや想いをもっと深めて、誰にでもわかりやすい内容にしていく必要があると思った。
- ・もっとやりたいことやできることを具体的に伝えていく必要があるなど思った。
- ・具体的なイメージがどんどん湧いてきた。

②参考になることはあったか？ (5段階評価)

5	4	3	2	1
5名	1名	0名	0名	0名

○理由（抜粋）

- ・刺激と勇気をいただいた。このネットワークを大切に今後の実現を目指していきたい。
- ・参考というよりも、もう応援したい気持ちでいっぱいになった。
- ・年齢を問わずいろいろな分野で頑張っているなど感じ、心強く感じた。

③他の受講生や参加者の話を聞いて、参考になることはあったか？

5	4	3	2	1
5名	1名	0名	0名	0名

○理由（抜粋）

- ・「共感」していただけたことにびっくりした。
- ・多くの方が居場所づくり（親子）を考えているので協働できる機会をつくっていききたいと思った。
- ・もっと具体的にこうしたら？というメッセージがとても参考になった！それをもとにまた自分の活動を見直していききたいと思った。

④交流会の感想、一番印象に残ったことなどをお書きください。（抜粋）

- ・なぜこの事業をやりたいのか？コンセプトの重要性について伝えていただけてありがたかった。
- ・皆さんのやりたいプランがものすごく明確化できていてすごいと思った。私もぼんやりから、これ！みたいにここからまた育てていききたいと思う。
- ・自分の中身の整理と外とのつながり、この両輪が必要ということを学べたことを必ず自分の一歩にしたいと思う。

2）一般聴講者（7件回収／10名参加）

①年代

10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
0名	0名	1名	2名	3名	1名	0名	0名

②交流会に参加を決めた理由（複数回答可）

発表を聞いて みたいと思った	活動者と会いた いつながりたい	地域づくりに 関心があった	起業やソーシャル ビジネスに関心	仲間を 探している	その他
3名	4名	1名	1名	2名	1名

③交流会の満足度（満足5、不満足1）

5	4	3	2	1
4名	2名	1名	0名	0名

○理由（抜粋）

- ・UDトークや手話でよく理解できた。発表内容も聞きごたえあるものだった。
- ・つながりたい方がたくさんいた。
- ・これからのヒントや元気、刺激をたくさんいただいた。時間もたくさんあり話ができてとてもよかった。

④交流会の感想（抜粋）

- ・交流会の時間をもう少し欲しかったが、連絡先を交換したので今後に期待。
- ・今回のメンバーの卒業？チームみたいに、また集まって近況報告などおしゃべりができたらいいなと思う。
- ・プロジェクト立ち上げのどういうところがポイントか話していると見えてくる。

3) 受講生対象「TAGAJ0 Future Labo」全体について

①「TAGAJ0 Future Labo」全体の満足度（5段階評価）

5	4	3	2	1
4名	1名	0名	0名	0名

※未記入1名

○「5」を選んだ理由

- ・自分の思いビジョンを明確にしていくこと。サポートしあう関係性。活動している方を目の前にして今後の皆さんとのつながりを大切にしたい。
- ・とてもとても勉強になり、たくさん出会いもあり、今後につながるものをいっぱいいただいた。
- ・いろいろな団体とつながりができた。

②「TAGAJ0 Future Labo」に参加して、「よかった」「役立った」ことを教えてください。（抜粋）

- ・自分の棚卸しをする機会になった。
- ・みなさんとの出会いと交流の場、毎回の意見交換での意見、エール、5回までのサポートに感謝したい。
- ・視野が広がった。

③今後に向けて等の意見などありましたらお書きください。（抜粋）

- ・宿題メール提出の際、「メール受け取りました」の返事をいただきたい。
- ・これから、様々な団体とコラボしていきたい。

3. 出前いちから塾 ※8/16（火）実施の（1）、3/24（金）実施の（5）の合計（計3件回収／計4名参加）

①年代

10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
0名	0名	1名	2名	0名	0名	0名	0名

②住所

多賀城市	塩竈市	七ヶ浜町	利府町	松島町	仙台市	その他
0名	0名	0名	0名	0名	2名	1名

※その他：大衡村

③講座をどこで知ったか

TSCスタッフ	知人・友人	チラシ	その他
2名	0名	1名	0名

④満足度（５段階評価）

5	4	3	2	1
3名	0名	0名	0名	0名

○理由

- ・NPOについて理解ができました。
- ・丁寧に細かく子どもの居場所についても教えていただきありがとうございました。

⑤今回の講座で学んだこと

- ・わかりやすく説明していただいて、なおかつ私たちがやろうとしているところに似た提案をしてくれた。
- ・NPO法人や団体について
- ・NPO・任意団体、法人の違い
- ・広義・狭義の意味合いなどがよくわかった。
- ・NPOについて理解ができました

⑥もっと詳しく知りたいこと

- ・不登校や悩みをかかえている人たちを考えているグループとつながり、みんなで共有できたらうれしい。

* 添付資料 ■チラシ ■当日配付資料

(1) 地域の担い手育成事業 3) NPO運営パワーアップ事業

目 的	○地域で活動する団体が自団体の運営、活動の強み・弱みを分析できるようになり、その結果を踏まえての相談や研修を通して団体の運営力や地域・社会の課題を解決する力が向上する。 ○団体が団体概要やその活動、目指すものについて多くの人からの共感・賛同が得られ、他団体や他セクターとの連携につながるような分かりやすい情報発信ができるようになる。
背 景	○前年度実施の相談会や講座のアンケートでは、多くの団体が担い手不足、会員獲得、情報発信を運営課題として挙げていた。自団体の活動内容等の情報を効果的に発信し団体の理解者を増やすことで会員獲得につながり、担い手不足の解消にもつながるため、今年度も情報発信がテーマの事業を実施する必要がある。団体からはSNSを活用したいという相談も寄せられている。 ○団体のボランティア募集情報の収集を行い、いちから塾の参加者の学びを活かす場としてつなげるとともに、ボランティアをしたい市民に情報提供できるようにすることで、担い手不足の解消につなげる。
対 象	○事務用ブース入居団体／事務用ロッカー・レターケース利用団体 ○TSC利用団体 ○多賀城周辺で活動する団体 ○団体を立ち上げて、地域や社会の課題解決に取り組みたいと考えている既活動者
成果目標	○「なんでも相談会・ふらっと相談会」参加団体が、運営課題解決のための目標に向けて取り組み始めている。 ○相談会・講座参加団体の運営課題のうち1つが、改善もしくは解決している。 ○情報発信力アップの結果、市民からの協力・共感・賛同などが増えている団体が3つ以上出ている。 ○ボランティア情報収集により実際にボランティアにつながる事例が1つ以上生まれる。掲示が可能な（団体）ボランティアの新たな情報を5つ以上増やす。
成 果	○相談会参加団体のうち、事務局運営の方法やチラシでの広報について改善に向けて動いている団体や、他団体から活動内容に共感を得て寄付につながった団体もある。 ○SNS活用講座参加によりツイッターの閲覧数や「いいね！」が増えたとの報告が1件あった。また、新たにSNSに取り組み始めた参加者、より効果的な情報発信に取り組んだ参加者も出ている。 ○ボランティアマネジメント講座は参加団体の活動の広がりや、共感が増すことにつながった他、新たなネットワークづくりのきっかけとなった。 ○5団体からボランティアの情報提供を受けて館内とブログで発信した結果、団体あてに問い合わせが1件あった（日程の都合でボランティアは実現しなかった）。
次年度に向けた課題	○相談会や講座参加団体、ボランティア募集情報掲示団体への効果の把握が不十分だったので、ヒアリング・フォローアップを引き続き行う必要がある。個別のフォローを丁寧につなげていくことがさらなる団体運営課題の解決に向けた実践へつながるので、次年度はそのサポートに力を入れる。

実施概況（１）地域の担い手育成事業 ３）NPO運営パワーアップ事業

1. NPO・市民活動団体 運営なんでも相談会

○（１）～（３）共通

対 象：事務用ブース入居団体、多賀城およびその周辺で活動する団体

内 容：団体の活動内容の整理・運営課題の分析、課題解決の目標設定、解決に向けた検討

相談員：TSCスタッフ西條、小笠原、小林

参 加：3団体／7名（1団体あたりおよそ1時間）

（１）日 時：令和4年7月21日（木）16:00～17:15

会 場：多賀城市市民活動センター 301 会議室

参 加：一般社団法人子どもアドボカシーセンターみやぎ
（参加：1名）

※事務用ブース入居団体インキュベート相談を兼ねる

（２）日 時：令和4年7月24日（日）14:00～15:00

会 場：多賀城市市民活動サポートセンター 301 会議室

参 加：ハッピーピース（参加：3名）

※事務用ブース入居団体退去報告会を兼ねる

（３）日 時：令和4年7月29日（金）14:00～15:00

会 場：多賀城市市民活動サポートセンター 301 会議室

参 加：傾聴の会多賀城（参加：3名）

※事務用ブース入居団体インキュベート相談を兼ねる

2. NPO・市民活動団体 ふらっと相談会

日 時：令和4年8月20日（土）

10:30～13:00 14:00～15:30

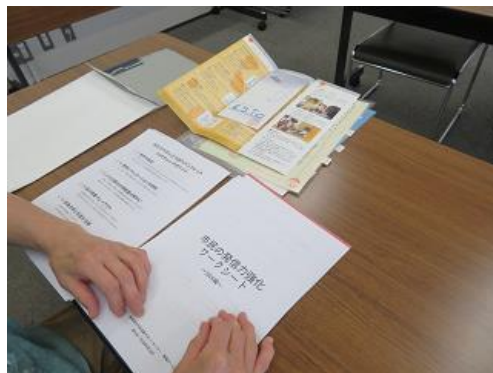
会 場：多賀城市市民活動サポートセンター 201 会議室

対 象：事務用ブース入居団体、多賀城およびその周辺で活動する団体

内 容：団体の活動内容の整理・運営課題の分析、課題解決の目標設定、解決に向けた検討

相談員：TSCスタッフ小林

参 加：1団体／1名 個人1名



1. 団体の課題に寄り添う資料も参考に



1. 参加者と運営の課題と解決に向けたアクションについてオンラインで話し合った

3. 事務用ブース入居団体インキュベート相談会

○ (1) ～ (4) 共通

対 象：入居後6か月が経過した事務用ブース入居団体

内 容：団体の活動内容の整理・運営課題の分析、課題解決
の目標設定、解決に向けた検討

相談員：TSCスタッフ中津、渡辺、齋藤、金子、小林

参 加：4団体／11名（1団体あたりおよそ1時間）

(1) 日 時：令和4年12月13日（火）11:00～12:00

会 場：多賀城市民活動サポートセンター 101 会議室

参 加：多賀城イングリッシュ・サポーターズ

（参加：1名）

(2) 日 時：令和4年12月17日（土）15:20～16:20

会 場：多賀城市民活動サポートセンター 302 会議室

参 加：高崎こども食堂らっこ広場（参加：1名）

(3) 日 時：令和5年2月23日（木）11:00～12:00

会 場：多賀城市民活動サポートセンター 301 会議室

参 加：宮城県学童保育連絡協議会（参加：2名）

(4) 日 時：令和5年3月9日（木）15:00～16:00

会 場：多賀城市民活動サポートセンター 301 会議室

参 加：生涯学習100年構想実践委員会（参加：4名）

4. 届く、届ける情報発信 SNS活用講座

日 時：令和5年1月21日（土）13:30～16:30

会 場：多賀城市民活動サポートセンター 大会議室

対 象：事務用ブース入居団体、TSC利用団体、多賀城及び
その周辺で活動する団体

内 容：SNSの特徴を知り、団体の活動を伝えたい相手に届
けるための効果的な方法を学ぶ講座

講 師：笹崎久美子さん（ワッツ・ビジョン代表）

参 加：10団体／17名（申込18名）※うち個人参加3名

※ボランティアで東北学院大学工学部の学生が参加



3. 些細なことでも話しやすい雰囲気です



4. 実際にTwitterアカウントを作成し、参加者同士でフォローし合った



4. 大学生のボランティアが参加者の疑問点を丁寧にフォロー

5. 個々の力がいきる ボランティアマネジメント講座

日 時：令和5年2月12日（日）13:30～16:00

会 場：多賀城市民活動サポートセンター 大会議室

対 象：事務用ブース入居団体、TSC利用団体、多賀城及びその周辺で活動する団体

内 容：ボランティアマネジメントやボランティアの受け入れの工夫、集め方、一緒に活動していくうえで留意すべき点を学ぶ講座

講 師：スタッフ中津

荒川陽子さん（NPO法人地域生活支援オレンジねっと理事長）

高橋尚子さん、富樫花奈さん（NPO法人ふうどばんく東北AGA IN副理事、理事）

参 加：15 団体／20 名（申込 21 名）※うち個人参加 1 名



5. 現場の声を聴き、活動のヒントになる事例を学んだ

6. (新) 市民活動お役立ち情報作成

従来の資料の改訂及び新規テーマでの作成を3ヵ年計画で行った（3年間で10テーマを改訂・新規作成）。その際、表・図の活用やレイアウトの工夫を行うことで見やすく、活用しやすくなるようにした。

○作成テーマ：ボランティア受け入れガイド（新規）

非営利活動における法人格を知ろう（新規）

助成金を活用してみよう（改訂）

○仕 様：A4 両面 カラー

○デザイン：(株) ユニグラフィック

○活 用：館内配架、また相談対応での参考資料、講座での配付資料などで活用。ホームページへ掲載、ダウンロード可能。



6. 「ボランティア受け入れガイド」



6. 「非営利活動における法人格を知ろう」



6. 「助成金を活用してみよう」

7. ボランティア情報収集・発信

「NPO・市民活動 求む！あなたのチカラ」

○内 容：ボランティアを必要としている団体の情報を集め、ボランティアをやりたいと思っている人につなぐ。
TSC利用団体や地域で活動している団体等にメール、電話などによる聞き取りおよび相談対応事例からニーズを拾う。

○対 象：ボランティアを必要としている団体

○情報提供団体：5団体

NPO法人ケアブレンド、NPOゲートシティ多賀城、
ともだち・カワン・コミュニティ、高崎こども食堂らっこ広場
多賀城将棋ラボ



7. どんなボランティアが必要かひと目でわかるスタイル

アンケート集計結果

1. NPO・市民活動団体 運営なんでも相談会（7件回収／3団体・7名参加）

①相談会を何で知ったか

TSCスタッフ	チラシ	TSCのHP・ ブログ・ツイッター	知人・友人
7名	0名	0名	0名

②参加者からの感想など

- ・チラシ作成のときなどTSCに相談に乗ってもらえてブラッシュアップにつながった。
- ・ボランティア募集はなかなかできないが、情報発信のサポートに協力をお願いしたい。
- ・相談会は課題整理の良い機会となっている。今後は助成金申請やボランティア募集など相談したい。

2. NPO・市民活動団体 ふらっと相談会（1件回収／1団体・1名参加）

①相談会を何で知ったか

TSCスタッフ	チラシ	TSCのHP、 ブログ・ツイッター	知人・友人
1名	0名	0名	0名

②参加者からの感想など

- ・月一回の例会や空き時間のシンポジウムなどの勉強会など、無理のない範囲で活動できればと思います

3. 事務用ブース入居団体インキュベート相談会（11件回収／4団体・11名参加）

○参加者からの感想など

- ・TSCスタッフも活動趣旨や活動を知っている点で協力者だと考えています。
- ・活動に賛同して寄付してもらおう人を増やすことや、寄付の仕組みづくりや活動の魅力づくりもしていきたい。
- ・スタッフを増やしていくこと、活動を広く伝えることをしていきたい。

4. 届く、届ける情報発信 SNS活用講座 (17件回収/10団体・17名参加)

①年代

10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
0名	0名	4名	2名	5名	3名	1名	2名

②住所

多賀城市	塩竈市	七ヶ浜町	利府町	松島町	仙台市	その他
8名	1名	2名	0名	1名	4名	1名

③満足度 (5段階評価)

5	4	3	2	1
12名	4名	1名	0名	0名

○「5」を選んだ理由

- ・実際にTwitterのアカウントをとったが、講座中の実践後に削除できる気軽さがよかった。
- ・メリット、デメリット、活用の仕方などがわかっている人とともに使い方、利用の仕方、発信の仕方を知ることができて安心して取り組みました。
- ・大変参考になりました。SNSについてほどよくわかりました。
- ・自分でやってみてこそ楽しいツール、盛り上がるツールということがとてもよく理解できました。勝手に苦手意識を持っていましたが、皆と一緒にアカウント作りからできて、よい機会になりました。これからどんどん発信したいです。
- ・新しいSNS仲間ができました。これから使ってみます。
- ・Twitterの活用、使用方法が理解できて大変良かったです。
- ・体を動かして、体験式のセミナーで楽しかったです。
- ・とても楽しく受講できました！そして、すぐに活用したいし、できそうなリアルな教えが沢山の、本当に勉強になりました。
- ・SNS歴は長いけど、個人より団体でとなると考えることが多いので、これからに向けて勉強になりました。

○「4」を選んだ理由

- ・具体的に話があったので良かった。専門用語が理解できなかった。
- ・知っていることが多くあった。でも、為になることもあったので参加して良かったです。
- ・SNSに年齢は関係ない。

○「3」を選んだ理由

- ・記載なし

④本日の講座に参加して得られたことや、感想など

- ・SNS→ソーシャルである。オンラインでもリアルでも人とつながることは同じだというお話には深くうなずいてしまいました。
- ・とても楽しかったです。
- ・再度またお願いします。

- ・知っていることが多くあった。でも、為になることもあったので参加して良かったです。
- ・市民団体同士がつながる機会。
- ・広報の仕方がわかった。
- ・各種講座等の開催にご尽力頂きありがとうございます。今後も楽しみにしています。
- ・Twitterの機能を知ることができました。(学院大の学生さんに教えて頂きました。感謝！)
資料の「投稿のポイント」前向きな内容というのが、役に立った！
- ・SNSの使い方がわかりました。
- ・SNSの活用の仕方。
- ・写真の見せ方が非常に重要であることを認識した。
- ・SNS活用講座のレベルの告知がほしかった。
- ・人をみせて、感情をみせて、動きをみせる！→これとても印象的でした。

⑤今後の開催希望のテーマなど

- ・Gメールアカウントの追加を教えてください。
- ・今回の延長、SNSからブログ、HPへ継ぐ方法
- ・パソコン講座、自身のインスタの評価。
- ・チラシ作成やHP作成などあったら参加してみたいなあ…と思いました！

5. 個々の力がいきる ボランティアマネジメント講座 (20件回収/15団体・20名参加)

①年代

10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
0名	0名	0名	5名	8名	2名	4名	1名

②住所

多賀城市	塩竈市	七ヶ浜町	利府町	松島町	仙台市	その他
8名	2名	3名	0名	0名	6名	1名

③満足度 (5段階評価)

5	4	3	2	1
17名	3名	0名	0名	0名

○「5」を選んだ理由

- ・より具体的に活動の仕方、団体のあり方などをあらためて考える機会になりました。
- ・ボラマネジメント、とってもいいです！また聞きたいです。特に団体の生の声がきけるのはやっぱり良い。
しかし、まず、「ボラとは」の基礎のお話があるからこそなので、中津さんのお話はとても大事だと思った。
- ・ゲスト2団体の活動内容が良かった
- ・実際に活動しているオレンジねっとさんやふうどばんく東北 AGAIN さんの話を聞けてとてもためになりました。他の人々のボランティアプログラム作成シートも見れてとてもためになりました。
- ・いろんな勉強ができました。ありがとうございます。
- ・様々な方向からボランティアについて考えることができ感謝です。講師たちのお話、大変ためになりました。

・今後の活動につながる情報がたくさんいただきました。

○「4」を選んだ理由

- ・ボランティアさんの登録数がすでに多く活動されている団体さん方なので歩き出しの当団体にはうらやましい限り。環境が違うところで目標にしたい分が-1。
- ・ゲストさんの話をもう少し聞きたかったです。

④本日の講座に参加して得られたことや、感想など

- ・今までなんとなくで（こんな感じ？で）ボランティアさんを募っていたので、基礎から学べてよかったです。
- ・プログラム作成はちょっと悩んだのですが、付せんのコメントが3ついただけ、いつも関わっている人以外の客観的な言葉はうれしいのと、参考になるので、とても良かったです。また、いろいろな人が地域や困っている人たち、子どもたちのために頑張っていることを間近で感じる機会になり、前回の講座同様目からウロコで励みになりました。貴重な時間をいただけて感謝しています。ありがとうございました。
- ・組織力、参加している人たちのつながりが大切
- ・我々には出来ないボランティアの話を聞き、若い方の活動には大変感心・感動いたしました。
- ・①団体さんの活動内容が明確なのでボランティアさんがイメージしやすいということが納得した部分。②ボランティアさんの面談やヒアリングが必要なんだ！感想：AGAINさんのパワーがすごい！！さすがITに明るいスタッフがおられるのでSNS発信や管理は今どきですね。ボランティアさんがやってみたいと思う魅力を2団体さんともお持ちなんだなあと思います。
- ・あらためてボランティアの活動について考える機会となりました。自分自身の今後の動き方を考えていきたいと思っています。
- ・ボランティアについて学べたことはとても参考になりました。こちらの働きかけや発信などで興味を示してくださる方も増えてくれればと思いました。力を貸してくださる方が周りにたくさんいると嬉しく感じました。
- ・とても勉強になりました！！土台をきちんと整えてから始めたいと思います。
- ・ボランティアの本来の意味もよく分かりました。参加している皆様の心がより多くの人のためになりたいという思いを感じられてとても力強くなりました。心の支えになりました。
- ・皆様が社会を良くしたい心情と努力の姿が感動しました。
- ・他人の考え、思いを学びました。
- ・様々な気づきになりました。もう少し意見交換ができるといいですね。第2弾があるといいですね。
- ・基本に戻れた。分からないことが多かった。
- ・初めて知ったボランティア団体の活動でした。ただただすばらしいので感心しました。難しい時期をのり越えてのことを思いすばらしいです。
- ・マネジメントの必要性を改めて感じました
- ・ふせんに記入した質問の回答が欲しい
- ・エラい！（活動内容を聞いて）
- ・実践にもとづく話をいただきありがとうございました。ボランティアをやりたい方々と実践の場をつなげられたらと思います。地域づくりどこから始めていくか…つながりをもてるところからかな？と思いました。

⑤今後の開催希望のテーマなど

- ・町内会とか協働もむづかしく考えなくてすむ話がいいですねー
- ・NPO法人の運営のしかたと、交流会（NPO法人の）

- ・実践事例のワークショップ
- ・ボランティアコーディネーター育成（養成）講座（有料可）
- ・もう 2 回くらい聞きたいです。ワークショップの時間がもう少し長ければ良かったです。
- ・助成金申請方法
- ・補助金と助成金の申請、やり方
- ・終活、相続
- ・広報活動（チラシなども含め）講座をお願いしたい
- ・Mac 勉強会

* 添付資料 ■ チラシ ■ 当日配付資料 ■ 市民活動お役立ち情報（3 種類）

(２) 自治会・町内会支援事業 １) 自治会・町内会支援事業

目 的	○各地区の取り組みを共有することにより、課題解決に向けた新たな動きがおきる。 ○他の主体と連携した取り組みの実践が生まれる。
背 景	○令和２年４月の区長制度廃止に伴い、地域の課題解決の担い手は、区長個人から自治会・町内会という組織へと役割を移行している。同時に令和２年からのコロナ禍で役員や住民が集まっていた意思決定が難しいことに加え、人材不足やイベントの中止でのコミュニケーション不足による心配の声も聞かれていた。 ○今年度は、これまでの取り組みから見えてきた運営課題や地域課題について、これまでの自治会・町内会の域を超えて、役員以外の人も関われる手法や関わりしろを探っていく、他地域の取り組みも共有しながら、枠を超えての取り組みを探っていく。 ○また、地域の人が自分の地域の魅力を発信することで、転入者や若い世代が地域に愛着をもち、地域の活動に関わる人が増えることを目指していく。多賀城市の広域連携の動きや地域福祉の取り組みなどと連携しつつ、地域自治活動への支援を行う。
対 象	○自治会・町内会の会長、役員等 ○これまで町内会にあまり関わっていなかった人・団体、若い世代（学生など）
成果目標	①自治会・町内会の活動のヒアリングを通して事例の蓄積と情報発信をＴＳＣが行う。（新しい地区ヒアリング：５地域、情報発信：１０回以上） ②これまで自治会・町内会に関わっていない人が多様な手段で活動に参加する意識を持つ。新しい手段方法での運営課題解決につながる場が生まれる。（１事例以上） ③住民が自らの地域の魅力を発信する。（新たに１事例以上）
成 果	○自治会・町内会へのヒアリングをＴＳＣ来館時や活動場所への訪問時に意識して行い、これまで関わりのなかった地域の取り組みを情報発信することができた。 ○高橋、桜木、志引、八幡地区の保育所の避難訓練に町内会が参加するなど、課題解決に向けての連携した動きが起こった。 ○住民が自らの地域のことを新しい住民や次世代に伝えていく地域学を２地区で開催し、住民が自ら語る場が生まれた。今後も他地域での実施や継続して行うことで、より自分の住む地域への愛着が生まれ、防災の意識向上などにつながるとされる。
次年度に向けた課題	○地域の連携の在り方として、自治会・町内会単独での動きではなく、課題に対してかわる地区が連携して取り組んでいけるような動きが生まれると良い。 ○コロナ禍で町内会活動自体が中止となり、これまで関わっていなかった人や新しい手法での関わりの事例は生まれなかった。 ○自治会・町内会へのヒアリングの中から、「集会所活用法」「津波地域でない地域防災」「ごみ集積所問題」などについての情報交換の機会を設ける必要性を感じた。次年度に行えるように検討していく。

実施概況(2) 自治会・町内会支援事業 1) 自治会・町内会支援事業

1. 町内会活動のヒアリング、情報の蓄積と情報発信事業

(1) 自治会・町内会ヒアリング／相談対応

日 時：通年

内 容：夏祭り、敬老会、防災訓練を中心に町内会にヒアリングを行った。

成 果：ヒアリングを重ねて行うことで、各町内会の役員や会長等からの相談が寄せられるようになった。

(2) 自治会・町内会の取り組み発信（ブログ・動画）

1) ブログ発信

令和4年 6/24（金）	東田中南自治会 エンジョイ倶楽部 古代米講座 と頭の体操でたのしい時間
8/11（木）	大代東町内会の夏祭りが開催されました
9/19（月）	桜木北区 鶴ヶ谷自治会 丸山町内会 保育所で地域ぐるみの避難訓練
11/14（月）	知れば知るほどおもしろい 多賀城みんなの地域学 下馬編
12/9（金）	高橋地区合同文化祭に行ってきました
12/12（月）	知れば知るほどおもしろい 多賀城みんなの地域学 笠神編
令和5年 1/16（月）	雨でも災害はやって来る！ 八幡保育所の避難訓練をレポート
1/31（火）	自治会・町内会新聞シェア 困りごと解決相談会を開催しました！
2/6（月）	未就学児を取り残さないため 令和4年度の保育所と地域の避難訓練を振り返る
2/21（火）	城南自治会サポーター制度の取り組み
3/5（日）	住民の心を通わす経験を！ あったかい城南ふれあいコンサート
3/25（土）	「自治会・町内会新聞シェア会」動画公開&個人情報保護法改定について

2) 動画発信

※コロナ禍における情報発信事業と連携して行った。

12/24（土）	自治会・町内会 多賀城みんなの地域学 下馬編
2/25（土）	自治会・町内会 多賀城みんなの地域学 笠神編
3/18（土）	自治会・町内会新聞シェア会



1. (2) 東田中南自治会講座（6/24 掲載）



1. (2) 大代東町内会夏祭り（8/11 掲載）



1. (2) 高橋地区合同文化祭（12/9 掲載）



1. (2) 城南自治会 ふれあいコンサート・城南サポーターの様子（3/5 掲載）

2. 役員でない市民が町内会の課題解決に参加する場づくり実践

- ・夏まつりでの実施を検討したが、コロナ禍で中止が相次ぎ実施せず

3. 自分の地域を知る機会、発信する場

(1) 多賀城みんなの地域学 下馬編

自分の住んでいる地域の昔話や地形の話をしませんか？

日 時：令和4年10月20日（木）14:00～15:00

会 場：下馬公民館

対 象：下馬周辺の住民ほか

内 容：古い地図や写真を見ながら昔の記憶や災害のエピソードを共有する。

ゲスト：NPO法人20世紀アーカイブ仙台

参 加：18名

下馬北区自治会、下馬南自治会、下馬東区自治会、高橋地区、旭ヶ岡町内会、城南自治会

(2) 多賀城みんなの地域学 笠神編

自分の住んでいる地域の昔話や地形の話をしませんか？

日 時：令和4年11月6日（日）14:00～15:00

会 場：西園寺

対 象：笠神周辺の住民ほか

内 容：古い地図や写真を見ながら昔の記憶や災害のエピソードを共有する。

ゲスト：NPO法人20世紀アーカイブ仙台

参 加：17名

笠神自治会、浮島地区自治会、大代地区、下馬東区自治会、城南自治会、塩竈市ほか

○共通の成果：昭和～平成の災害や昔の地形、生活文化やあそびなどを共有することで、以前から下馬や笠神に住んでいる住民の記憶を新しい住民に共有することができた。あらためて自分の暮らす地域の魅力や地形などを知ることができた。



3. (1) 多賀城みんなの地域学 下馬編。ゲストの進行で昔の写真を見る



3. (1) 古い写真を見て話し合う参加者



3. (2) 多賀城みんなの地域学 笠神編。笠神にある西園寺で開催した



3. (2) 西園寺の資料などを閲覧する参加者

4. 地域コミュニティ課主催の小学校区での情報交換会への参加と テーマ型情報交換会の実施

(1) 町内会等地域の情報交換会への参加

- ・地域コミュニティ課「地域経営基盤構築事業」による情報交換会に参加予定だったが、今年度は実施されなかった。

(2) 自治会・町内会新聞シェア会&困りごと解決相談会

日 時：令和5年1月22日（日）10:00～11:30

会 場：多賀城市民活動サポートセンター 大会議室

対 象：自治会・町内会新聞を作成している担当者

これから作ろうとしている自治会・町内会

内 容：各町内会の作成している新聞の良い点や課題のシェア
と作成にあたっての悩みの相談会

ゲスト：百武信幸氏（毎日新聞石巻通信部記者）

参 加：11 地区 14 人

大代中区町内会、旭ヶ岡町内会、八幡下一区、
桜木北区町内会、留ヶ谷自治会、下馬東区自治会、
高橋東二区町内会、城南自治会、高崎自治会、
東田中南自治会、志引町内会

成 果：各自治会・町内会の新聞をシェアすることにより、作成のポイントや課題を共有し、解決に向かうことができた。どのような目的で作成するか、どのように人材を巻き込んでいるか、どうネタを集めているかなどがポイントとなった。



4. (2) 自地区の町内会新聞について発表する参加者



4. (2) TSCでは地域の町内会新聞を常時閲覧可能

アンケート集計結果

3. (1) 多賀城みんなの地域学 下馬編 (15 件回収/18 名参加)

①年代

40 代以下	50 代	60 代	70 代	80 代以上
0 名	1 名	3 名	6 名	5 名

②お住まい

下馬	高橋	中央	城南	無回答
11 名	1 名	1 名	1 名	1 名

③満足度（5段階評価）

5	4	3	2	1	未回答
7名	3名	3名	1名	0名	1名

○理由

- ・昔の話が良かった。
- ・知らないことが理解できたため
- ・もう少し住民に知らせてください。知らない人が多かったです。
- ・もっと知りたい。
- ・下馬の昔の情報に触れることができた。
- ・話が盛り上がりました。

④イベントの感想

- ・昭和35年より前の事が分かりました
- ・初めて聴く話もあった
- ・古い話が面白かった
- ・いままで知らないことが多かったです。
- ・下馬の誕生から現在までの話題を知りたい。
- ・写真一枚で思い出がよみがえり話が弾むところが面白かった。引き出し方、さすがです
- ・古い写真からの推察が楽しかった。
- ・40数年しかいないので古いことが知れて良かった
- ・昔の下馬の様子が聞けて面白かった。もっと時間があればと思いました。回覧板などで知らせてもらえば参加者も多かったのでは？
- ・引っ越してきたのですべてが興味深かったです。

3.（2）多賀城みんなの地域学 笠神編（14件回収／17名参加）

①年代

40代以下	50代	60代	70代	80代以上
1名	1名	4名	6名	2名

②お住まい

笠神	浮島	大代	下馬	城南	塩竈市
7名	1名	1名	2名	1名	2名

③満足度（5段階評価）

5	4	3	2	1
6名	6名	2名	0名	0名

○理由

- ・資料豊富で参考になった
- ・参加者の皆さんから出るお話がどれも面白く、終始和やかな雰囲気ですべてよい会でした。
- ・長老の話は勉強になった。

- ・笠神に嫁いで40年いろいろと知らなかった。昔の様子がうかがえて良かった。
- ・新たな話が聞けた
- ・目的はなにか。時代を区別してはどうか。区分をしてはどうか。

④イベントの感想

- ・86歳のご長老からスマホで自分のいる場所の海拔を調べましょうというアドバイスが出たことが面白かった。ご年配の方の過去の経験や知恵と、現代のテクノロジーを防災に活用するいい例だと思いました。
- ・戦時中に馬を徴用されたこと、海軍工廠で爆発があったことなど、当時の生々しい体験談はなかなか聞く機会がなかったのでとても貴重な時間でした。同世代や下の世代にもっと聞かせていただきたいと思いました。
- ・多世代交流につながる素晴らしい企画だと思いますので、ぜひ第2弾をお願いします。
- ・笠神の生活がよくわかった。スズメがおいしいという話がびっくりした。
- ・笠神の生活情報がわかった。
- ・西園寺が移設したことや三中、多中等の学区のこと。
- ・西園寺の話ももっと聞きたかった。
- ・大東亜戦争、戦中、戦後の生活、遊びなど
- ・海軍工廠の燈台のお話、交通事故の碑のこと、生々しい
- ・奥村さんの進行良かったです。西園寺さんのお話（寺のこと）もお聞きしたかったと思います。
- ・新たな話が聞けた。海軍工廠の話がおもしろかった。
- ・いろいろ長老の話は勉強になった。
- ・昔を思い出すことが出来て良かった

4. (2) 自治会・町内会新聞シェア会&困りごと解決相談会 (15件回収/11地区・15名参加)

①年代

40代以下	50代	60代	70代	80代以上	無回答
0名	0名	5名	6名	1名	3名

②住所

多賀城市	塩竈市	七ヶ浜町	利府町	松島町	仙台市	その他
14名	0名	0名	1名	0名	0名	0名

○多賀城市：旭ヶ岡町内会、桜木北区町内会、東田中南自治会、城南自治会、留ヶ谷自治会、志引町内会
大代中区町内会、下馬東区自治会、高崎自治会、八幡下一区、高橋東二区町内会

③イベントを何で知ったか（複数回答）

TSCからのお誘い	チラシ	多賀城NOW	その他
13名	2名	1名	0名

○特記事項：新聞を作成していない八幡下一区が、桜木北区の担当者に新聞づくりの相談をしていたことから参加につながった。

④満足度（5段階評価）

5	4	3	2	1
10名	2名	2名	1名	0名

○「5」を選んだ理由

- ・ゲスト（毎日新聞記者）のコメントが良かった。
- ・担当者の生の声が交換されて、各地域に活かされていくことを期待
- ・記事の探し方が参考になった。
- ・各自治会の昔話などが参考になった。
- ・各町内会の役員のみなさんの積極的な意見が良かった
- ・他町内会の広報づくりが大変参考になった。

○ほかの意見

- ・もう少し意見交換ができると良かった。
- ・タイムマネジメントができると良い。

⑤ゲストやほかの町内会の話から参考になった点

- ・それぞれの個性で良いのだと思った。
- ・川柳の募集の話が参考になりました。
- ・作成時の内容
- ・みなさんの工夫すべてが参考になりました。
- ・生活者の視点と役員の視点、どちらも地域の特徴に合わせて作られていることを学びました。
- ・高橋東二区の記事には困らないとの意見に刺激を受けた。
- ・ゲストの防災の提案が良かったが、具体的な話の時間が欲しかった。
- ・記事の集め方。地域の特性を主体的にする新聞。
- ・紙面づくりののポイントを幅広く知ることができた。

⑥感想・アイデアなど

- ・大変良い機会になりました。
- ・多賀城に多くの新聞がつくられていると思った。
- ・多賀城で地域新聞が増えているのも、活発な住民がいるからだと思った。
- ・ネタ探し、工夫が必要かと思いました。
- ・ネタ集め、人とのつながりなど参考になりました。
- ・それぞれの作成者がこだわりを持って作業・活動していることを知ることができ大いに参考になった。
- ・発表時間を打ち合わせしておくの良いのでは。

■全体の事業を通じて参加いただいた自治会・町内会（33カ所／全46カ所） ※個人、他事業との連携も含む

【東部】	1. 鶴ヶ谷親和会 2. 丸山町内会 3. 下馬東区自治会 4. 下馬南自治会 5. 大代中区町内会 6. 桜木東区町内会 7. 桜木北区町内会 8. 大代東区町内会 9. 大代北区 10. 下馬北区自治会 11. 黒石崎町内会 12. 笠神自治会
【中部】	13. 八幡下一区 14. 留ヶ谷自治会 15. 東田中親交会 16. 高崎自治会 17. 向山町内会 18. 東田中南自治会 19. 志引町内会 20. 八幡下二区町内会 21. 沖区振興会 22. 旭ヶ岡町内会 23. 西能ヶ田町内会 24. 向山町内会
【西部】	25. 新田三区 26. 高橋東二区町内会 27. 高橋北区町内会 28. 高橋南区町内会 29. 高橋東一区町内会 30. 城南自治会 31. 山王町内会 32. 南宮自治会 33. 浮島地区自治会

* 添付資料 ■ チラシ

(3)連携による課題解決を進める事業 1) 連携による課題解決を進める事業

目 的	NPO、市民、企業、自治会・町内会等の多様な主体が互いの理解を深めながら、地域や社会課題を深掘りし、連携して継続的に解決する場をつくる。
背 景	○前年度は、コロナ禍で出てきた新たな課題も含めて、ひとつの団体や組織では解決が困難な地域や社会の課題について、多様な主体が主体的に互いの理解を深めながら、連携して解決するための場づくりを継続することで連携のよさを感じることを目的に取り組みを行ってきた。 ○TSR (Tagajo Sustainable Relationship) 2021 会議では、「防災とインクルーシブなまちを考える」をテーマにゲストが立ち向かっている多様な課題を知ること、各主体が互いの理解を進めながら連携して解決できる課題のアイデアなども出てきた。また前年度は「防災」をテーマに年度を通じて継続的に取り組みを行う中で新たな主体との関係性の構築や場づくりから実践へとつながったものもあった。 ○今年度はこれまでに顕在化してきたいくつかの地域や社会課題を深掘りし、実践に向けてのアイデアを出し、課題解決に向けた実践に取り組む。また前年度から引き続き、ひとつの団体や組織では解決が困難な地域や社会の課題について、多様な主体が互いの理解を深めながら、連携して解決する場が主体的につくられるよう取り組みを継続していく。
対 象	市民、企業、NPO、自治会・町内会、学校、左記以外の様々なセクター
成果目標	○多様な主体同士でアイデアを出し合い、市民や企業、NPO、町内会、学校などと3件以上の実践をする。 ○TSC事業や多セクター間の連携等に関わりのなかった企業や寺社などが3団体、新たに連携の取り組みに参加している。 ○これまでの連携事例などの取り組みを発信することでTSCに2件以上相談や課題等が寄せられる。
成 果	○多様な主体とアイデアを出し合う場をつくり、5件の実践ができた。 ○連携事例などの取り組みを発信することでTSCに10件以上の相談や課題等が寄せられ、中には解決に向けた取り組みが進んだものもある。 ○前年度から「防災」をテーマに取り組みを継続してきたことで、新たな人材の発掘や実践につながった。
次年度に向けた課題	○直近3年間はコロナ禍の影響もあり、企業による地域での取り組みはあまり多くはなかったが、課題解決のためには企業の役割も大切だと考えている。そのため次年度は企業が連携の取り組みに参加できるようなアプローチを実施する。

実施概況（3）連携による課題解決を進める事業 1）連携による課題解決を進める事業

1. 課題やアイデアを実践する場

（1）防災人ミーティング

○1）～4）共通

- ・対 象：防災人（防災士、防災士、宮城県防災指導員、企業の防災担当者、地区の防災担当者、防災に関心のある人）

1）セミクローズ（広報をせずに開催）

日 時：令和4年6月7日（火）18:00～19:30

会 場：多賀城市民活動サポートセンター 大会議室

内 容：防災に関する気になる話題などの情報交換

参 加：16名

2）1回目

日 時：令和4年7月15日（金）18:30～20:00

会 場：多賀城市民活動サポートセンター 大会議室

内 容：防災に関する活動の情報交換・これからやってみたいと考えていることについての話題提供

参 加：19名

3）2回目

日 時：令和4年8月25日（木）18:30～19:30

会 場：多賀城市民活動サポートセンター 大会議室

内 容：誰ひとり取り残さない防災の取り組み

多賀城の被害を最小限にするためにはどのように動くべきか

下記5つのテーマごとにグループでアイデア出し

①広く取り組み策定 ②地域の動きや取り組み

③個人の動きや取り組み

④子どもたちへの防災教育 ⑤啓蒙

参 加：15名

4）3回目

日 時：令和4年9月16日（金）18:30～19:30

会 場：多賀城市民活動サポートセンター 大会議室

内 容：「誰ひとり取り残さない防災の取り組み」として実践していること・してみたいこと・提案の共有

参 加：9名



1.（1）1）防災人ミーティング。全体での自己紹介



1.（1）2）防災人ミーティング1回目。グループごとの情報交換



1.（1）3）防災人ミーティング2回目。グループごとのアイデア出し



1.（1）4）防災人ミーティング3回目。参加者の実践についてのアイデア出し

○全体の成果：

- ・防災士の資格を持っているけれども活かす場所がないと思っていた人や防災に関心のある人が情報交換をする場として継続的に実施できた。
- ・これまでT S Cに関わりのなかった人も「防災」というキーワードをもとに参加があり、多賀城の新たな人材の発掘につながった。
- ・顔の見える関係性を築くことができた。防災人の方々に多賀城の防災に関する情報を都度共有し、防災意識を高めることができた。

(2) T S R会議発ミーティング

日 時：令和4年7月28日（木）15:00～16:30

会 場：多賀城市民活動サポートセンター 大会議室

対 象：これまでのT S R会議参加者

内 容：これまでのT S R会議で出された課題やアイデアをより深掘りし、実践に向けたアイデア出しを行う

参 加：9名

成 果：これまでのT S R会議で出された地域の課題やアイデアの共有をより具体的に行って、課題解決に向けた行動案を検討することができた。



1. (2) T S R会議発ミーティング。課題解決に向けたアイデア出し

(3) ユニバーサルな避難の実践

1) ユニバーサルな避難について考える場

日 時：令和4年10月13日（木）18:00～19:30

会 場：多賀城市民活動サポートセンター 大会議室

対 象：防災・ユニバーサルに関心のある人

内 容：ユニバーサルな避難の実践に向けたアイデア出し

参 加：9名



1. (3) 1) ユニバーサルな避難について考える場。実践に向けたアイデア出し

2) 実践に向けた打ち合わせ

日 時：令和4年10月31日（月）15:00～16:00

会 場：多賀城市民活動サポートセンター 101 会議室

対 象：ユニバーサルな避難所の運営メンバー

内 容：実践に向けた詳細な打ち合わせ

参 加：5人

3) 実践

日 時：令和4年11月5日（土）10:00～11:30

会 場：多賀城市文化センター 創作室

対 象：防災人、ユニバーサルに関心のある人
市民、町内会、NPO、行政
内 容：①できますゼッケン ②防災バッグの中身
③移動式の点字ブロック ④ロービジョン体験
⑤こどものあそび場 ⑥車いすも通れるレイアウト
参 加：52名

4) 実践の振り返り

日 時：令和4年11月22日（火）18:00～19:30
会 場：多賀城市民活動サポートセンター 101 会議室
対 象：ユニバーサルな避難所の運営メンバー
内 容：実践についての振り返り
参 加：5名

○全体の成果：

- ・これまでのTSR会議で出された課題やアイデアを少人数で深掘りし、実践に向けてより具体的に考えることができた。
- ・企画から、実践の準備、当日の運営・片付け、振り返りまでの一連の流れを防災やユニバーサルに関心のある市民と実施できた。
- ・実践の当日はマイノリティ当事者、地域の人、NPO、行政など多様なセクターの来場があった。広く多くの人にユニバーサル視点を伝える場とすることができた。

（4）多様なセクターと連携した保育所の避難訓練

○1）～4）共通

◇進め方

①ルートの確認：一時避難所や想定避難ルートの確認

↓

②地域との情報交換：

- ・地域の人と東日本大震災時の状況や浸水地域などの情報の共有や避難ルートの相談などの情報交換

※TSCはこの部分を重点的に協力

↓

③避難訓練本番：地域や企業と連携した避難訓練を実施

◇主 催：避難訓練実施の各保育園

◇協 力：一般社団法人Bird's-eye、地域の郵便局長、多賀城市危機管理課、TSC



1.（3）3）ユニバーサルな避難所実践・ロービジョン体験。盲目体験眼鏡をかけて、白杖と人手を借りて入口まで歩いている



1.（3）4）実践の振り返り。実践を振り返り、今後の課題やこれから実践したいこと等も含めて話し合った

1) もりのなかま保育園多賀城高橋園

①ルートの下見

日 時：令和4年6月21日（火）15:00～16:30

ルート：保育園→ロングライフ多賀城（一時避難所）
→化度寺

参 加：12名（TSC3名含む）

もりのなかま保育園多賀城高橋園、一般社団法人
Bird's-eye、地域の郵便局長、危機管理課、TSC

②地域との情報交換会

日 時：令和4年6月21日（火）16:30～17:30

会 場：高橋地区生活センター

参 加：10名（TSC3名含む）

もりのなかま保育園多賀城高橋園、高橋東二区町内
会会長、一般社団法人Bird's-eye、危機管理課、
TSC

③避難訓練当日 ※園の都合により中止

2) 桜木保育所

①ルートの下見

日 時：令和4年9月8日（木）9:30～11:00

ルート：桜木保育所→中財公園→箱塚橋→市営鶴ヶ谷住宅（一
時避難所）→天真小学校（避難場所）

参 加：8名（TSC1名含む）

桜木保育所、一般社団法人Bird's-eye、地域の郵
便局長、危機管理課、TSC

②地域との情報交換会（2回に分けて実施）

◇日 時：令和4年9月8日（木）11:00～12:00

会 場：鶴ヶ谷親和会集会所

参 加：6名（TSC1名含む）

桜木保育所、鶴ヶ谷親和会会長、一般社団法人
Bird's-eye、危機管理課、TSC

◇日 時：令和4年9月8日（木）14:00～15:00

会 場：鶴ヶ谷市営住宅集会所

参 加：12名（TSC2名含む）

桜木保育所、丸山町内会、桜木北区町内会、一般
社団法人Bird's-eye、危機管理課、TSC



1. (4) 1) もりのなかま保育園多賀城高橋園・①ルートの確認



②地域との情報交換会



1. (4) 2) 桜木保育所①ルートの確認



②地域との情報交換会・鶴ヶ谷親和会

③避難訓練当日

日 時：令和4年9月13日（火）9:30～11:00

ル ー ト：桜木保育所→中財公園→箱塚橋→市営鶴ヶ谷住宅
（一時避難所）→天真小学校（避難場所）

参 加：56名（TSC2名含む）

桜木保育所、鶴ヶ谷親和会（見守り隊）、丸山町内会、
一般社団法人Bird's-eye、地域の郵便局長、
危機管理課、TSC



②地域との情報交換会・丸山町内会・桜木北区町内会



③避難訓練当日

3）志引保育所

①ルートの下見

日 時：令和4年10月13日（木）9:30～11:00

ル ー ト：志引保育所→石井小児科経由→市役所前公園

参 加：8名（TSC1名含む）

志引保育所、志引町内会、さくら会、一般社団法人
Bird's-eye、地域の郵便局長、危機管理課、TSC

②地域との情報交換会

日 時：令和4年10月6日（木）14:30～15:30

会 場：志引集会所

参 加：10名（TSC2名含む）

志引保育所、志引町内会、さくら会、一般社団法人
Bird's-eye、危機管理課、TSC

③避難訓練当日

日 時：令和4年10月18日（火）9:45～10:50

ル ー ト：志引保育所→石井小児科経由→市役所前公園

参 加：72名（TSC1名含む）

志引保育所、志引町内会、さくら会、一般社団法人
Bird's-eye、地域の郵便局長、危機管理課、TSC



1.（4）3）志引保育所①ルートの確認



②地域との情報交換会

４）八幡保育所

①ルートの下見

日 時：令和４年１０月２１日（金）９：４５～１１：００

ルート：八幡保育所→鎮守橋→多賀城ロジュマン各棟
→市役所前公園

参加者：１１名（ＴＳＣ１名含む）

八幡保育所、東田中南自治会、一般社団法人 Bird's
eye、地域の郵便局長、危機管理課、ＴＳＣ

②地域との情報交換会

日 時：令和４年１０月２１日（金）１１：００～１２：００

会 場：多賀城市役所

参 加：１０名（ＴＳＣ１名含む）

八幡保育所、八幡下一町内会、東田中南自治会、一
般社団法人 Bird's-eye、地域の郵便局長、危機管
理課、ＴＳＣ

③避難訓練当日

日 時：令和４年１１月２１日（月）９：４５～１１：００

ルート：八幡保育所→舟橋→多賀城ロジュマン各棟
→市役所前公園

参 加：３０名（ＴＳＣ１名含む）

八幡保育所、八幡下一町内会、東田中南自治会、
一般社団法人 Bird's-eye、地域の郵便局長、社会
福祉法人多賀城市社会福祉協議会、多賀城市中央
地域包括支援センター、危機管理課、ＴＳＣ

○全体の成果：

- ・地域や防災に詳しい地域の人や郵便局長、防災士と訓練をすることで、いつもとは異なる避難ルートを考えたり、避難場所を検討したり、新たな視点を持つことができた。
- ・保育所がある町内会とのつながりや、災害時に避難する可能性がある地域の人とのつながりができた。
- ・避難訓練当日に地域の人も子どもたちの見守りなどでご協力いただいた。



③避難訓練当日



１．（４）４）八幡保育所①ルートの確認



②地域との情報交換会



③避難訓練当日

(5) 浜松市との情報交換会

日 時：令和4年12月12日（月）14:00～15:30

会 場：多賀城市役所 202 会議室（Zoom）

内 容：地域と連携した保育所の避難訓練についての情報交換

参 加：17 名（T S C 3 名含む）

浜松市：認定NPO法人魅惑的倶楽部、浜松市市民協働センター、マーガレット保育園、認定NPO法人はままつ子育てネットワークびっぴ、浜松磐田信用金庫SDGs推進部、浜松市危機管理課

多賀城市：一般社団法人Bird's-eye、多賀城郵便局、多賀城市危機管理課、T S C

主 催：一般社団法人Bird's-eye、認定NPO法人魅惑的倶楽部

成 果：浜松と多賀城の避難訓練で共通していることや連携先や手法の違いなど、情報交換することで双方に学びがあった。

(6) 保育所避難訓練の振り返りの会

日 時：令和5年1月24日（火）13:00～14:30

会 場：多賀城市市民活動サポートセンター大会議室

内 容：今年度避難訓練を実施した3保育所と連携した各団体・市民と一緒に振り返り

参 加：30 名（T S C 3 名含む）

保育所（桜木・志引・八幡）、訓練参加の町内会や参加保育所近隣の町内会、地域の郵便局長、地域包括支援センター（東部・中央）、社会福祉法人多賀城市社会福祉協議会、一般社団法人Bird's-eye、危機管理課、地域コミュニティ課、T S C

主 催：多賀城市危機管理課、桜木保育所、志引保育所、八幡保育所

協 力：一般社団法人Bird's-eye、多賀城市郵便局長、T S C

成 果：

- ・3保育所それぞれ避難訓練実施の状況も異なったため、それぞれの訓練からの気づきの共有は他の保育所や参加者にとっても参考になった。
- ・次年度以降も地域と連携した避難訓練を継続していくことの必要性・重要性を確認できた。



1. (6) 保育所避難訓練の振り返りの会。
各保育所のグループで振り返りをしている

2. 連携に必要なセクターへのヒアリング・アプローチ事業

- ・令和4年6月28日（火）化度寺
- ・令和4年6月30日（木）日本積層造形株式会社
- ・令和4年6月30日（木）宮城県貞山高等学校

3. 報告書作成

- ・Tagajo Sustainable Relationship 報告書 Vol.3 作成
令和2年度～令和4年度の3年度分の連携事業の内容を掲載

アンケート集計結果

1. (1) 2) 防災人ミーティング1回目（18件回収／19名参加）

①年代

10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
0名	2名	2名	2名	8名	3名	1名	0名

②住まい

多賀城市	塩釜市	七ヶ浜町	利府町	仙台市	その他
14名	1名	0名	1名	1名	1名

③多賀城との関わり（複数回答可）

住まいが多賀城	通勤・通学	家族・親戚が多賀城	以前多賀城在住	その他
14名	4名	1名	1名	0名

④本日のイベントを何で知ったか（複数回答可）

TSCスタッフ	チラシ	HP・ブログ	知人・友人	広報多賀城	その他
9名	2名	1名	3名	4名	1名

⑤感想や今後の情報交換会で取り上げたいテーマなど（自由記述）

- ・実際に逃げるために考えていきたい。
- ・防災人とは？というレベルで参加させていただきましたが、皆さん詳しく、いろいろな情報をもっていて大変勉強になりました。
- ・お話をする時間があって良かったです。色々な方の（目線）の話が聞けて参考になりました。
- ・自費で作成するので名札があれば話しやすいです。
- ・次回は参加できませんが、その後のミーティングを楽しみにしています。
- ・知り得ない話を伺うことができました。グループわけ良かったです。
- ・防災人で実施できるイベントの提案を考える。
- ・様々な方とお話できて勉強になりました。
- ・マイタイムライン
- ・たくさんの環境の人と話せて大変勉強になりました。
- ・防災に関する講習会（知識を深める）
- ・自己紹介の時間をなくし、情報交換の時間を多くしたほうがよいと思います。
- ・有意義な会でした。多賀城に力強いメンバーが居て安心です。

- ・地域ごとに課題は違うと思うので、東部・中部・西部、多くの方々に参加していただきたい。
- ・様々な立場の人から話が聞けるので大変有意義な時間でした。ありがとうございました。
- ・とても良い会合になった。様々な立場の方々の貴重な意見を聴く事ができたのが収穫である。続けてほしい企画であると思う。次回が楽しみです。
- ・まだまだ教えていただいたことが、点でしかとらえられず、今後、点と点が線となれるようにしたいと思います。
- ・自分のできること（経験、仕事など）をそれぞれで防災に生かす。

1. (1) 3) 防災人ミーティング2回目 (13件回収/15名参加)

①年代

10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
0名	0名	0名	3名	6名	2名	2名	0名

②住まい

多賀城市	塩釜市	七ヶ浜町	利府町	仙台市	その他
10名	0名	0名	1名	2名	0名

③多賀城との関わり (複数回答可)

住まいが多賀城	通勤・通学	家族・親戚が多賀城	以前多賀城在住	その他
10名	3名	1名	0名	2名

④本日のイベントを何で知ったか (複数回答可)

TSCスタッフ	チラシ	HP・ブログ	知人・友人	広報多賀城	その他
5名	1名	1名	4名	0名	0名

⑤感想や今後の情報交換会で取り上げたいテーマなど (自由記述)

- ・災害発生時の避難所について
- ・防災に関する訓練等も取り入れてほしいです
- ・地区の防災について進め方について意見が聞けたので参考になりました
- ・家庭のローリングストック、備蓄品
- ・他地域の取り組み参考になりました
- ・3回目深掘りされてきましたね。継続は力なりです！
- ・初めてでしたが良い情報の交換ができました。感謝します
- ・個人、地域、子供、全体の各々の目線で考え、それを一体化させるとすばらしいものが出来るような感じがしました。机上理論にならない様、行動とブラッシュアップに取り組む必要
- ・防災・減災の情報が知れて良かったです。マッチングの可能性が広がりそうでわくわくしました。ありがとうございます
- ・同じ問題意識を持った方々と話し合えて良かったです

* 添付資料 ■チラシ ■報告書

（４）情報発信事業 １）フリーペーパー「tag」発行

目 的	○市民が市民活動に触れる機会を増やし、市民活動に興味を持つ人が増えることを目的とする。 ○市民が地域づくりについての幅広い情報を得られる環境を整え、地域活動に新たに参画する人が増えることを目的とする。 ○各プロジェクトや連携に関する発信を行うことで、活動の幅が広がり、成果が上がる団体が増えることを目的とする。
背 景	○平成 25 年 1 月に創刊、今年度 100 号の発行を迎えた「tag」は、地域づくりに関するフリーペーパーとして定着を図りつつ、地域の魅力アップや課題解決に向けて働きかけてきた。 ○今年度より、発行頻度を 2 ヶ月に 1 回に変更し、時節に合った内容が発信できるよう心がける。 ○「市民活動サポートセンターが発行している情報誌である」ということを念頭に置き、「多賀城をもっとよいまちにしていきたい」という人・団体・取り組みを取り上げ、それらの活動が促進されるような記事、また、市民の参画が促進されるような記事を掲載することで、地域づくりに関わる人材・資源を増やすことを目標に掲げている。
対 象	○無関心層、潜在的活動者（活動に関心のない方、活動のきっかけがつかめない方） ○活動者（市民活動や地域活動に関して情報を得にくい状況の方） ○受益者（コロナ禍で生活等に困りごとを抱えている方）
成果目標	○市民活動に対する意識が変化し、アクションを起こす市民・団体を 5 件以上生み出す。 ○市民が市民活動に触れる機会を増やすために、配置場所を 23 ヶ所増やす。
成 果	○記事を見てアクションを起こした市民・団体が 2 件あった（達成率 40%）ほか、掲載団体より「活動の幅を広げることができた」「活動の周知につながった」という声をいただいた。 ○創刊 100 号を記念した展示やラジオ出演を通して、より多様な層の人が市民活動に触れる機会を増やすことができた。
次年度に向けた課題	○「tag」の成果としてのアクションを起こした市民・団体を、ほとんど生み出すことができていないのが現状。わかりやすい内容・紙面づくりを心がけ、市民活動・地域活動に興味を持つ人を増やしていく。 ○地域や社会の課題解決に向けては、単一の団体やセクターによる取り組みだけでなく連携・協働しての取り組みも行われていることを伝えきることができなかった。課題に対して多様なセクターが関わっていること、セクターを越えた連携が行われていることを伝えられる誌面作りをしていきたい。 ○今年度は、配架先は 4 ヶ所しか増やすことができなかった（達成率 17.4%）。配架場所を増やし、市民が市民活動や地域活動に触れる機会を提供していく。

実施概況（４）情報発信事業 １）フリーペーパー「tag」発行

１．発行形態

- 発行月：令和４年６月、８月、１０月、１２月、令和５年２月
- 発行頻度：２ヵ月に１回
- 様式：Ａ３二つ折り 全４ページ 両面カラー
- 発行部数：２,０００部
- 誌面デザイン：株式会社ユニグラフィック、印刷は外注

２．内容（各号の詳細は別項を参照）

- １ページ（表紙）
 - ・多賀城の地域資源（人・団体・できごと・もの）を紹介
- ２ページ
 - ・特集１「みんなで考える多賀城のこと」 … 地域の課題を提示し、解決に取り組む団体を紹介
- ３ページ
 - ・特集２「市民活動はじまりのはじまり」 … 市民活動に携わる人の活動をはじめたきっかけや想いを紹介
- ４ページ
 - ・たがさぼからのお知らせ … ＴＳＣのサービスやイベント・講座などを紹介
 - ・ヒント from “たがさぼ Press” … ＴＳＣのブログ記事を簡単に紹介

３．配架先（号別部数及び配架箇所数は別項を参照）

- 多賀城市内及び周辺市町公共施設
- 多賀城市内民間施設・店舗（病院、福祉施設、郵便局等）
- 県内外ＮＰＯ支援センター
- マスコミ
- 学校
- 行政機関

4. 各号の掲載内容

(1) 98号(6月発行)

〇1 ページ(表紙)

- 「スポーツで障がいの垣根をなくそう」
- ・紹介イベント：インクルーシブスポーツキャラバン
- ・内容：令和4年5月5日に行われた「インクルーシブスポーツキャラバン 2022 in 多賀城」について。イベントの目的や開催にあたっての想いを紹介。

〇2 ページ

- みんなで考える多賀城のこと
- 「地域で、集まる・楽しむ・つながる」
- ・紹介団体：NPO法人ケアブレンド
- ・内容：令和4年5月7日に行われた「でんじょうやまギフトサロン」について。イベントの目的や開催にあたっての想いを紹介。

〇3 ページ

- 市民活動はじまりのはじまり
- 「わたしのはじめの第一歩」
- ・紹介団体：TAGAJ0 Future Labo 過去回参加者
- ・内容：TSC事業「TAGAJ0 Future Labo」への平成29～31年度の参加者の参加したきっかけ、講座で得られたものについて。

〇4 ページ

- たがさばからのお知らせ
- ・「たがさば文庫」のご案内
- ヒント from “たがさばPress”
- ・Tagajo Sustainable Relationship 2021～防災とインクルーシブなまちを考える～ゲストトーク①をレポートします！
- ・コロナ禍でもできる地域で身近な支え合い
- ・TAGAJ0 Future Labo 5th season「マイアプローチ発表会」を開催しました！



98号 1ページ(表紙)



98号 2ページ



98号 3・4ページ

(2) 99号(8月発行)

○1 ページ(表紙)

- 「多賀城歴史散歩～古き良き史跡をたずねて～」
- ・紹介団体：多賀城市史跡案内サークル
- ・内容：「多賀城旧13ヵ村を巡る“いきいき歴史ウォーキング”」を通して、団体の活動に対する想いを紹介。

○2・3 ページ

- みんなで考える多賀城のこと
- 「暮らしやすい地域を目指して～これからの自治会・町内会～」
- ・紹介団体：新田三区、城南自治会、桜木南区町内会、下馬南自治会
- ・内容：市内の自治会・町内会のさまざまな課題への取り組み事例を紹介。

○4 ページ

- たがさぽからのお知らせ
- ・『わがまち情報交換会』の動画を配信しています
- ヒント from たがさぽ Press
- ・春うらら「多賀城旧13ヵ村をめぐる歴史散歩」
- ・これからの可能性のタネを育てよう～3.11を振り返って見えてきたこと～
- ・「町内会はみんなのために」すみだ24年の取り組みで見えたこと



99号 1 ページ(表紙)



99号 2・3 ページ



99号 4 ページ

(3) 100号(10月発行)

○1 ページ(表紙)

- 「これからの多賀城につなぐ 279 のタグ」
- ・紹介団体：地域盛り上げ隊タガレンジャー
- ・内容：tag の歩み、1 号の表紙を飾った地域盛り上げ隊タガレンジャーの当時のエピソードや近況について。

○2・3 ページ

- みんなで考える多賀城のこと
- 「Tagajo Future セッション～みんなで育むわたしたちのまち～」
- ・紹介団体：高崎こども食堂らっこ広場
- 多賀城市ジュニアリーダーエステバン
- タガの柵/株式会社多賀城DMC
- ・内容：異なるテーマで活動する異年代の方々による、多賀城の魅力や課題についての座談会。

○4 ページ

- たがさばからのお知らせ
- ・100 号でふりかえる tagajo の価値発見！(創刊 100 号記念展のお知らせ)
- ヒント from たがさば Press
- ・たがさば新情報誌「tag」創刊
- ・たがさばの情報誌「tag」が 50 号を迎えます！
- ・ここから～もうひとつの多賀城ガイドブック～発行！！



100号 1 ページ(表紙)



100号 2・3 ページ



100号 4 ページ

(4) 101号(12月発行)

○1 ページ(表紙)

●「寄付は、想い描く未来へのプレゼント」

・紹介団体：NPO法人いのちのパン

認定NPO法人シャプラニール＝市民による海外協力の会

・内容：寄付月間に絡めて、寄付の情報、方法の一例を紹介。

○2 ページ

●みんなで考える多賀城のこと

「広がれ！共生社会の輪～ともに生き、ともに働ける社会を目指して～」

・紹介団体：コッペ(NPO法人麦の会)

・内容：障がいの有無にかかわらず一緒に働ける場として生まれたパンとクッキーのお店「コッペ」を紹介し、共生社会へ向けたヒントを探る。

○3 ページ

●市民活動はじまりのはじまり

「ボランティアで新しい自分を発見！」

・紹介団体：NPO法人みやぎみなとまちづくり市民会議

・内容：「みなとのまち25km 徒歩の旅」の様子、イベントを支えるボランティアの姿を通して、ボランティアを始めた人の想いを刺激する。

○4 ページ

●たがさばからのお知らせ

・NPO・市民活動団体向け「届く、届ける情報発信 SNS 活用講座」のお知らせ

●ヒント from たがさば Press

・たがさばのきつ雑貨市①リポート 共生社会をめざす耳の聴こえないパン職人の島おこしのおはなし

・ビーチクリーンで海と向き合おう！

・寄付は自分の想いを託すこと



101号 1ページ(表紙)



101号 2ページ



101号 3・4ページ

(5) 102号(2月発行)

〇1 ページ(表紙)

●「ユニバーサルな視点で避難所を考える」

- ・内容:「ユニバーサルな避難所」(令和4年11月5日開催のTSC事業)で実践したことを通して、誰もが安心して過ごせる避難所について考える。また、その改善のための取り組みを伝える。

〇2 ページ

●みんなで考える多賀城のこと

「自分の暮らすまちのいま・むかしを知る～地域学で気づく地域の魅力と防災～」

- ・内容:さまざまな視点からまちを見る手法としての「地域学」を紹介。地域を知り、伝えることで、どんな発見があるかを探る。

〇3 ページ

●市民活動はじまりのはじまり

「七ヶ浜の記憶を語り継ぐ、聞き書き七ヶ浜」

- ・紹介媒体:聞き書き七ヶ浜
- ・内容:七ヶ浜在住の方の七ヶ浜についての記憶を掲載した冊子に込められた想い、発行に至るまでの経緯を紹介。

〇4 ページ

●たがさばからのお知らせ

- ・今年度もリニューアルしました!市民活動お役立ち情報

●ヒント from たがさば Press

- ・日常を見る視点[東豊中防災MAPから見えてきたこと]～ヒントやきっかけのタネ～
- ・知れば知るほどおもしろい 多賀城みんなの地域学 下馬編
- ・多賀城でユニバーサルな避難所を考えて、実践!



102号 1ページ(表紙)



102号 2ページ



102号 3・4ページ

5. その他企画

(1) tag 創刊 100 号記念展

- ・創刊 100 号を記念して、これまでの発行のあゆみを振り返るとともに、市民に多賀城及び周辺地域のヒト・コト・モノに改めて着目してもらう機会を設けた。

●TSC会場

- ・日程：令和4年10月13日（木）～25日（火）
- ・会場：1階エントランス、2階ギャラリー
- ・内容：「tag」の掲示、年表の掲示、概要の紹介

●多賀城市立図書館会場

- ・日程：令和4年11月1日（火）～13日（日）
- ・会場：2階共有スペース
- ・内容：「tag」の掲示、年表の掲示、概要の紹介

●多賀城市役所会場

- ・日程：令和4年11月15日（火）～25日（金）
- ・会場：1階ロビー
- ・内容：「tag」の掲示、年表の掲示、概要の紹介



5. (1) TSCでの展示の様子



5. (1) 多賀城市立図書館での展示の様子



5. (1) 多賀城市役所での展示の様子

(2) tag 創刊 100 号記念合本

- ・1～100号までを綴じ合わせて1冊に製本し、市内公共施設などに配付した。

6. メディア出演

○TBCラジオ「en ∞ Voyage」

- ・令和4年11月29日（火）インタビュー出演
（「tag」100号と記念展示の紹介）

７．配架部数及び配架箇所数

配架部数										
号数	館内	公共 施設	民間 施設	支援セ ンター	マス コミ	学校	行政	その他	配架部 数合計	発行 部数
98号(6月)	200	594	445	165	40	120	80	126	1,770	2,000
99号(8月)	200	594	465	165	40	120	80	126	1,790	2,000
100号(10月)	200	594	480	165	40	120	80	126	1,805	2,000
101号(12月)	200	594	480	165	40	120	80	126	1,805	2,000
102号(2月)	200	594	490	165	40	120	80	126	1,815	2,000
配架部数計	1,000	2,970	2,360	825	200	600	400	630	8,985	10,000
配架箇所・配架部数 前年度末比										
号数	館内	公共 施設	民間 施設	支援セ ンター	マス コミ	学校	行政	その他	配架部 数合計	発行 部数
今年度末 (102号)										
配架部数	200	594	490	165	40	120	80	126	1,815	2,000
配架箇所数		65	60	51	21	20	6	18	241	
前年度末(98号)										
配架部数	200	594	445	165	40	120	80	126	1,770	2,000
配架箇所数		65	56	51	21	20	6	18	237	
配架部数増減	±0	±0	+45	±0	±0	±0	±0	±0	+45	±0
配架箇所数増減	±0	±0	+4	±0	±0	±0	±0	±0	+4	±0

* 添付資料 ■ 「tag」98号～102号

(4) 情報発信事業 2) コロナ禍における情報発信事業

目 的	○市民が市民活動に触れる機会を増やし、市民活動に興味を持つ人が増えることを目的とする。 ○市民が市民活動の情報を得ることができる環境を整え、市民活動に参画しようとする人が増えることを目的とする。
背 景	○新型コロナウイルス感染症の拡大により、イベントや会議など集まる場を減らすことが余儀なくされた。一方、動画配信やウェブ会議といった今までとは違った情報収集ツール・コミュニケーションツールも活用の幅が広がっている。中でも「YouTube」に代表される動画共有サービスは、外出自粛が求められる中、趣味・学習・情報収集のツールとして需要が増した。T S Cでも 2020 年度より「たがさばチャンネル」を開設しており、T S Cに来館せずともT S Cや団体の取り組みを知ってもらえる機会となった。このように動画コンテンツの活用を通して、市民活動が身近に感じられる状況をつくり、市民活動の活性化につなげていきたい。 ○コロナ禍以前よりT S Cでは、ホームページ、ブログ、Twitter など市民活動に関する情報を発信し、市民活動に関するさまざまな情報を多くの人に伝えることができた。このように、団体にとって必要な情報や市民に興味を持ってもらえる情報を引き続き積極的に発信することで、T S Cや市民活動を知るきっかけづくりを行い、ゆくゆくはT S C主催事業への参加や市民活動に対するアクションを増やしたい。
対 象	○活動者（イベント・講座や助成金情報など、活動に役立つ情報を探している方） ○潜在的活動者（何か活動をはじめたいと考えているが、きっかけを探している市民） ○無関心層（市民活動に対し興味・関心を持たない市民） ○受益者（困りごとに対して情報を求めている方）
成果目標	○ブログの訪問者数が月平均 3,800 件以上になる。 ○動画コンテンツに関心を示し、定期的に情報を得るためのアクションとして、12 人以上が新たに YouTube チャンネルに登録する。
成 果	○ブログの訪問者数は、月平均 3,448 件（達成率 91%）。月平均 19 件ほどの更新を行い、さまざまな情報を市民に提供することができた。 ○今年度中、新たにチャンネル登録を行ったのは 13 名（達成率 108%）。定期的な視聴を通して市民活動や地域活動について知るというアクションを起こす人が生まれた。
次年度に 向けた課題	○YouTube チャンネルの新たな登録者数は目標をほぼ達成できたものの、チャンネル自体やT S Cが動画を発信していることに関する市民の認知度はまだまだ低い。また、内容が町内会事業紹介に偏ってしまった。さらなる周知を図り、企画力を上げ、市民活動に関する情報を得る媒体として定着させていきたい。 ○T S Cの情報発信媒体へのアクセスやアクション数は前年度を下回るものが多かった。今後、これらの媒体を多くの市民に知ってもらうアクションや、発信の質・数を向上させることで、市民活動に対する意識の変化をもたらすような発信を行いたい。 ○市の Facebook の活用が事業によって偏りが出てしまった。T S Cとして効果的な幅広い発信を心がけたい。

実施概況（４）情報発信事業 ２）コロナ禍における情報発信事業

1. TSCのウェブ媒体による情報発信

○概要

TSCでは、以下に挙げる様々なウェブ媒体を使用し情報発信に取り組んでいる。今年度は媒体単独での発信だけでなく、媒体同士の連携や、多賀城市 Facebook ページや LINE による情報発信も行った。そして、TSCの情報に触れる機会を増やし、より多くの人に情報が届くように努めた。

(1) YouTube「多賀城市市民活動サポートセンターチャンネル」

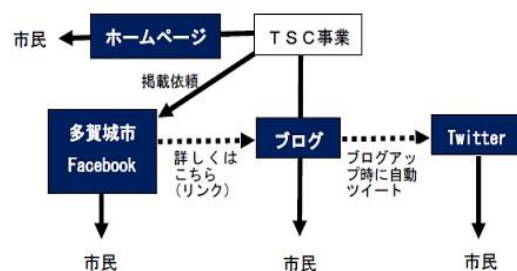
- ・動画により、TSC事業や地域の活動事例などの紹介を行った。
- ・チャンネル登録者数：44名（令和5年3月末時点）
※令和4年度中に13名増加
- ・作成動画数：4本（令和4年度）
- ・内容、再生回数などは後記2.を参照。

(2) ホームページ

- ・TSCの機能や施設の紹介、TSC主催の講座・イベントのお知らせ、市民活動団体情報の発信、各種発行物のアーカイブなどを行った。
- ・発信頻度：随時（TSC事業告知時が中心）
- ・訪問者数：14,040件（月平均1,170件）
- ・詳細は、本報告書36ページ「3 運営状況（3）情報提供 2）ウェブサイト・ブログ・ツイッター」を参照。

(3) ブログ「たがさぼ Press」

- ・市民活動お役立ち情報の発信、団体や取り組み、イベントの紹介、TSC及び実施事業の周知・報告などを行った。
- ・発信頻度：週3回（月・木・土）以上
- ・記事数：222本（月平均19本）
- ・訪問者数：41,381件（月平均3,448件）
- ・詳細は、本報告書36ページ「3 運営状況（3）情報提供 2）ウェブサイト・ブログ・ツイッター」を参照。



1. 媒体の連携の一例（TSC事業の告知時）



1. (2) ホームページのトップページ



1. (3) ブログのトップページ

(4) Twitter

- ・ブログ更新のお知らせ、T S C や利用団体主催の講座・イベントのお知らせ、T S C の様子の紹介などを行った。

- ・フォロワー数：2,008 名（令和 5 年 3 月末現在）

※令和 4 年度は 46 名増加

- ・発信頻度：週 3 回以上

（ブログ更新時に自動的にツイートされるほか、それと別にツイートを行うこともあった）

- ・ツイート数：254 回（月平均 21 回）

- ・訪問者数：66,343 件（月平均 5,529 件）

- ・エンゲージング（反応）数：4,324 回（月平均 360 回）

訪問者数に対する割合：6.5%

(5) インスタグラム「たがさぼのクリスマス雑貨市」

- ・雑貨市の周知や出展団体の紹介などを行った。

- ・フォロワー数：132 人（令和 5 年 3 月末現在）

- ・発信期間：10 月下旬～12 月上旬

- ・掲載記事数：39 件

- ・訪問者数：8,691 件（記事 1 件当たり 222 件）

- ・「いいね！」数：474 件（記事 1 件当たり 12 件）

- ・その他、本報告書 59 ページ「4 事業実施状況（1）地域の担い手育成事業 1）雑貨市等」を参照。

(6) 多賀城市 Facebook の活用

- ・多賀城市の公式 Facebook ページに T S C 主催講座・イベントの告知を依頼し、T S C を知らない層にも T S C の周知や事業への参加を促した。

- ・掲載記事数：16 本

- ・訪問者数：4,747 件（記事 1 本あたり 297 件）

- ・訪問者のアクション数：329 件（記事 1 本あたり 21 件）

（「いいね」や画像、リンクのクリックなど）



1. (4) Twitter のプロフィール欄



1. (5) インスタグラムのプロフィール欄

2. YouTube「多賀城市民活動サポートセンターチャンネル」

○チャンネル登録者：44名（令和5年3月末時点）

○動画数：4本（令和4年度）

○投稿動画

（1）事業紹介⑤

「自治会・町内会 多賀城みんなの地域学～下馬編～」

・投稿日：令和4年12月24日（土）

・内容：TSC事業「多賀城 みんなの地域学～下馬編～」

（令和4年10月20日開催）の様子

・再生回数：71回（令和4年3月末時点）

（2）事業紹介⑥

「自治会・町内会 多賀城みんなの地域学～笠神編～」

・投稿日：令和5年2月16日（木）

・内容：TSC事業「多賀城 みんなの地域学～笠神編～」

（令和4年11月6日開催）の様子

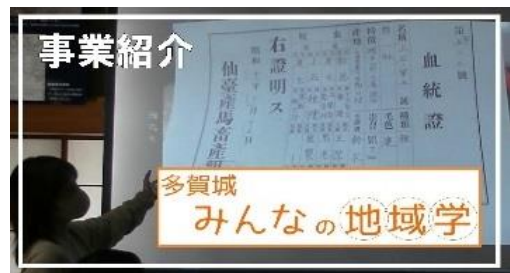
・再生回数：60回（令和4年3月末時点）



2.（1）事業紹介動画⑤タイトル画面



2.（1）「下馬沼」について語り合う参加者の様子



2.（2）事業紹介動画⑥タイトル画面



2.（2）昔の子どもの遊びについて語り合う参加者の様子

(3) 事業紹介⑦

- 「自治会・町内会 新聞シェア&困りごと解決相談会」
- ・投稿日：令和5年3月18日（土）
- ・内容：TSC事業「自治会・町内会 新聞シェア&困りごと解決相談会」（令和5年1月22日開催）の様子
- ・再生回数：25回（令和5年3月末時点）



2. (3) 事業紹介動画⑦タイトル画面



2. (3) 町内会新聞の作成ポイントについて話す参加者の様子

(4) 団体紹介「NPO法人いのちのパン」

- ・タイトル：「食べ物と一緒に『こころ』も一緒に運ぶフードバンクNPO『いのちのパン』」
- ・投稿日：令和5年3月27日（月）
- ・内容：フードバンク活動の紹介と団体代表へのインタビュー
- ・再生回数：25回（令和5年3月末時点）



2. (4) 団体紹介動画 タイトル画面



2. (4) 団体について話す団体代表の様子

Ⅱ

令和 5 年度事業計画

1. 令和5～7年度施設運営方針

下記の取り組みを通して、自発的に考え、行動する市民を増やすこと。また、地域への多様な関わり方を増やすことによって、地域経営基盤構築事業における、市民の主体性を育むこと、協働による課題解決を促進することに貢献していく。

（1）多賀城市の状況と課題 TSCが考える取り組むべき課題

1）市民活動を推進する上での課題

- ・ 便利で住みやすいまちゆえに、このままだと地域を担う主体としての市民ではなく、まちを利用するだけの消費者としての住民が増えることが考えられる。
- ・ 自治会・町内会の担い手の多くは高齢化が進み、このままだとまちを自らの手で住み心地よくする人は減っていく状況にある。
- ・ 市民活動の本質は、地域の多様な主体が参加しながら課題解決に取り組むことだが、市民活動団体だけで解決する、地域側も団体に解決を任せるような方向に向かっている。
- ・ コロナ禍をきっかけに地域の多様な主体の交流や対話の機会を失ってしまい、上記のような状況が進んでいる。

2）行政との協働を実践する上での課題

- ・ 計画策定時やその後具体的な事業が行われる際に、事業への市民の参加はあるが、決める場への市民の参画の機会が少ないこと。
- ・ 市民側が行政に接する際に、要望・陳情型になりやすいこと。行政側は要望・陳情として受け止めてしまう傾向にあること。そのため市民と行政のコミュニケーションの中から協働を生み出しにくいこと。
- ・ 行政から市民へのアクセスは縦割りになりがちであること。

（2）私たちが考えるめざすまちの姿

“ベッドタウンからホームタウンへ”

多賀城は交通の便がよく、仙台市に通勤通学している人が多い。駅前にはカフェが入るおしゃれな図書館もあり、ロードサイドには生活に必要な商業施設等が建ち並んでいる。そんな便利で住みやすいまち多賀城は、若い世代に住むまちとして選ばれる一方で、転出入も多い。このままではまちを利用するだけの消費者としての住民が増え、地域を担う主体としての市民が減ることが予想される。自分が住むまちに自分が関わることで、さらに魅力的なまちにしていける、そんな実感を持てる機会を

T S Cが増していくことで、主体としての市民を多賀城のまちに増やしていく。

(3) これまでの振り返りと令和5年度(2023年度)以降のT S Cの役割と取り組み

1) まちをともに創る人を増やす

①T S Cの運営に市民の参画の機会を創出

○現状と振り返り

T S Cの開館は、市民活動実践者や市職員有志が市民活動や協働についてともに学ぶ中で、市民活動支援施設の必要性を見出し、機能や運営について検討し、市に提案したこときっかけとなっている。

これまでのT S Cの運営では、窓口を事務処理の受付のみにせず、利用者とのコミュニケーションを重視している。また、事業参加者へのアンケート、年1回実施する利用者アンケート、地元企業や自治会・町内会へのヒアリング、地域のさまざまな主体が集まる会議への参加などを通して、地域のニーズを探り、課題を設定し、めざすまちの姿を描き、事業案に落とし、取り組みを進めてきた。

平成29年度から取り組んでいるT S R(多賀城から、持続可能な関係性を探る)では、地域課題を共有し、解決に必要なことを考え、実践に向けて、地域の活動者が対等な立場で取り組みを重ね、多文化共生や防災に関する課題解決の取り組みが生まれている(T S Rの取り組みについて詳しくは「ネットワーク推進機能」参照)。

○令和5～7年度の取り組み

これまでの市民の意見を聞くことに加えて、市民と一緒に地域の状況を共有し、課題を設定し、めざすまちの姿を描き、事業案に落としていく場づくりに取り組み始めていく。T S Cは支援する側とされる側の関係性ではなく、地域のことを考えるフラットな場として機能するような関係性を地域の方と育んでいく。

T S Rの場づくりの手法を活かし、T S Cの取り組みの中で主体としての市民を増やすことで、多賀城のまちに活かしていく。

例えば、1年目はT S Cで設定した課題について、解決に向けて必要なアイデアを出し合い、実践に移す。2年目からは課題から市民と一緒に考え、実践まで行うというように段階的に進めていく。決定の場には、市民活動団体、自治会・町内会、事業者、学校等の地域のさまざまな主体に参画してもらう。

前述のT S Rから、防災に関わる人・関心のある人を「防災人(ぼうさいびと)」と名付け、情報交換を行う場に、市担当課である危機管理課職員が市民の声を施策に反映する場と捉えて参加し、避難所のL G B T対応について市民活動団体との情報交換につながった。このように、話し合いの場には市職員も同席してもらい、市民の主体性を発揮する場を体感してもらう。

そのためには、支援者に必要な7つの力(相談対応力、調査・情報収集力、編集・発信力、コーディネート・ネットワーキング力、資源提供力、内部の人材育成力、政策提言力)のうち、スタッ

フのコーディネート・ネットワーク力を重視する。

②多賀城のまちの未来を描くフューチャーセッションの実践

○現状と振り返り

地域の中の支え合いを増やそうとしている地域福祉分野、地域ぐるみで子どもたちを育む体制づくりを進める教育分野、地元の人やコトを活かす観光をめざす観光分野等、第六次総合計画の推進には、地域の力が重要になっている。それぞれ行政が主催し、市民が参加し話し合う場が作られているが、話し合う課題や出た意見を活かす場が最初から決まっていることがほとんどである。TS Cもこれまで行政等の主催する会議への参加や、令和3年度は地域コミュニティ課が主催する小学校区での地域情報交換会、令和4年度は市民と市長の懇談会「Taga 懇」に協力してきた。

○令和5～7年度の取り組み

前述のTSRの実践を活かし、市民が主体となり、多賀城のまちについて考え、課題を設定し、実現可能な対応策を考える場（＝フューチャーセッション）を重ねていく。

テーマは「まちの担い手をどのようにつくるか」など多賀城のまちに関することとし、行政への陳情にしないようなグランドルールを決め、既活動者を中心に参加者を募るが、当事者も非当事者（未来の当事者の可能性がある）も参加できる場とする。アイデアベースではなく実現可能な案にブラッシュアップし、市担当課や市長に市民提案として話し合う場を設ける。市民がまちのことを考え、自分たちが決めたことを行動に移す経験を通して、行政への提案力向上、行政との協働を促進することをねらう。

また各団体が取り組んでいるテーマだけでなく、市全体を見る視点をもつことで、各テーマで活動する既活動者が、他の活動者を支える側にもなっていくこともねらう（例えば、こども食堂を開催する団体が、新たに活動を始める人のサポートや、地域の子育て支援を担う主体のつなぎ役になり、更なる子育て支援の環境づくりが促進されるなど）。

2）既存の仕組みの支援から関わりしるを増やす支援の強化

○現状と振り返り

自治会・町内会では、役員や活動の担い手の高齢化やまちを利用するだけの住民が増えていく状況の中で、担い手が不足し、これまで当たり前に行ってきた取り組みの継続が困難な状況が出ている、もしくは今後増えることが予想される。コロナ禍においては、夏祭りや敬老会、サロンなど、これまで通りの活動ができない状況になったが、工夫しながら活動を再開する動きも出てきている。活動を再開する際には、活動ができなかったことで発生した困りごとを確認し、本当に必要な活動の見極めややり方を変える好機とも捉えることができる。令和2～4年度は、地域のことを地域の人が発信し、新しい住民に土地のことを伝えることを目的とした地域学や自治会・町内会の取り組みを役員以外の人に知ってもらうためのツール町内会新聞の支援や、地区同士のテーマごとの情報交換などを中心に行い、地域や役割を超えた情報共有の場をつくることが出来た。

○令和5～7年度の取り組み

コロナ禍から活動を再開する自治会・町内会の支援をきっかけに、既存の取り組みの棚卸の支援、既存の活動の見直しや新たな取り組み開始の支援を行う。その際に、地域住民だけでなく、地区内の事業者や学生など多様な主体との連携の視点を加え、持続可能な地域運営につなげていく。

既存の取り組みへの支援よりも、既存の取り組みを変化させ、新たなかたちをめざす取り組みに対する支援を重点的に行う。

3) 新たな地域の担い手発掘・育成の継続

①高校生以下が活躍する場づくりにチャレンジする

○現状と振り返り

高校生の多くは周辺市町から通学している。また、2022年度改訂の学習指導要領で導入された総合的な探究の時間では、生徒が主体的に課題を設定し、情報収集・分析や課題解決に取り組むことから、地域に出たの調査や活動の機会が増えることが予想される。また、市内の高校はボランティア活動が単位として認められる制度があるが、コロナ禍で地域に関わる機会が減少している。

○令和5～7年度の取り組み

コロナ禍後を見据えて、高校生が地域に関わる機会を創出したり、情報提供やコーディネートを行うことで、新たな地域の担い手育成を進めていく。まずは、単位認定制度を見据えてのボランティア活動を通した関わりを模索する。また、小学生のうちから市民活動へ触れる機会を創出することで、中学生、高校生の活動の礎になるので、未来を担う子どもたちを対象とした育成にも力をいれていく。

②多様な活動の入口を示す

○現状と振り返り

令和4年2月多賀城市が実施したまちづくりアンケートでは「市民活動、NPO活動、ボランティア活動などに参加していますか」という質問に対し「今後参加してみたい」36.9%、「興味や関心がないので参加する気はない」48.5%という結果が出ている。TSCの相談対応や事業の中では、自分の活動が市民活動だと認識せずに活動しているという声や、市民活動は一部の特別な人がやっているという声を聞くことも多い。

前述の防災人（ぼうさいびと）の情報交換会には、資格を持っているが活かす場がない防災士、自分の知識やスキルを地域の防災に活かしたい方、自治会・町内会の防災担当になりアイデアがほしい方など、毎回20名ほどが参加し、新たな人材発掘につながった。この場での出会いから、地域の防災力向上につながる事例が生まれている。また、今期初めて実施したボランティア講座は、だれかの役に立ちたいという想いのある層を発掘することができた。

○令和5～7年度の取り組み

関わってみたら楽しく、まちがもっと好きになるような多様な取り組みを、TSCだけでなく、既活動団体と一緒に増やしていく。

		内容	主な対象	R5(2023)事業	R6(2024)事業	R7(2025)事業	めざす姿	地域コミュニティ課資料との合致
(1)まちをともに創る人を増やす事業	1)TSC運営への市民参画機会創出事業	市民と一緒に地域の状況を共有し、課題を設定し、めざすまちの姿を描き、解決に向けて必要なアイデアを出し合い、TSCの事業案に落としていく場づくりに取り組み始める。	市民活動団体、自治会・町内会、事業者、学校等の地域のさまざまな主体	1)話し合いの場づくり(課題はTSCが設定) 2)TSCの取り組みに活かす	1)話し合いの場づくり(課題から一緒に考える) 2)取り組み実践	1)話し合いの場づくり	・TSCが地域のことを考えるフラットな場として機能するような関係性が育まれている。	【地域の担い手育成】 【連携による課題解決】 【情報発信】 ・地域課題の把握に努める
	2)多賀城のまちの未来を描くフューチャーセッション事業	市民が主体となり、多賀城のまちについて考え、課題を設定し、実現可能な対応策を考える場(＝フューチャーセッション)を重ね、市民提案として市と話す場をつくる。	市民活動団体、自治会・町内会、事業者、学校等の地域のさまざまな主体	1)フューチャーセッション 2)議題テーマ型セッション 3)発信		2)提案の場	・市民の提案力が向上している。 ・行政との協働による地域づくりが進んでいる。 ・既活動者が他の活動者を支える側になっていく。	【連携による課題解決】 ・市民が主体となり、多賀城のまちについて考え、課題を設定し、実現可能な対応策を考える場(＝フューチャーセッション) 【地域の担い手育成】
(2)関わりしるを増やす支援事業	自治会・町内会等の関わりしるを増やす支援事業	コロナ禍から活動を再開する自治会・町内会の支援をきっかけに、既存の取り組みの棚卸の支援、既存の活動の見直しや新たな取り組み開始の支援を行う。	自治会・町内会＋潜在的活動者 市民活動団体	1)既存の取り組みの棚卸の支援、既存の活動の見直しや新たな取り組み開始の支援 2)テーマ型自治会・町内会情報交換会 3)地域学：市民が自分の住む地域のことを知り、発信することをサポート 4)自治会・町内会の取り組みヒアリング・発信事業			・地域での自主的な取り組みが増えている。 ・既存の取り組みを変化させたり、連携の視点を持つことで、持続可能な地域運営につながっている。	【自治会町内会】 ・町内会同士の情報交換の機会の提供 ・町内会等に対するアウトリーチ支援の実施 【連携による課題解決】
(3)新たな地域の担い手発掘・育成事業	1)次世代活躍事業	小中高生などの世代が地域に関わる機会を創出したり、情報提供やコーディネートを行うことで、新たな地域の担い手育成を進めていく。	小中高生など未来を担う世代	1)きつず講座(雑貨市と連携) 2)中学校・高校のボランティアコーディネート支援の模索(町内会支援と連携) 3)中高への市民活動に関する授業提案 4)Tagajo Future Labo部(中高生版TF L)			・NPOやボランティアについて知り、地域・社会の課題解決に目を向ける小中高生が増えている。 ・身の回りの困りごと、課題を自らの手で解決しようとする中高生が増えている。	【地域の担い手育成】 ・高校生が活躍する場づくりの実施
	2)市民参画促進事業	関わってみたら楽しく、まちがもっと好きになるような多様な取り組みを既活動団体と一緒に増やしていく。	無関心層 潜在的活動者	1)雑貨市 2)NPOいちから塾(活動体験含む) 3)ボランティア講座(NPO支援と連携) 4)気軽に活動に参加できる仕掛けづくり(多賀城市内のイベントへの出展等)			・地域の活動に参加し得る新たな人材が発掘されている。 ・地域活動への関わり方を知り、自分のできるかたちで関わる市民が増えている。	【地域の担い手育成】
(4)NPO支援事業	NPOつながり事業	自団体の弱み強みを知り、団体運営力のアップを図るよう支援することで、他の団体やセクターとつながり、団体を理解し支援する人や連携する団体を増やす。また、ボランティア情報の収集・発信を通して市民活動に関わる市民を増やす。	NPO 市民活動団体	1)インキュベート伴走支援 2)運営力、発信力アップ講座 3)NPO等交流会 4)団体とボランティアをしたい市民のコーディネート			・各団体が、自らの活動を見通すことで運営力がアップしている。 ・他の団体や市民と連携して、地域・社会の課題が解決できるようになっている。 ・ボランティアなど地域人材を活用できるようになっている。	【連携による課題解決】 【地域の担い手育成】
(5)情報発信事業	フリーペーパー「tag」発行/情報発信事業	市民活動や連携に関する発信を行うことで、市民が市民活動に触れる機会を増やす。	市民(受益者含む) NPO 市民活動団体	1)フリーペーパー「tag」発行(隔月A4両面) 2)連携の取り組みや大事業(1)～(3)に関する発信(各事業と連携)…各種ウェブ媒体の活用・連結			・市民が市民活動の情報に触れる機会が増えている。 ・得た情報をもとに、地域での活動や課題の解決に向けたアクションを起こす市民が増えている。	【情報発信】

3. 多賀城市市民活動サポートセンター 令和5年度事業計画

ロードマップに基づき、令和5年度の事業計画を立案した。

2023年3月

大事業	小事業	主な目的	プログラム案	主な対象	本数	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
(1) まちをともに創る人 を増やす事業	1 TSC運営への市民参画 機会創出事業	市民と一緒に地域の状況を共有し、課題を設定し、めざすまちの姿を描き、解決に向けて必要なアイデアを出し合い、TSCの事業案に落としていく場づくりに取り組み始めることで、主体としての市民を増やす。	1)話し合いの場づくり(課題はTSCが設定) 2)TSCの取り組みに活かす	市民活動団体、自治会・町内会、事業者、学校等の地域のさまざまな主体	2			話し合い場●								話し合い場●	
	2 多賀城のまちの未来を描く フューチャーセッション事業	市民が主体となり、多賀城のまちについて考え、課題を設定し、実現可能な対応策を考える場(＝フューチャーセッション)を重ね、市民提案として市と話す場をつくることで、考え行動する市民を増やす。	1)フューチャーセッション+Taga懇話会 2)課題テーマ型セッション 3)発信(情報発信事業と連携)	市民活動団体、自治会・町内会、事業者、学校等の地域のさまざまな主体	1～2							●					●
(2) 関わりしるを増やす 支援事業	3 自治会・町内会等の関わり しるを増やす支援事業	コロナ禍から活動を再開する自治会・町内会の支援をきっかけに、既存の取り組みの棚卸の支援、既存の活動の見直しや新たな取り組み開始の支援を行うことで、持続可能な地域運営につなげる。	1)既存の取り組みの棚卸の支援、既存の活動の見直しや新たな取り組み開始の支援 2)地域学：市民が自分の住む地域のことを知り、発信することをサポート 3)自治会・町内会の取り組みヒアリング・発信事業 4)テーマ型自治会・町内会情報交換会	自治会・町内会＋潜在的活動者 市民活動団体	4	町内会 ヒアリング・ 発信			実践夏祭り●		実践敬老会●		実践防災●		情報交換会●		
(3) 新たな地域の担い 手発掘・育成事業	4 次世代活躍事業	小中高生などが地域に関わる機会を創出したり、情報提供やコーディネートを行うことで、新たな地域の担い手育成を進めていく。	1)きつず講座(雑貨市事業と連携) 2)中学校のボランティアコーディネート支援の模索(町内会事業と連携) 3)高校のボランティア活動支援の模索 4)中高への市民活動に関する授業提案	小中高高校生など 未来を担う世代	4	学校提案			実践夏祭り○	きつず①●	きつず②●	きつず③●	LABO●	実践防災○	雑貨市○		
	5 市民参画促進事業	・関わってみたら楽しく、まちがもっと好きになるような多様な取り組みを既活動団体と一緒に増やしていく。 ・市民活動に参加する入口をより多く示し、活動に関わる人を増やす。	1)雑貨市 2)NPO体験いちから塾 3)ボランティア講座(NPO事業と連携) 4)多賀城市内のイベント等への出展 5)関わりしるを増やす仕掛け	市民 (無関心層、役に立ちたい層、何かしたい層)	5	仕掛け		いちから塾①●	ボラ講座●	体験●			ボラ説明会○	雑貨市●	いちから塾②●		
(4) NPO支援事業	6 NPOつながり支援事業	・自団体の強み弱みを知り、団体運営力のアップを図るよう支援することで、他団体や市民とつながり、団体を理解し支援する人や連携する団体が増える。 ・ボランティア情報の収集と発信を行うことで、市民活動に関わる市民を増やす。	1)インキュベーター伴走支援 2)運営力、発信力アップ講座 3)NPOプレゼン交流会 4)NPO・市民活動ボランティア支援	NPO・市民活動団体、市民(ボランティアしたい層)	4	ボランティア コーディネート			講座①●	イン●		講座②●		イン●	NPO交流会●		イン●
(5) 情報発信事業	7 フリーペーパー「tag」発行/ 情報発信事業	市民活動や連携に関する発信を行うことで、市民が市民活動に触れる機会を増やす。	1)フリーペーパー「tag」発行(隔月A4両面) 2)連携に関する発信や大事業の(1)～(3)に関係する記事を取り上げる。 3)さまざまな手段での情報発信(他事業との連携)	活動者 潜在的活動者 無関心層 受益者	6		●		●		●			●		●	